

活動年鑑 18

2022.5- 2023.4

青年技術士支援委員会

活動年鑑 18 2022.5 - 2023.4

目次

- ・青年委員会 2022 年度活動報告
- ・例会グループ活動報告
- ・広報プロジェクト活動報告
- ・IT 担当活動報告

【CPD 行事活動報告書】

- ・2022/5 部門横断企画 「熊本城復旧を取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方」
- ・2022/6 拡大委員会、大懇親会
- ・2022/7 部門横断企画 「英語ワークショップ」
- ・2022/9 部門横断企画 「会議を描こう！グラフィックレコーディング初級編」
- ・2022/10 部門横断企画 「御意(ぎょい)じゃダメ！合意形成～合意形成について学ぼう～」
- ・2022/11 部門横断企画 「激甚化する気象災害」
- ・2023/1 部門横断企画 「専門分野をわかりやすく伝えよう！」
- ・2023/2 部門横断企画 「今日から君もコンサルタント！技術経営 入門編」
- ・2023/4 特別企画 「一次・二次試験合格者交流会」

【地域本部活動報告書】

- ・統括本部
- ・北海道本部
- ・東北本部
- ・北陸本部
- ・中部本部
- ・近畿本部
- ・中国本部
- ・四国本部
- ・九州本部

【青年委員自己紹介】

【青年委員会名簿 2022/7-2023/6】

青年技術士支援委員会 統括本部 2022 年度活動報告

青年技術士支援委員会 委員長 河野恭彦

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されている。また、委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含む。

昨年度 7 月から本委員会の活動体制に加え、委員会名称（変更前は青年技術士交流委員会）、活動所掌の変更に伴い、若手正会員向けを中心とした研鑽事業の企画・実施・指導といった活動を継続して実施してきた。2022 年度においては、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響が緩和されてきた状況を鑑み、オンラインを中心とした活動から、感染症対策を講じながら対面での活動へ少しずつシフトしていった。主な活動を以下に記す。

1. 各種 CPD 行事の開催

本委員会の CPD 行事は、主として、参加者自身がアウトプットすることを通して研鑽できる場、参加者同士が交流できる場を提供することを目的に、グループワークや講演会を月に 1 回程度の頻度で開催した。

2021 年 3 月より対面での CPD 行事開催を見送っていたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響が緩和されてきた状況を鑑みながら、オンラインを中心とした活動から、感染症対策を講じ、対面での活動へと少しずつ切り替えていった。

また、各 CPD 行事の準備状況、当日の状況といった各活動の内容については本委員会 HP に公開するとともに、プレスリリースを行い、本委員会の活動の広報も行った。

2. 1 次・2 次試験合格者交流会

2022 年度は、例年開催している本委員会主催『1 次・2 次試験合格者交流会』を昨年度に続き、オンライン形式で開催した（2022 年 4 月開催）。

1 次・2 次試験合格者及び JABEE 認定者（いずれも 45 歳以下に限定）を対象に交流の場を提供した。本交流会では、合格者同士の人脈形成を支援するとともに、技術士会への入会並びに本委員会への参画（地域本部同士の交流の活性化も含む）に向けた導線強化を図ることができた。

3. 各地域本部の青年技術士交流委員会との交流

2022 年 6 月 25 日に、各地域本部の青年技術士交流委員会とのオンラインと現地開催（統括本部の担当者及び各地域本部の参加希望者のみ）のハイブリッド形式で拡大委員会を開催した。

これまでの CPD 行事で 1 つの会場に多くの現地参加者が集まることでハウリングなど

により、会の進行に支障が出たことがあった。そこで、複数及び広い会議室を確保し、参加者を分散させることで通信環境の改善を図った。今後の CPD 行事においてもハウリングなどのノイズが入らないような配慮が必要になってくると思われる。

なお、本会における地域本部活動報告では、各地域本部の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として行われ、また懇親会では、統括本部と各地域本部の青年委員の交流を図ることができた。今後も継続して実施し互いの新たな学びの場として活かしたい。さらに、統括本部や各地域本部が主催する CPD 行事等にそれぞれの委員が参加して交流を深めた。

今後は対面形式での開催やオンラインテクノ等も追加して実施することも検討することで、さらなる拡大委員会の質の向上に期待したい。

4. 大規模 CPD 行事の新たな試み～11 月 CPD 行事「激甚化する自然災害」～

外部講師 3 名（奥野氏、今井氏、南氏）をお招きして、本委員会初の Zoom Webinar を用いたハイブリッド形式での CPD 行事を開催し、現地及びオンラインを含めて 100 名を超える参加となった。

外部講師からは、①リアルタイムでの防災利用を目的としたクラウド型洪水予測システム(奥野氏)、②信濃川・大河津分水路の建設の歴史や次の 100 年に向けた大改修(今井氏)、③気象災害への備えとして、現在の気象は今までに経験したことがない状態となっているとの説明に加え、「線状降水帯」や「記録的短時間大雨情報」といった近年注目を集めたキーワードや天気予報の判断過程について(南氏)、それぞれご講演をいただいた。本 CPD 行事は北陸本部の青年委員会と協力して企画したものであり、そのほかにも建設部会および応用理学部会で開催告知をさせていただいた。これまでにない本委員会としての大規模なイベントで、今後の本委員会での CPD 行事の活動に大いに参考となる、素晴らしいイベントであったように思える。

なお、Zoom Webinar (1 か月ライセンス使用料) においては、研修委員会のご協力により、企画委員会に期中予算を申請して使用を許可いただいた。ここで培ってきたノウハウは今後の青年委員会の活動に活かしていきたい。

5. 情報配信の取り組み

本委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2021 年度青年技術士支援委員会活動年鑑を制作した。

また、本委員会のホームページ、Facebook および Twitter を活用し、活動紹介、主催行事の事前及び事後報告を積極的に行った。ホームページは日本技術士会サーバーへ所定のフォーマットで作成し、プレスリリースの記事や当委員会の活動報告を掲載し、ブログへのリンクも上手く行えることができた。

また、従来に続き、メディアを活用した活動情報の更なる配信を目指し、CPD 行事活動

のプレスリリースを継続して実施した。建設通信新聞社等の複数の新聞社に取り上げられてきている。

6. IT インフラの整備

本委員会の IT インフラで利用している機能について事務局と情報共有、議論を定期的に行ってきた結果、これまでの本委員会で利用及び構築したインフラで当面の間、運用を行っていくこととなった。より良い方法があれば、今後積極的に事務局に提案していきたいと考える。

7. 青年委員会の規則の改正について

本委員会の活動所掌、組織名称の変更に伴い、青年技術士交流委員会の運営の特例に関わる規則の改正を行った（令和 5 年 5 月 10 日理事会承認済）。また、本委員会の内規も合わせて改正中である（令和 5 年 7 月初旬施行予定）。いずれも約 8 年ぶりの規則の改正であり、次期の本委員会への引継ぎにおいても大変重要な活動であったと考える。

以上

例会グループ活動報告（2022年5月～2023年4月）

例会グループリーダー 吉浦 勝一郎

1. 例会グループメンバー（敬称略、順不同）

- ・吉浦、一川、大園、佐藤、水柿、吉岡
- ・徳原、原田、三谷、村上
- ・白井、後藤、
- ・明山、杉山、高瀬、山本

2. 活動目的

ウィズコロナ時期(オンラインのみに限定した CPD 行事の開催)から、アフターコロナへの転換を想定しつつ、円滑に CPD 行事が運営できるサポートを目的とした活動を実施した。

- ・年間 CPD 行事の計画と進捗確認
- ・CPD 行事準備状況の確認
- ・CPD 行事の参加者へのアンケート(外部アンケート)の実施と集計
- ・青年委員に対する CPD 行事へのアンケート(内部アンケート)の実施
- ・運営上の問題点の改善・周知、マニュアルの作成

3. 例会グループの活動実績

1) 例会チームの体制見直し

以前は、各 CPD 行事に 1 人の主担当を決めて運営していたが、主担当の負荷が大きい事や、主担当が不測の事態で開催できない等のリスクがあった。

そこで前年度からの取り組みとして、チーム制とし下記のような運営方法に刷新した。

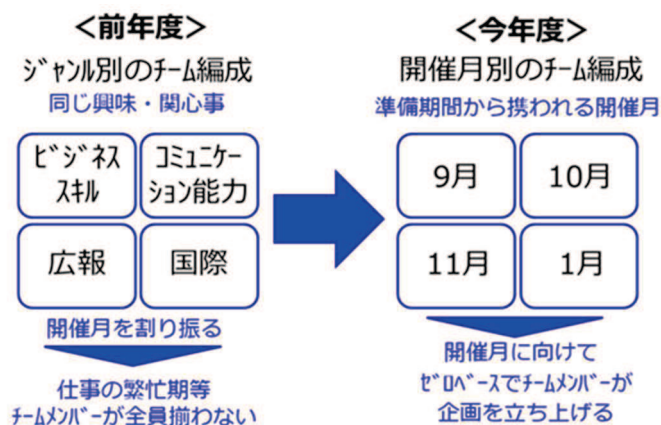
- ・CPD 行事のジャンルを 4 つに分け、青年メンバー全員が自分の興味や関心のあるジャンルを選ぶ
- ・ジャンルごとに 4 つのチームを作り、開催月を割り振る
- ・チームメンバーで協力して企画から運営を行う

この運営方法でコンテンツに偏りなく計画通りに開催ができたものの、各チームの行事開催月の調整（会社の業務の繁忙期など個人の都合）が難しく、ミーティングや活動に参画するのが困難なメンバーも見受けられた。

そこで今年度は、チーム制を維持しつつ、下記のような見直しを行った。

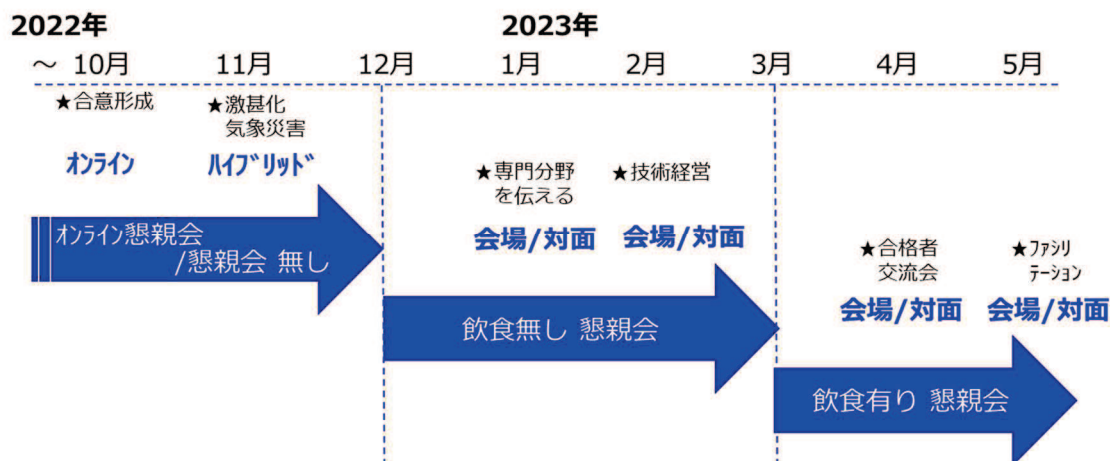
- ・まず始めに CPD 行事の開催月を決め、準備期間を含め参画できるメンバーで構成する（開催月単位のチームを編成）
- ・チームメンバーがジャンルを問わずゼロベースで議論し、企画から練り上げる
- ・各チームの進捗状況やミーティング内容をビジネスチャットツール（Slack）で共有し、各月のコンテンツに偏りがないようにした

なるべくメンバー全員が参画できるようにチームを編成し、チームビルディングによる開催目的の共有や役割分担、コミュニケーション活性化による心理的安全性の向上の効果も狙いつつ例会チームの体制を見直した。



2) 対面活動の段階的再開

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更等社会情勢や感染状況を見極めつつ、マスク着用、消毒、換気に加え、検温、フィジカルディスタンスの確保等、感染拡大を防止する対策を実施し対面活動を段階的に再開した。



3) 新規委員の獲得に向けた取り組み (任期满了による2期目の委員退任/委員入れ替え期)

行動制限の緩和により対面で行事参加者と接する機会が増え、オンラインでは味わえない臨場感を味わいながらの交流を徐々に出来るようになってきた。それに伴い青年活動の魅力もより伝わりやすく、勧誘しやすい環境が整ってきた。

青年の活動に共感し、積極的に参画する意思がある参加者を勧誘対象とし、以下のような取り組みを行った。

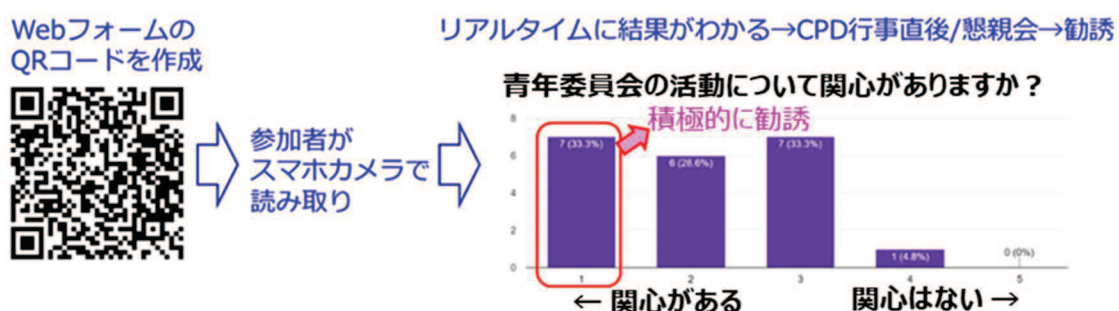
- ・申し込みに年齢制限を設けた CPD 行事の募集

CPD 行事を新規委員の獲得の貴重な機会として捉え、45 歳以下（青年委員候補）に限定した CPD 行事を数多く行った。

- ・Web フォームアンケート(グーグルフォーム)の活用

CPD 行事の開催中にグーグルフォームによるアンケートを実施し、「青年活動へ興味を持っているか」という旨の項目を追加した。

Web フォームのアンケートにより、リアルタイムで結果を知る事ができ、CPD 行事直後や懇親会場で、興味を示している参加者に積極的に勧誘を行う事ができた。



- ・一次・二次合格者交流会の対応

合格者交流会は、参加人数が多く、新規委員の獲得に繋がりやすい。また1期目の委員は、来期から共に活動していく委員を獲得できる機会となるため、1期目の委員が主体となり合格者交流会の運営を/対面で行った。対面での CPD 行事や懇親会は、オンライン開催に比べ段取りや当日の対応等で委員の負担が大きく違って来る。

1期目の委員にとっては、時期的に会場/対面での開催経験が少なく、2期目の委員から助言やバックアップを受ける事ができる期間に対面で開催できた事は、貴重な機会となった。今後の対面開催に向けて良い弾みをつけることが出来た。

4. CPD 行事の実績

2022 年度に実施した CPD 行事は以下の通りである。

実施年月	分類	CPD行事
5月	部門横断	熊本城復旧を取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方
7月	部門横断	英語ワークショップ
9月	部門横断	会議を描こう！グラフィックレコーディング初級編
10月	部門横断	御意（ぎょい）じゃダメ！合意形成～合意形成について学ぼう～
11月	部門横断	激甚化する気象災害
1月	部門横断	専門分野をわかりやすく伝えよう！
2月	部門横断	今日から君もコンサルタント！技術経営 入門編
4月	合格者向け	一次・二次合格者交流会

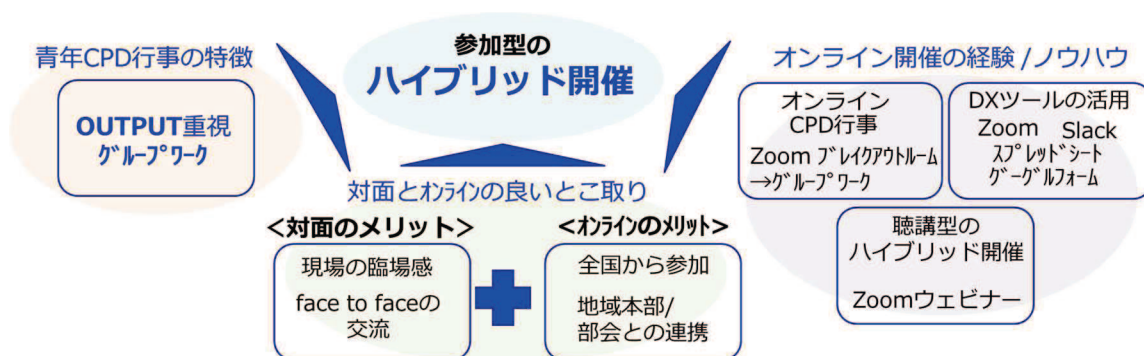
5. 次年度に向けて

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンラインに限定した CPD 行事開催から、段階的に会場/対面の行事を再開できる期となった。久しぶりの会場/対面の再開を待ち望んでいた参加者も見受けられ、会場の臨場感を参加者と共に味わう事ができた。ただ、会場/対面の望む参加者がいる一方、オンライン開催時は、全国から気軽に参加が出来るメリットがあった。

アウトプットを重視する青年の行事において、オンライン開催で培った運営のノウハウ (Zoom のブレイクアウトルームを設定したグループ分けや、共同編集できるワークシートを使ったグループワーク等による参加型の CPD 行事) は、今後も大切にしていきたい。

例えば、青年の活動の目的の一つに「部会及び地域組織における若手正会員層との連携による研鑽活動の活性化」があり、オンライン開催では、物理的な距離の制約がないため気軽に地域組織との連携も可能となる。

次年度は、アウトプット重視の行事開催を念頭に置きつつ、対面とオンラインのメリットを活かした参加型のハイブリッド開催にもチャレンジしていきたい。



以上

青年技術士支援委員会 2022 年度 広報プロジェクト活動報告

広報プロジェクト リーダー 岩部 然育

1. 目的

一昨年度より、広報グループの目的であった外部向け広報活動と、内部メンバー間の情報共有を分離し、前者を広報プロジェクト（以降広報PJ）、後者をIT担当と位置付けて活動を行った。広報PJでは、青年技術士支援委員会（以降、委員会）の活動内容の技術士会内部・外部への発信、CPD 行事への集客、プレゼンスの向上を目的として活動を実施した。

2. 活動方針

広報活動をする上で、活動方針、活動の実施方法を以下に定めた。

1) 活動方針

1. 青年技術士支援委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外にPRする。
2. 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的にPRする。
3. PR 対象は、日本技術士会内部（他委員会、各部会、事務局、正会員、準会員）及び関係学団体、一般の若手技術者、一般の企業及び公共団体とする。

注：ここでいう活動及び成果は、当委員会主催の活動及び委員会代表として参加した企画を指す。

2) 実施方法

1. CPD 行事予定表、月刊技術士の掲載。
2. 同報メールによる情報発信
3. 公式ブログ、Facebook、Twitter 等の SNS を使った情報発信。
4. プレスリリースの投稿等による、報道機関を通じた広報活動。

3. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ (<https://www.engineer.or.jp>)、月刊技術士誌を使用し、CPD 行事開催情報等を発信した（行事内容の詳細は CPD 行事活動報告参照）。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

3年前から建設系 CPD 協議会 (<https://www.cpd-ccesa.org/>) へ CPD 行事内容を掲示し、CPD 行事開催情報を配信した。今年度は、行事予定表からの申し込みとは別に例会グループと協力して、Google フォームでの参加者募集・集計も行った。

今年度は、11月 CPD 行事、5月 CPD 行事において、CPD 行事内容を掲示して情報を配信・共有した。

2) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

昨年度に引き続き、イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行えるように環境を整えている。昨年度から継続している取り組み、本年度新たな取り組みとして以下を実施した。

① CPD 行事内容のプレスリリース

CPD 行事の開催案内、開催結果をまとめたプレスリリースの作成と建設系新聞社へのリリースによる広報活動を実施した。リリース作成企画と新聞掲載について下表にまとめた。

また、拡大委員会、7月CPD行事は、建設工業新聞社（記者）より直接問い合わせもあり、今後もCPD行事の開催案内、開催報告について広報活動を行う。

なお、プレスリリースについては、河野青年委員長より河津研修委員長、笹口広報委員長にCPD行事終了後のプレスリリース原稿を事前に確認の連絡を行い、内容確認後、報道関係者へ配信する流れとした。

リリース作成 CPD 行事	リリース先	掲載新聞社
5月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設工業新聞
拡大委員会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設工業新聞
7月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞、建設工業新聞
9月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
11月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
1月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
2月CPD行事	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
4月合格者交流会	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞

②CPD 行事内容の広報チラシの配布（継続実施）

例年実施しているが、合格者宛て郵送物に同封する合格者交流会の広報ビラを委員・委員補佐から各所属会社、学団体の合格者へも配布することで、同じコミュニティ内の合格者に向けた広報活動を実施した。

4. SNS の状況について

■ フォロワー数

Facebook のフォロワーが昨年の約 493 人から 517 人に増えたが、昨年よりも全体的に閲覧者が減少していること、閲覧者における関係者（青年メンバー、OB・OG 含む）の割合は比較的多いため、新規フォロワー確保が今後の課題と考える。

	(2023 年)	(2022 年)	(2021 年)	(2020 年)	(2019 年)
フォロワー数	517	494	428	353	—

* 2022/5/23 現在のフォロワー : 517 人

5. 今後の活動・展開

既存媒体、外部メディア（新聞掲載）を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。プレスリリース、宣伝のビラなど掲示等新たな広報活動を継続して行ったことにより 2022 年度において、引き続きオンライン中心の CPD 行事から対面での行事を徐々に拡大し、オブザーバー等の人数が増えつつあることと、若手世代の参加者の増加傾向がみられた。

今後は、今年度定めた活動方針のもと、委員会活動を技術士会内だけではなく、外部への情報発信と国内の学団体、各部門に関連する協会の若手の会や委員会など、同世代で構成されている団体と連携・コラボを行い、更なる飛躍に向けたサポートを行う。そのために、以下の項目についてプロジェクトメンバー、委員会内で議論・検討を深めていく。

- ・ 委員会活動をプレスリリース、YouTube を活用した PR
- ・ 地域本部と広報活動における連携強化
- ・ 各委員、委員補佐の学団体、関連協会とのコラボレーションや相互の意見交換の活性化
- ・ 新委員も含めた名刺の作成と各メンバー所属コミュニティへの広報活動
- ・ ブログ・Facebook の閲覧数増加のための工夫（映え）・コンテンツ強化
- ・ Twitter での広報・宣伝活動の強化
- ・ オンラインサロン（現在参加者 67 名）を活用した地域連携、参加者とのネットワークのさらなる構築

以 上

青年委員会 2022 年度 IT 担当活動報告

IT 担当 一川 雄一

1. グループメンバー（五十音順）

一川、佐藤、三谷

2. 活動目的

前期に引き続き、IT 基盤の維持及び内部メンバー間の情報共有を目的として活動を行った。今期活動では、技術士会公式 HP への青年 HP 立ち上げに注力した。

3. 今期活動と成果

① サーバ保守

青年ブログやマニュアルの Redmine、ファイルサーバの OwnCloud に利用しているサーバの維持・管理、及び以下の契約更新・サーバ設定対応等を実施した。

用途	契約先
ドメイン名 (peyec.jp)	VALUE DOMAIN
SSL 証明書	さくらインターネット
サーバー (東京)	さくらインターネット
サーバー (大阪) バックアップ	さくらインターネット

② ML (メーリングリスト) の整理・管理

年度変更等に伴い、ML の全体的な更新や用途に応じた新しい ML の作成及び管理を行うとともに、ML の適切な運用に努めた。また、迷惑メール対策 (Postfix の設定変更) を実施した。

③ アカウント管理

年度変更等に伴い、管理者アカウントや IT 基盤の利用者アカウントの棚卸、例会担当用 ML や参加者用 ML への登録アドレスのメンテナンスを適宜行った。

④ IT インフラに関する事務局協議対応

2021 年度に日本技術士会事務局と協議し、以下の方針を合意している。

機能	方針概要
ホームページ/ブログ	技術士会公式 HP を活用し、青年独自 HP はブログに特化
ファイル共有	現行サービスを利用継続
メーリングリスト	現行サービスを利用継続
Web ミーティング手段	技術士会予算を利用する場合、Teams を利用

上記方針に従い、青年 HP (https://www.engineer.or.jp/c_cmt/seinen/) を技術士会公式 HP に立ち上げるとともに、以下の対応を実施した。

- 青年独自 HP (<https://peyec.jp>) を修正し、ブログに特化
- プレスリリース掲載手順について、マニュアルを作成

Web ミーティング手段は、委員長を中心に調整を図り、2023 年度予算として「Zoom の利用」が認められた。

4. 今後の活動・展開

次年度も引き続き IT 基盤の維持・運用を行うとともに、老朽化したインフラ対策の検討を進める予定である。

以上

CPD 行事活動報告書

行事名	5月例会:熊本城復旧を【取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方
日時	2022年5月28日
場所	オンライン(Zoom)、機械振興会館 211・6-60 会議室(運営スタッフ)
講師	講師:飛松佐和子氏(熊本日日新聞)
担当者: (○印:リーダー)	○岩部、三谷、村上、一川、高瀬、山本(記)
参加者数	【講演・グループワーク】30名 【懇親会】12名 (委員含む)

1. 背景・目的

一般公衆への情報を伝えている新聞記者に、熊本城復旧について取材された内容および情報配信で心がけていること、取材を通して感じた技術者に対する思いを講演いただき、これにより技術士コンピテンシーのうち、コミュニケーション(一般公衆への情報の伝え方)を学ぶ。

2. 例会内容

2. 1. 講演

13:30-13:40 開会挨拶、概要説明、講師紹介

13:40-14:40 講演(「ご存じ? 熊本城」飛松氏)・質疑

2. 2. グループワーク

14:50-15:05 グループワーク説明

15:05-16:30 グループワーク

グループワーク1 自己紹介、アイデア出し

グループワーク2 アイデアの掛け合わせ

成果発表

講評

16:30-17:00 記念撮影、アンケート入力、CPD 票配布、青年紹介、例会案内、閉会挨拶

2. 2. 懇親会

17:30-16:00 懇親会

3. 成果と所感

今回の参加者は同報メールからの参加が約 75%、初参加は約 30%であった。オンライン開催は会員に限定されていたことが、初参加者が少ない要因ではないかと考えられる。

講師には事前に入室し、音声・スライド共有の確認を行うことで進行がスムーズとなった。

講演では熊本城の復興の過程の記録、一次情報の重要性等の内容となり、異業種からの貴重な内容となり、参加者からの評価も高かった。

グループワークは2回実施し、1回目では自己紹介および新聞記者の特徴を挙げた。2回目では1回目で挙げた新聞記者の特徴に対し、技術士の認知度を向上させる方法の掛け合わせを行い、認知度向上の方法を導き出した。

一方で、現地会場にて音声が干渉することがあり、部屋の規模と参加人数、グループワークの組み合わせから誰をどの部屋に配置するかなどを検討する必要がある。

また、CPD 票のミスがあり、事前確認を十分に実施する必要性が認められた。

懇親会では、青年委員会のイベントに複数回参加している方が多く参加することとなり、青年委員会の活動に興味を持っていることがうかがい知れた。

4. 今後の展開

今回の参加者は青年委員会のイベントに複数回参加している方が多く、初参加者を増やしていく必要があると感じた。

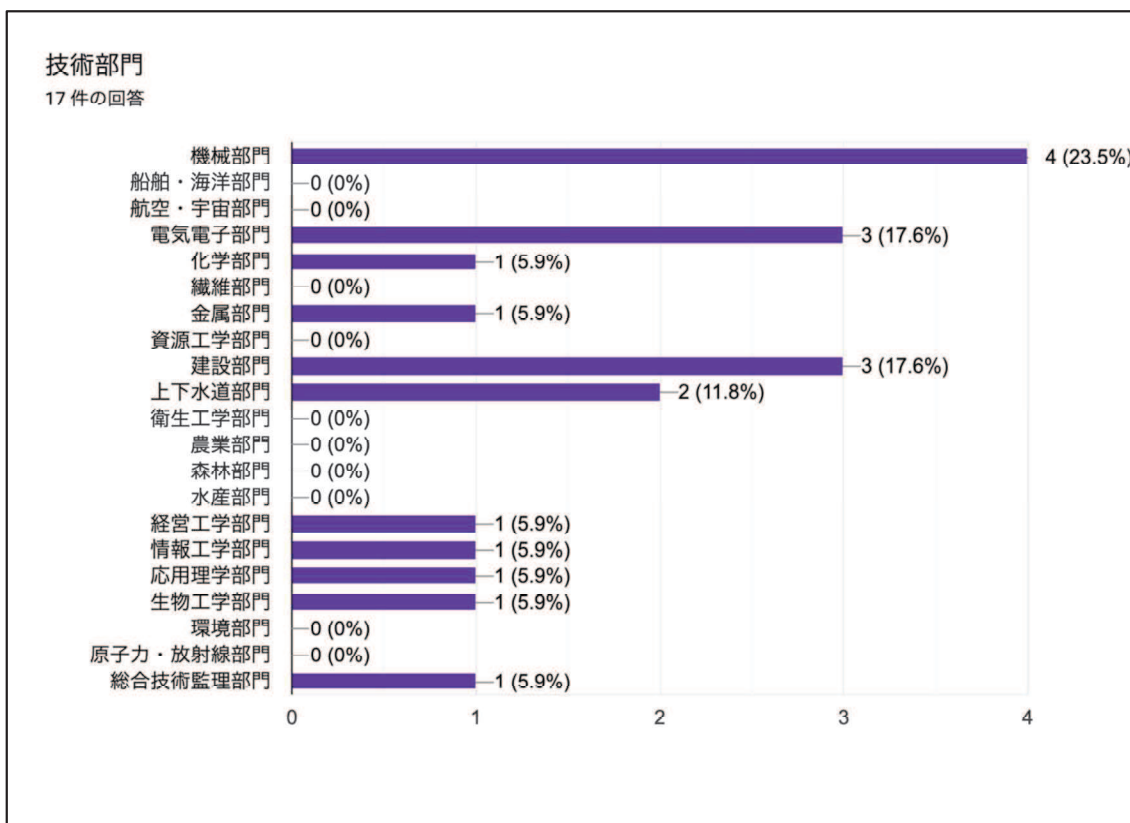
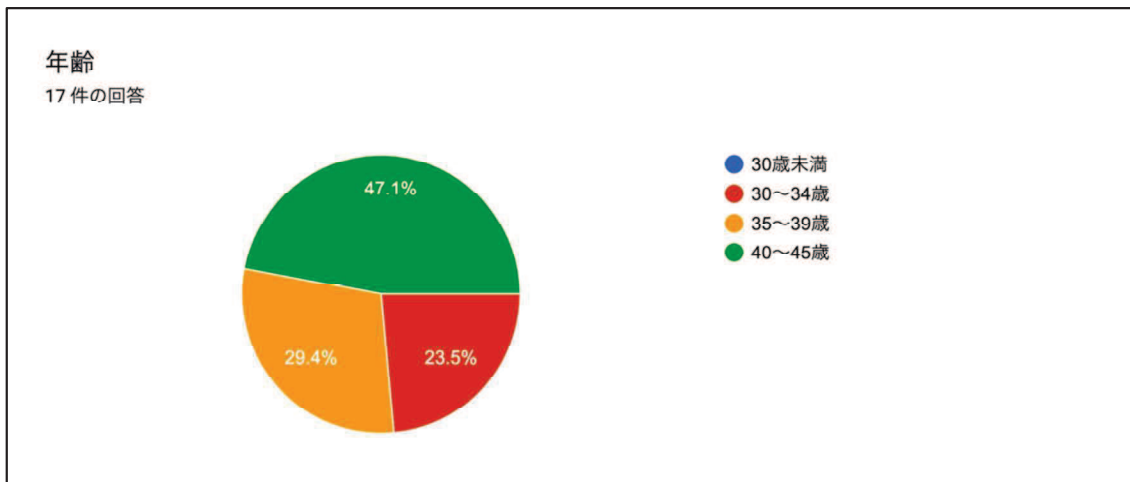
異業種との例会の開催は、双方の刺激にもなることから、今後も実施できれば良いものと考えられる。また、参加者の興味を引く内容になると考えられることから、今後の集客力にも期待が持てる。本例会では情報の発信者としての意見を伺うことができ、参加者や青年委員会の今後の活動に活かされるものと期待される。



【外部アンケート結果】

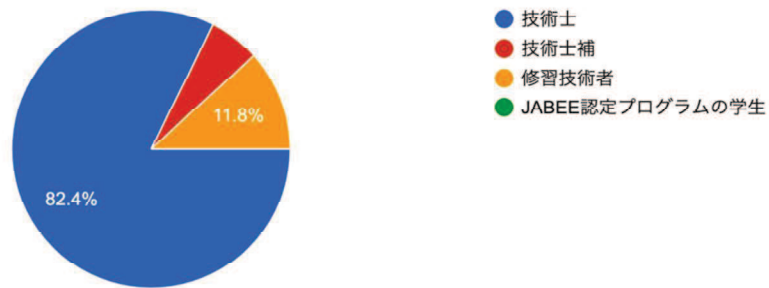
2022年5月例会アンケート結果

Q1. あなたご自身について教えてください



技術士の区分

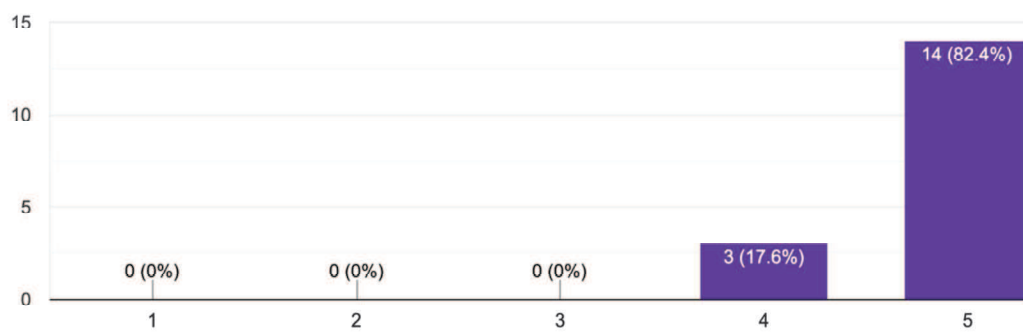
17件の回答



Q2. 今回のイベントについて

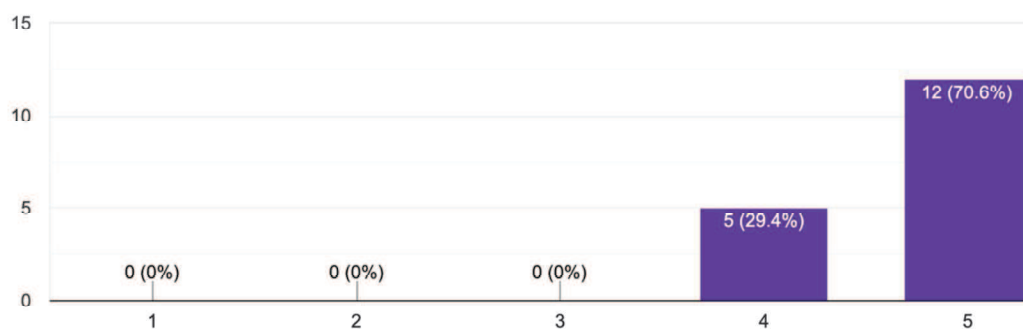
1. 本日の講義内容はいかがでしたか

17件の回答



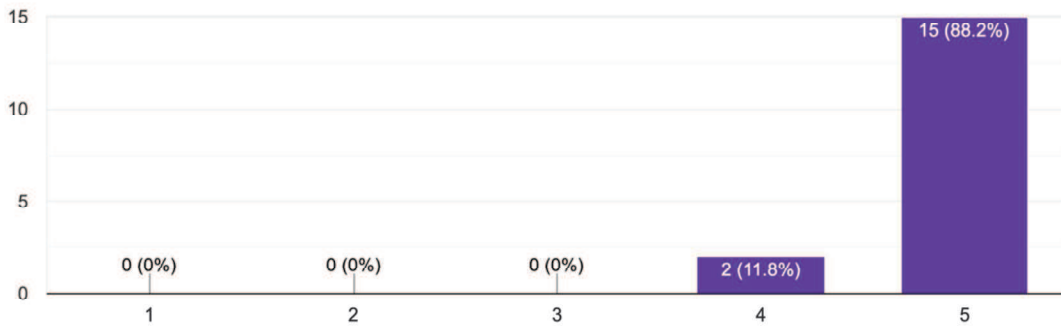
2. 講義の資料はいかがでしたか？

17件の回答



3. 講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

17件の回答



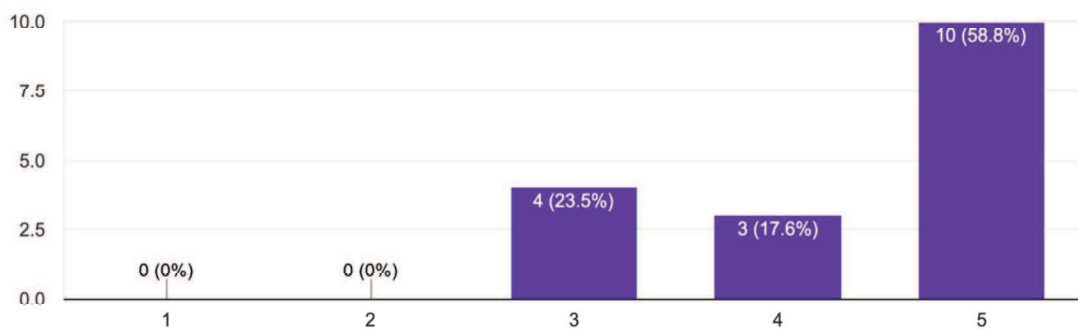
4. 講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

5 件の回答

- 内容とグループワークが大変よかったです。
- 熊本城の復旧・復元には時間がかかるという話だったが、思ったよりも早く復旧しているので驚いた。
- 普段、交流のない新聞記者の方のお話を聞くことができ、貴重な機会を得られて良かった。
- 貴重なお話をありがとうございました。異業種ということもあり、記者の方の考え方などとても参考になりました。
- オンラインだと話者も資料も見やすかった。

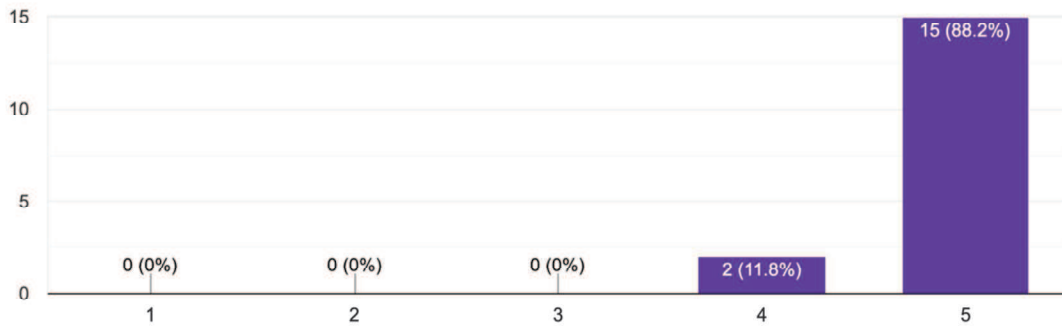
5. グループワークの内容はいかがでしたか？

17件の回答



6.グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

17件の回答



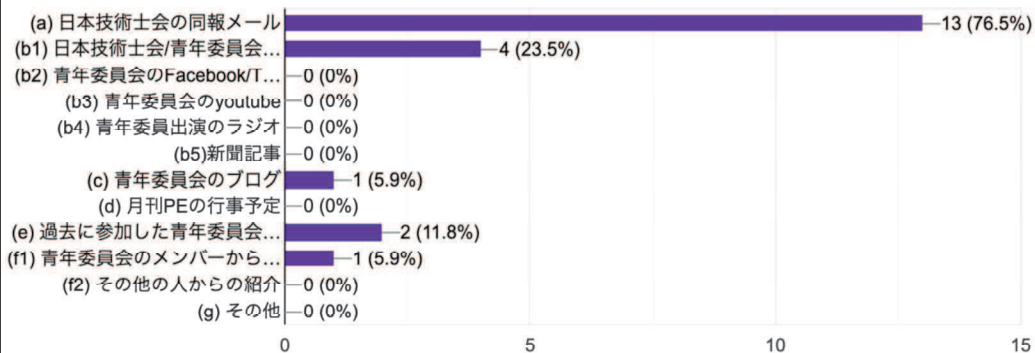
7. グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

3件の回答

- 実際にワークショップでのアウトプットが外部に活かされると面白いと思う。
- 適切な人数だったと思います
- グループワークの時間が長い

Q3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの。

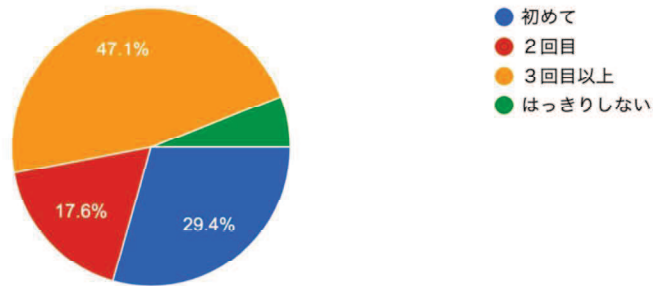
17件の回答



Q4. 青年委員会のイベントについて

統括本部の青年委員会のイベント参加は初めてですか？

17件の回答



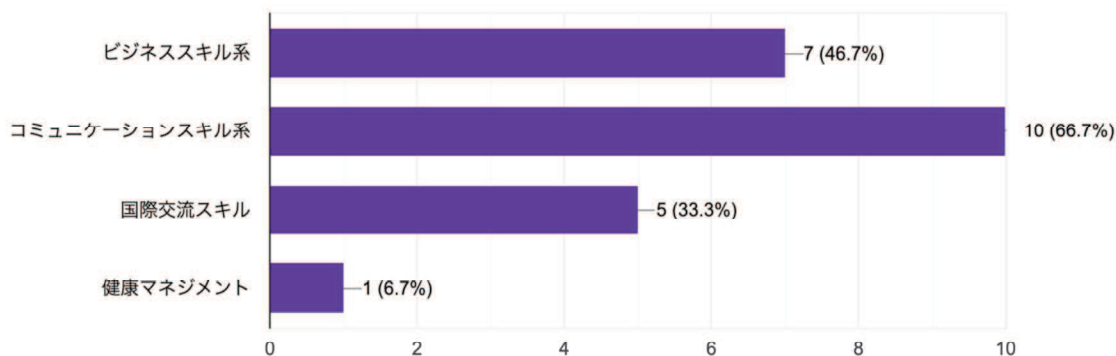
2回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。（任意）

3件の回答

- ストレngthスファインダー
- ストレngthスファインダーの解説が面白かったです
- 今回の内容は印象に残ります。

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。

15件の回答



青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

2件の回答

- コロナが落ち着いてきたので対面のイベントが増えていくと嬉しい
- ありがとうございます。

青年委員会ではスタッフ（45歳以下）を募集しています。青年スタッフのイベント運営に興味がある方はご記入をお願いします。

3件の回答

- 興味があります
- 青年委員会のイベントに半年間程度参加させていただきまして、非常に素晴らしい活動だと感じています。イベント運営について、お手伝いできることがあれば、参加してみたい気持ちを持っています。
- どのようなことをやっているのか興味があります

行事名	6月拡大委員会 & 各地域本部交流会、懇親会
日時	2022年6月25日(土) 【拡大委員会】13:00～14:10 【各地域本部交流会】14:20～17:10 【懇親会】18:00～20:00
場所	拡大委員会、支部交流会、懇親会：ZoomによるWeb会議
担当者： (○:主担当)	○河野、吉岡、岩部、高木、原田、吉浦、村上、大園、三谷、徳原、大川 例会G担当：吉浦
司会、報告者等	青年総会：司会 三谷、議長 河野委員長、会計 吉岡副委員長 地域本部活動報告：藤井副委員長、高橋委員長、石田副委員長、成田副委員長、藤内委員長、新淵委員長、白鳥委員長、山田委員長
参加者数	青年総会：28名(オブザーバ参加者含む、委任状提出者7名含まず) 本支部交流会：50名、懇親会：36名 ※懇親会にはOB/OG4名を含む

1. 背景・目的

地域本部間の意見交換および交流を目的とし、拡大委員会での青年総会、地域本部活動報告および懇親会を実施した。

2. 内容およびタイムスケジュール

13:00～14:10 拡大委員会

14:20～17:10 各地域本部交流会_全地域本部活動報告、
全国大会の告知2022,2023、広報活動紹介、7月期イベント紹介(北海道本部・統括本部)、初参加者の自己紹介、集合写真

17:10～17:50 各自お酒、おつまみ買い出し(休憩)

18:00～20:00 懇親会

3. 成果と所感

3-1. 開催環境

今回は、統括本部の担当者及び各地域本部の参加者(希望者のみ)は機械振興会館に集まり、それ以外の参加者についてはオンラインでの参加とした。通信環境の状況により、会の進行に影響が及ぶ恐れがあったが、当日は機械振興会館に主な担当者が集まることでリスクは回避できたと考えられる。今後もハウリングなどのノイズが入らないような配慮が必要になってくると思われる。

ZOOM ミーティングの入室管理については、注意事項を各地域本部委員長に周知していたこと、そして現地参加

者及び Zoom 入室者の管理者は事前に作成していた参加者名簿を見ながら確認を行ったため、当日の運営に大きく問題はなかったと思われる。

3-2 拡大委員会（総会）

拡大委員会（総会）は、滞りなく議事に沿って進行することができた。昨年度の統括本部における活動内容と収支実績、および今年度の活動予定と予算に関して全委員から承認を得た。質疑応答においては、統括本部の所掌変更、主に予算内容について各委員からコメントを頂いた。質疑応答が予想以上に活発となり、当初予定していた開催時間を超過することになった。

3-3. 各地域本部交流会

統括本部及び各地域本部から昨年度の活動報告を行った。活動報告を通して、各地域本部において魅力的なイベントの紹介や統括本部から今年度の活動報告を共有することができた。また、各活動報告が終わった後は藤内委員長、成田副委員長より全国大会 2022、2023 の告知、岩部副委員長より広報活動の紹介、村上委員より 7 月例会の紹介、平岡副委員長より北海道本部の 7 月イベントの紹介をして頂いた。最後には初参加者による自己紹介を取り入れた。全体としては大きな問題もなく、無事に会を終えることができたが、今回は全員への告知が多かったため、予定していた時間を超過することとなった。

各発表においては活発な質疑応答が行われ、時間管理も適切にされていたことからその点は良かったものの、今後は発表後の告知事項はもう少し絞り込んでも良いと感じた。

4. 今後の展開

昨年に引き続き、統括本部の各担当の多大な協力もあり、会はスムーズに進行することができ、また良い交流の場になったものと全体のアンケート結果からも読み取ることができた。特に、地域本部活動報告は各地域の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として行われており、今後も継続して実施し互いの新たな学びの場として活かしたい。

改めて大きな作業を行う際には、プロジェクトチームを編成し、各チームでそれぞれのタスクを進めながら、進捗をコア会議で確認し、行ったことは昨年度の全国大会からも効率的であったので、今後も可能な限り取り入れていきたい。今回は可能な限り、対面形式に取り組んだが、来年度はコロナの状況を見て、従来通りの拡大委員会に開催できることを祈りたい。

5. 実施状況



拡大委員会の様子（現地：機械振興会館）



各地域本部交流会の集合写真（一部）

以上

行事名	6月拡大委員会 大懇親会
日時	2022年6月25日(土) 18:00~20:00
場所	Zoom および Cluster による Web 形式
担当者	原田副委員長、吉浦委員、大川委員補佐、高木(記)
参加者数	22名(Cluster 上でカウント)

1. 背景・目的

地域本部間の交流と最新のツールの体験を目的とし、拡大委員会・各地域本部交流会後の懇親会を開催した。

2. 内容およびタイムスケジュール

前半・後半の二部制とし、前半は Zoom、後半はメタバースプラットフォームの Cluster を用いた。

【前半】司会からオープニングとして、諸注意・タイムテーブルの説明を行うとともに、Zoom・Cluster の URL を PDF にて共有することで、迷子にならないよう注意喚起を行った。その後、河野委員長の乾杯で会が開始された。乾杯の後、参加者全員が Flash 自己紹介を実施した。

【後半】Cluster は 1 回のイベントは 40 分という制約があることからさらに二部に分かれて開催した。

第一部では狭い会場(ミニレクチャーホール)にて青年委員会に関するクイズ大会によるアイスブレイクを開催した。(クイズは5月の合格者交流会で時間がなくて使用できなかったものを再利用した)クイズ大会の後、記念写真撮影を行い、終了となった。

第二部は広い会場(リゾート海岸スタジオ)を使用して交流の場を提供した。

尚、何らかの理由により Cluster に参加できない方に向け前半の Zoom も終了時間まで開放した。

3. 成果と所管

- ・ 前半、参加者が使い慣れた Zoom を使用することで、開会をスムーズに行うことができた。
- ・ Flash 自己紹介を行うことで、全ての参加者に全員の前で発言する機会を提供することができ、交流のきっかけを作ることができた。
- ・ 後半の Cluster は新しい試みであったにも関わらず、多数の参加者が独創性のあるアバターで参加してくれたため、バラエティに富んだ様相となった。またユニークなアバターの参加者がいたため、一部ではアバターに関する話題で盛り上がった。
- ・ Cluster では会場音声が小さい、ログインできない、PC のスペック不足・ネット回線の遅延等、様々なトラブルが生じ、注意喚起が不足していた等、全体的に準備不足という反省があった。
- ・ 担当者が現地でのトラブル対処に追われ、メタバース会場内でのトラブル対処が遅れてしまったことで、本来の目的である交流が疎かになってしまったという反省があった。

4. 今後の展開

Cluster は自由に会場を歩き回れることから交流の自由度が高く、様々な人との交流を楽しむことができる。また、アバターや、会場でのミニゲーム、装飾等、話題のきっかけが多数あるため交流の際に、話題に事欠かないというメリットがある。反面、ソフトのインストールが必要なだけでなく、ある程度操作になれる必要があることから、事前準備が重要である。

5. 実施状況



以上

行事名	7月 CPD 行事:英語ワークショップ
日時	2022年7月16日(土)
場所	Zoom による Web 会議
講師、発表者	Steven Ashton 氏
担当者: (○印:リーダー)	○原田、大藺、河野、三谷、村上
参加者数	13名

1 背景・目的

我が国の技術士は、これまで世界各国の技術的な課題解決に貢献してきた。今後、若手技術士も海外に活動の場を広げ、国際的な業務遂行能力を高めることが期待されている。若手技術士が自身の専門分野において海外活動を行っていくうえで、基礎となる英語力を楽しみながら習得する。

本 CPD 行事は、技術士コンピテンシーのうち「コミュニケーション」の向上に役立てるものとする。

2 内容

2.1 挨拶・内容説明(13:30~13:40):原田

CPD行事の目的及びスケジュール、注意事項について説明した。

2.2 ワークショップ(13:40~16:30):講師

途中に休憩を挟み、二部構成で行った。

・パート1(ペアワーク)

3つのテーマを設定し、ペアでの会話練習を行った。

各テーマの冒頭に講師からの内容説明を行った後、ペア毎にブレイクアウトルームに分割しワークを実施した。

ワークの実施中、数分間隔でペアを変えながら会話の練習を行った。講師と青年委員会メンバーは、参加者のサポートのため各ルームを巡回した。

・パート2(グループワーク)

「dog exercise machine」をデザインするため、各グループで英語によるディスカッションを行った。

冒頭、講師から内容説明を行った。海外の子供が描いた「dog exercise machine」のイラストを提示し、参加者のイメージ想起を促進した。

その後、グループ毎にブレイクアウトルームに分かれ、google jamboard を用いてデザインを描いた。青年委員会メンバーは、google jamboard の画面表示や描画等、デザイン作成にあたってのサポートを行った。

ワーク終了後、各グループの代表者が全体に対しデザインの説明を行った。

2.3 講評(16:30~16:35):講師・河野

ワークショップの講評をいただいた。

2.4 アンケート・CPD 票配布(16:35~16:40):村上

チャットでアンケートのURL及びCPD票を送付し、アンケートへのご協力を促した。

2.5 青年委員会活動紹介(16:40~16:45)

本 CPD 行事を主催する青年委員会の活動紹介を行った。

2.6 2022年9月例会の紹介(16:45~16:50):村上

次回 CPD 行事の内容紹介及び宣伝を行った。

2.7 写真撮影(16:50~17:00):大藺・三谷

Zoom 上で全体の写真撮影を行った。

2.8 懇親会(17:00~17:30):参加者

CPD 行事終了後、時間のある参加者に残っていただき、2つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換を行った。

1つめのルームは主に英語で交流を行うこととし、講師との活発な意見交換がなされた。

2つ目のルームは主に日本語で交流を行うこととし、CPD 行事の感想を発表するとともに、当委員会の活動を紹介した。

3 成果と所感

オンライン開催かつ全編英語での会話という挑戦的な内容であったが、青年委員会メンバー及び講師のサポートにより、一部予定を変更しつつも無事に開催することができた。

参加者は、英語習得に向けて積極的にワークに取り組んでくださった方ばかりであった。今回、参加者が少なかったことから、グループワークでの全ての成果を全体に向けて発表したが、各グループの個性が如実に表れ、有意義な CPD 行事となった。

ワークショップ中に生じた時間超過に対しては、講師からスケジュール変更の提案があり、臨機応変に対応し、最終的に大幅な終了時間の遅れは生じなかった。

当初、ペアの交代は、参加者自ら次のブレイクアウトルームに移動していただく想定であったが、難しかったようで、ほとんどの参加者を運営側で移動させることとなった。今回のブレイクアウトルームに係る動作は複雑であったため、運営側・参加者双方の負担軽減の観点から、簡便な動作により対応できる設定としておくべきであった。

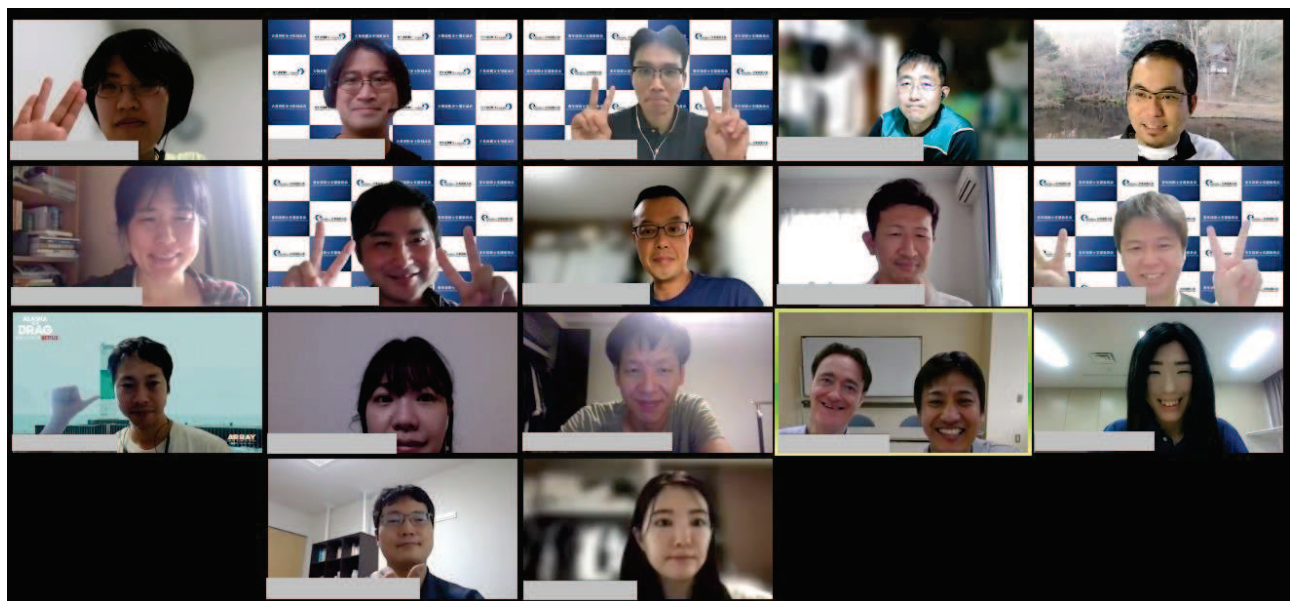
当日ドタキャン者が数名出ており、事前に割り振っていたペア分け及びグループ分けを変更せざるを得なくなり、担当者に多大な苦労をおかけした。現行の申込システムにおいては、開催後のキャンセル手続きが認められていることから、一定数のキャンセルの発生が想定される。そのような事態に対応できるよう、臨機応変に対応できる事前準備が必要と感じた。

4 今後の展開

青年層技術士にも、英語習得に関心のある方が一定数いらっしゃる事が分かったので、今後も何らかの形で英語学習の場を提供していきたい。

また、講師とも一定の信頼関係を築けたので、青年委員会内での英語学習に関心のある方を対象に、個人的な勉強会を行っていただけると良い。

5 実施状況



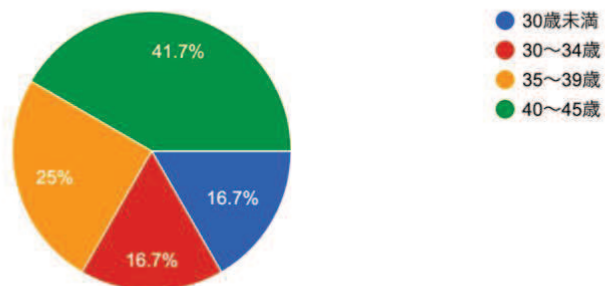
【外部アンケート】

2022年7月例会アンケート結果

Q1.あなたご自身について教えてください

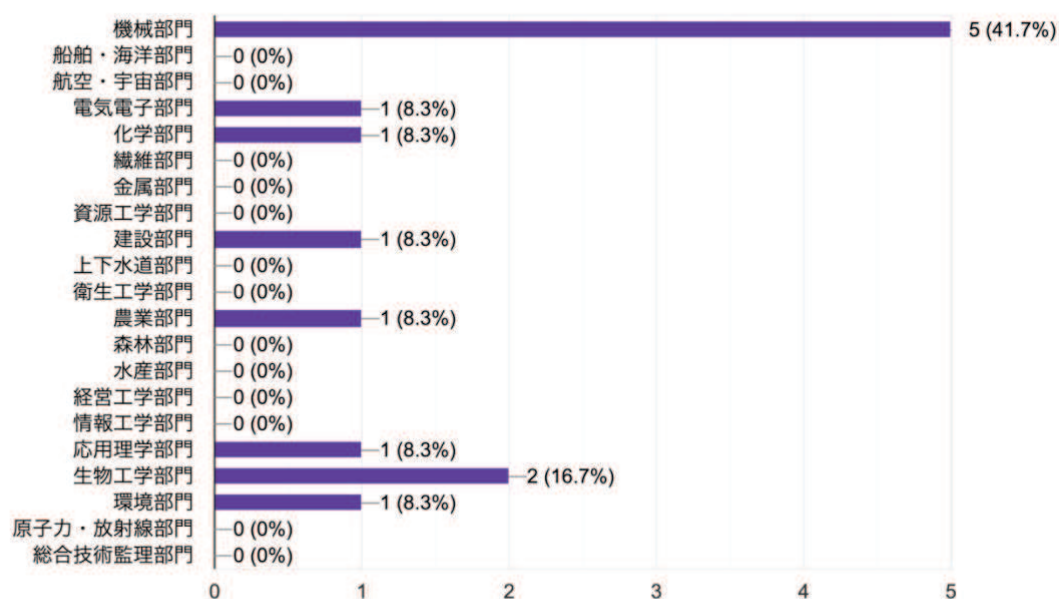
年齢

12件の回答



技術部門

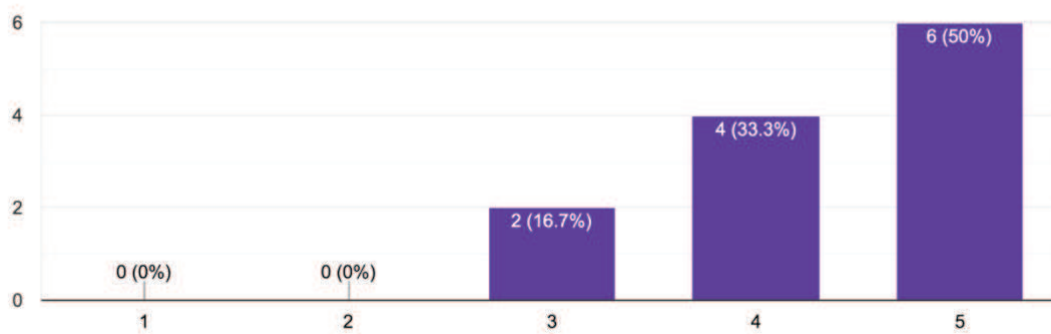
12件の回答



Q2. 今回のイベントについて

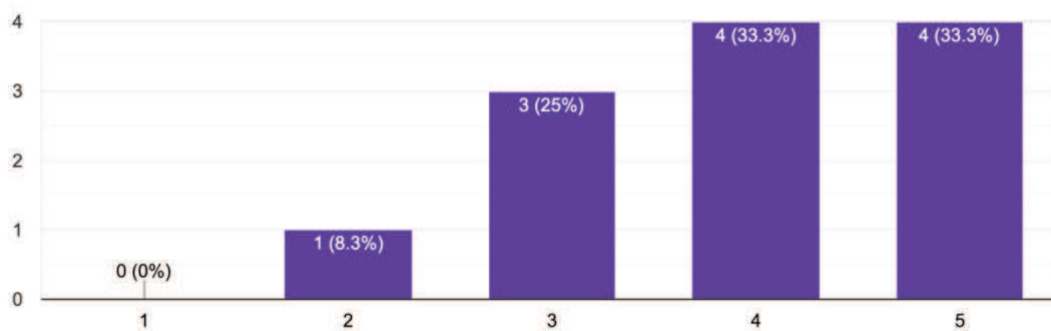
1. 本日の講義内容はいかがでしたか

12件の回答



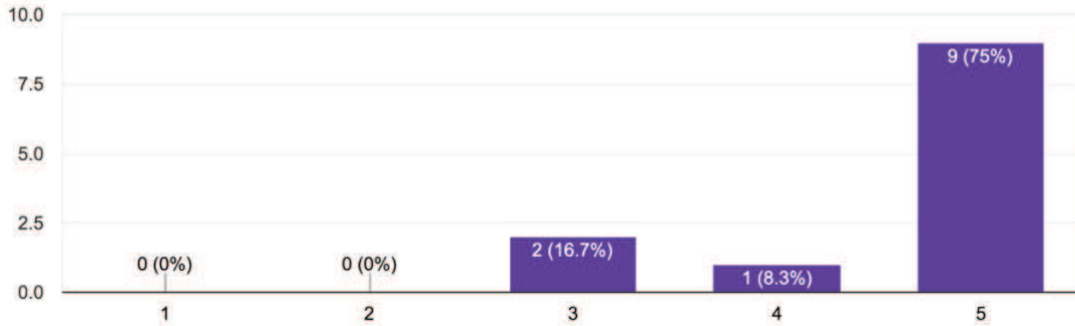
2. 講義の資料はいかがでしたか？

12件の回答



3. 講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

12 件の回答



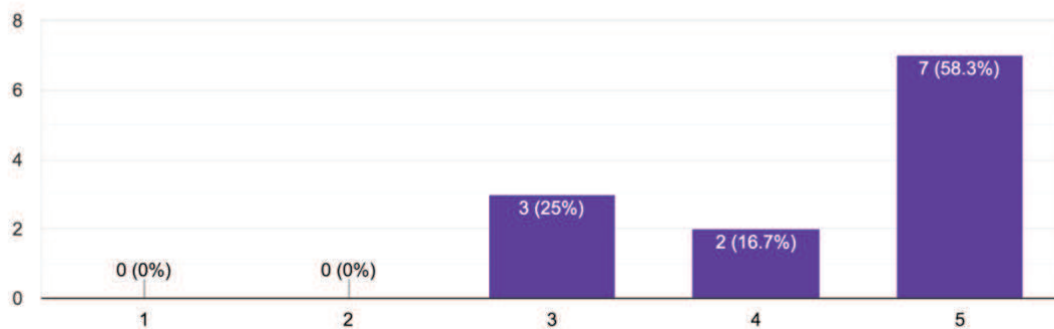
4. 講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

7 件の回答

- 色々な方とお話できて面白かったです。一対一で話しやすかったです。
- 47歳にも関わらず参加できてうれしかったです。
- 一つあたりセッションがもう少し長い方が良かった
- 貴重な英語学習の機会をご準備くださり、ありがとうございます。
- Speaking はどうしても独学ではできないため、貴重な講義でした。
- 自分や参加者の専門技術について話す・聞く機会があるとなおよかった
- 1つのテーマについて英語で意見を出し合えて、とても有意義でした。

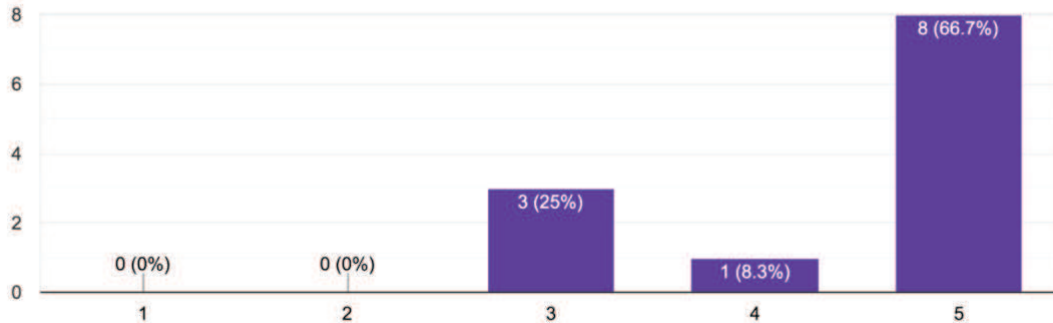
5. グループワークの内容はいかがでしたか？

12 件の回答



6.グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

12件の回答



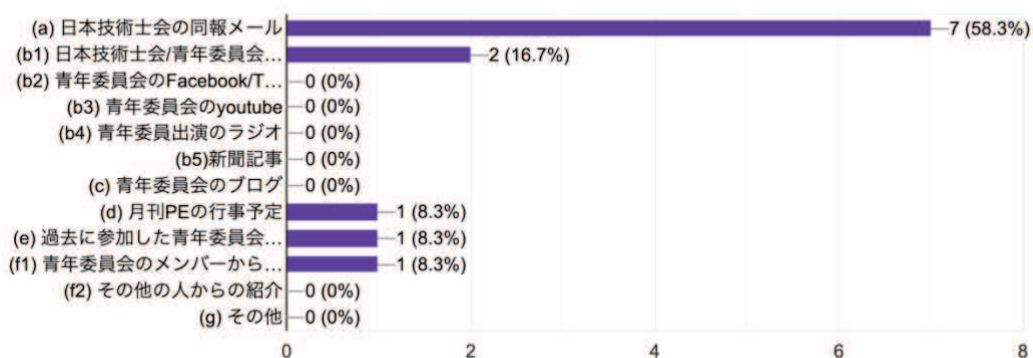
7. グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。（任意）

6件の回答

- 難しかったですでしたが楽しかったです。これからの英語スキルを上げる目標になりました。
- メンバーやファシリテーターの方のおかげで、英語が苦手でも楽しい時間を過ごすことができました。
- オンラインでこのような議論が可能であることが分かり、面白かったです。
- 技術的な題目であったのでよかった
- 時間が短かすぎました。
- このようなイベントを是非、また開催して欲しいです。

Q3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの。

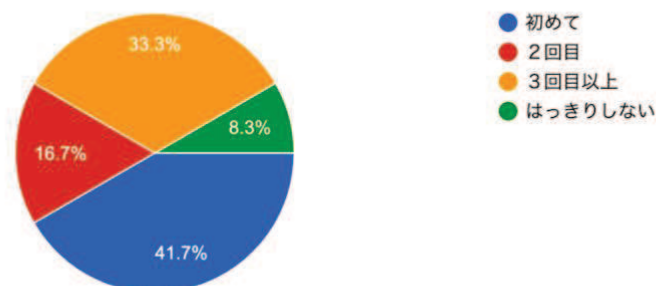
12件の回答



Q4. 青年委員会のイベントについて

統括本部の青年委員会のイベント参加は初めてですか？

12件の回答



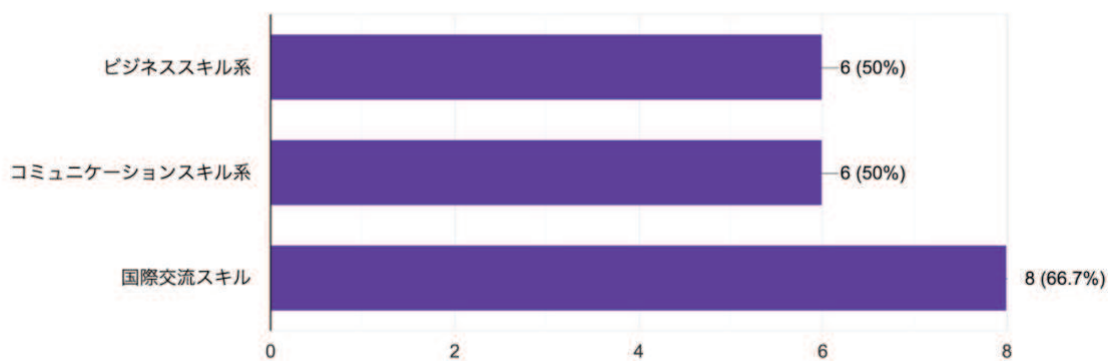
2回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。（任意）

1件の回答

- 合格者交流会

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。

12件の回答



青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

2件の回答

- また参加させてくださいませ。
- 非常に楽しいワークショップでした。有難う御座いました。

青年委員会ではスタッフ（45 歳以下）を募集しています。青年スタッフのイベント運営に興味がある方はご記入をお願いします。

1 件の回答

➤ 今後も積極的な活動を期待しています。

行事名	9月 CPD 行事:会議を描こう! グラフィックレコーディング初級編
日時	2022年9月17日(土)
場所	機械振興会館6階 6-66会議室
講師、発表者	とんぷ(山岸 智也)氏
担当者: (○印:リーダー)	○高木、大藪、杉山、吉岡
参加者数	22名

1 背景・目的

近年ミーティングや講演の内容を、俯瞰的、そして直観的にとらえることができ、議論の活発化に繋がるとしてビジネスの場でグラフィックレコーディングという手法が提唱されている。この手法は内容をリアルタイムに可視化することで、認識の共有や問題の発見など、様々なコミュニケーションを促し、多様なビジネスシーンで役立つコミュニケーション技術として注目を集めている。

本 CPD 行事では、会議や思考を分かりやすく図で描くコミュニケーション技術の初歩を習得してもらい、業務理解を深めるツールとして実際に活用してもらうこと、および、技術士に求められる資質能力(技術士 PC)の内、「5. コミュニケーション」の継続研鑽を目的とした。また、本 CPD 行事を対面で開催することにより、懇親会での新規委員を勧誘しやすくなった。

2 内容

2.1 挨拶(13:30~13:35):高木・河野

CPD行事の目的及びスケジュール、注意事項について説明した。開会に先立ち、河野委員長より開会のあいさつが行われた。

2.2 青年委員会活動紹介(13:35~13:40):大藪

本 CPD 行事を主催する青年委員会の活動紹介を行った。

2.3 内容説明・アイスブレイク・講師紹介(13:40~13:50):高木

本 CPD 行事の全体の流れを説明した後、各班に分かれてアイスブレイク(自己紹介)を行った。

講師が会場に到着した後、講師紹介を行った。

2.4 講義(13:50~15:15):講師 とんぷ氏

講師のとんぷ氏より、グラフィックレコーディングの説明が行われた後、基礎的なイラストを描く練習や「今後やってみたいこと」について班ごとに話し合いながらイラストを描くワークが行われた。

2.5 グループワーク(15:15~16:00):間々下、参加者

班ごとに「あなたの考える最高の CPD 行事」というテーマで、話し合いながら実際にリアルタイムでグラフィックレコーディングを行うワークを実施した。

2.6 発表・講師講評(16:00~16:20):参加者、講師 とんぷ氏

各班からグループワークの成果が発表された。講師のとんぷ氏より、ワークショップの講評をいただいた。

2.7 集合写真の撮影(16:20~16:30):山本

集合写真の撮影を行った。

2.8 2022年10月および11月 CPD 行事の紹介(16:30~16:40):吉浦、一川

青年委員会の10月および11月 CPD 行事の内容紹介及び宣伝を行った。

2.9 アンケート記入(16:40~16:50):杉山

アンケートの QR コードをスクリーンに表示し、参加者にアンケートへのご協力を促した。

2.10 講評(16:50~16:55):吉岡

本 CPD 行事の講評を行った。

2.11 閉会の挨拶(16:55~17:00):高木

閉会の挨拶を行い、懇親会への参加を呼び掛けた。

2.12 懇親会(17:00~17:45):参加者

対面開催であったため、飲食はしない状態で参加者との親睦を深めた。本 CPD 行事の感想など、活発な意見交換がなされた。また、青年委員会の活動に興味のある参加者には積極的に声掛けを行ない、次回以降の CPD 行事参加を促した。

3 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費（正会員・準会員）	18	人	1,000	18,000 円
参加費（非会員）	4	人	2,000	8,000 円
合計①				26,000 円

【支出】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金（非会員）	1	人	33,000	33,000 円
講師交通費	1	回	1,432	1,432 円
合計②				34,432 円

【収支】

① - ② = ▲8,432 円

4 成果と今後の展開

本 CPD 行事を、KPT 法を用いて振り返りを行った。

・KEEP

- ✓ 外部講師と程よい距離感で講義内容を決めることができたので、スタッフ側の負担が軽減できた。外部講師との折衝を高木さんが引き受けてくださり、窓口を一元化できた。
- ✓ 参加者の皆さんが、いつもと異なって様々な部門であったように思えた。
- ✓ 当日のトラブルにも、スケジュール内容を一部入れ替えるなど臨機応変に対応できた。
- ✓ 久しぶりの対面開催で、青年スタッフの活動へのモチベーションが上がったように思えた。
- ✓ 当日の準備や片付けで、9 月担当以外の青年スタッフも積極的に手伝ってもらった。

・PROBLEM

- ✓ 講師が講義中に実施したワークのテーマと内容が被っていたため、急遽グループワークのテーマを直前で変えることになったこと。事前に、講師に講義内容を確認しておくべきだった。
- ✓ 講師の会場入りを当初 13 時 30 分としていたが、講師の都合により会場入りが遅れてしまい、到着が 13 時 40 分過ぎになったこと。講師には、行事開始の 15 分前に到着してもらうようにしておけばよかった。
- ✓ 外部アンケートに、講師と名刺交換をしたかったという意見があった。講師の都合で 16 時 30 分までの約束だったため、次回は講師に懇親会まで残ってもらえるようお願いしたい。
- ✓ 講義中に 2 人 1 組で行うワークの時に、3 人の班では対応が難しかった。
- ✓ もう少し 45 歳以下の参加者を増やしたかった。

・TRY

- ✓ 45 歳以下の参加者を増やすために、対面だけでなくオンラインも併用してハイブリッド開催での CPD 行事を実施する。
- ✓ 45 歳以下の参加者にヒヤリングやアンケートを行って、参加を決めた理由、どんな内容なら参加したいかなどを聞いて、45 歳以下の参加者が増えるような企画を検討する。
- ✓ 45 歳以下の参加者の名札には目印を付けるようにして、グループワークが終わった後で積極的に声掛けをするようにする。
- ✓ 45 歳以下の参加者を優先する。
- ✓ 対面開催の方が参加者への声掛けが行いやすいので、今後は対面開催の頻度を増やしたい。
- ✓ 講師対応について、Problem に挙げた内容を例会運営チェックシートに盛り込むなど検討する。

5 所感

参加者のほとんどが関東の方だったが、北陸、中部、関西から参加した参加者もいらっやって、久しぶりの対面開催に緊張しつつも、楽しいイベントが開催できた。今回の CPD 行事は、当初は 45 歳以下限定の予定だったが、外部講師を招聘しているために参加者数をなるべく増やしたかったため、46 歳以上の方も参加できるようにした。その結果、22 名の参加者にご参加いただけて、成果は出たように思う。参加者の

うち約半数が45歳以下であったが、もう少し若手会員層の参加を増やしていきたい。

外部講師の講義はスライドも話し方も講義の組み立ても、とても分かりやすくて時間があっという間に過ぎていった。講義内容のクオリティが高く、参加者もとても満足されていた。

外部講師の来場が遅延するというトラブルがあったが、もし何らかの事情により講師が当日来場できないときの対応について、あらかじめ考えておき備えていた方がよいと思った。

6 実施状況



講師のとんぷ氏



グループワークの様子



講義中の会場の様子



講師を囲んで参加者全員で集合写真

以上

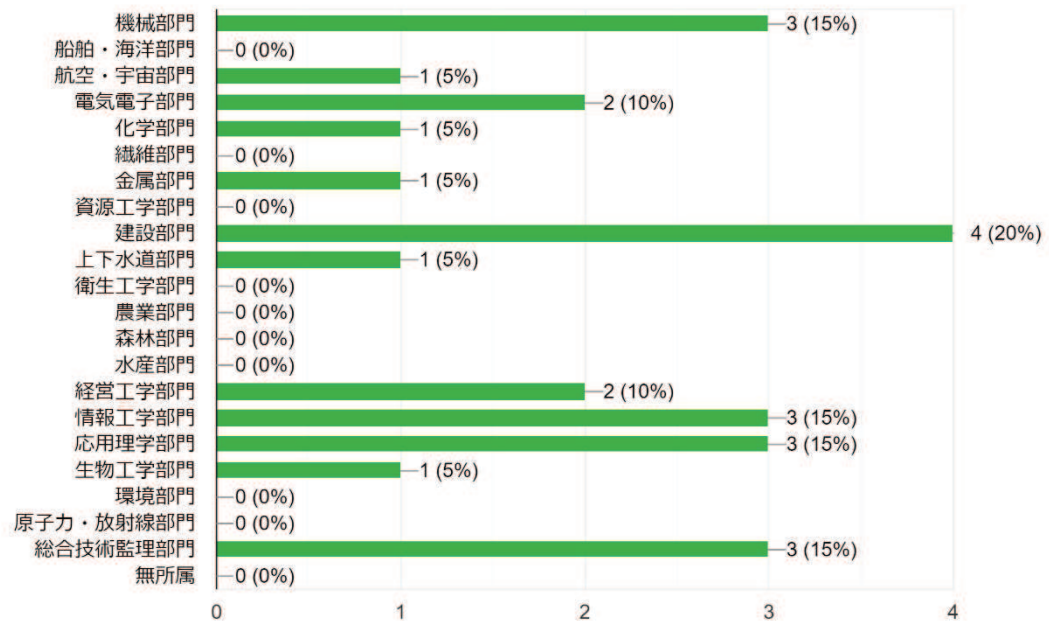
【外部アンケート】

2022年9月例会アンケート結果

Q1.あなたご自身について教えてください

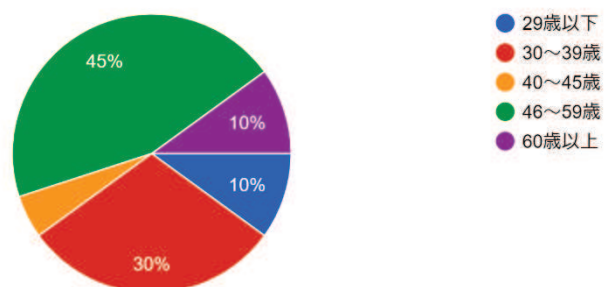
2.技術部門

20件の回答



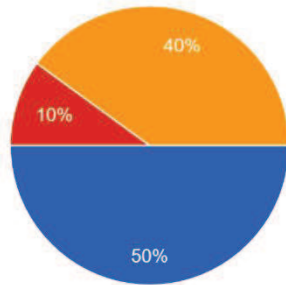
3.年齢層

20件の回答



4.技術士の資格区分

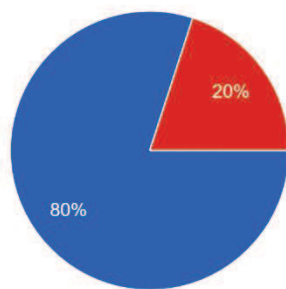
20件の回答



- 技術士
- 技術士補
- 修習技術者
- JABEE認定プログラムの学生
- その他 例：未受験の技術者、一般の学生など

5.日本技術士会の会員区分

20件の回答

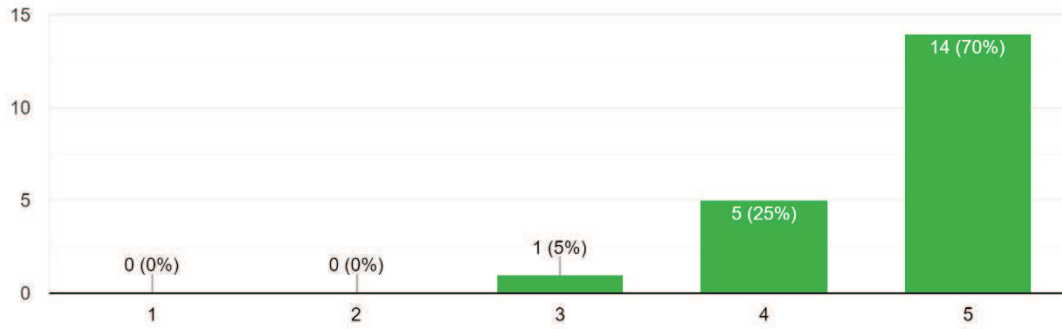


- 会員（正会員・準会員）
- 非会員

Q2. 今回のイベントについて

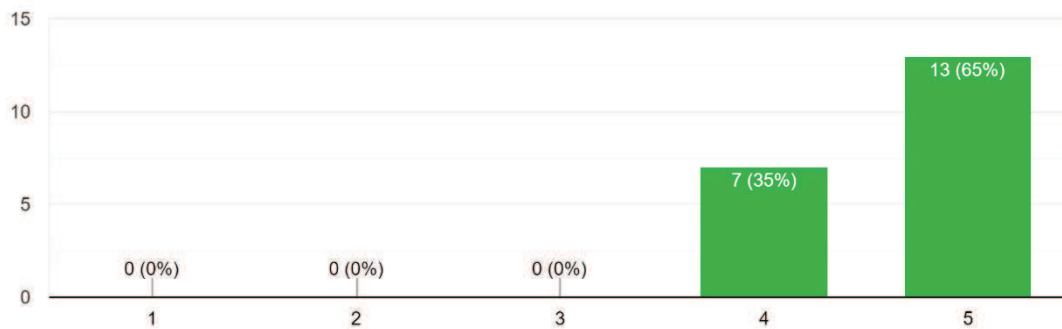
1. 今回のイベント全体

20件の回答



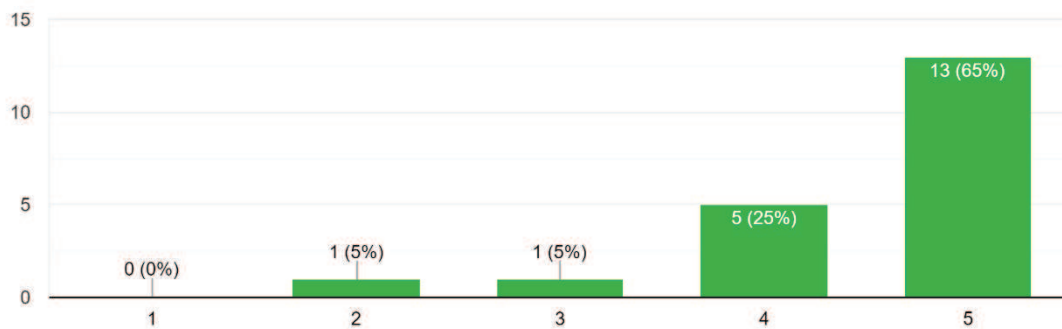
2. グラフィックレコーディングの講演内容

20件の回答



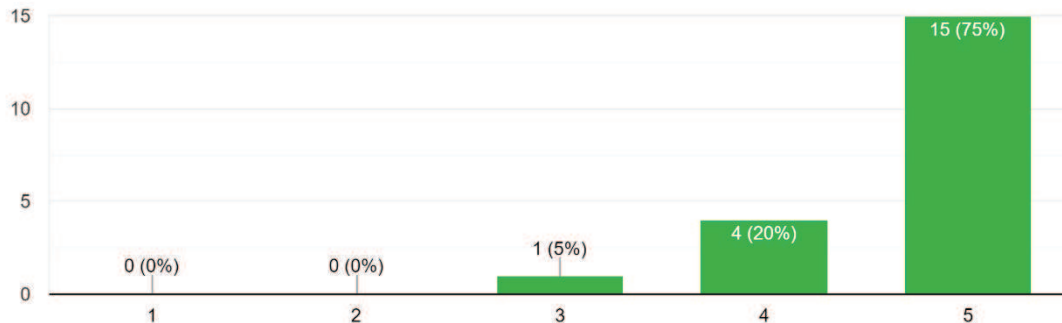
3. グラフィックレコーディングのグループワーク

20件の回答



4. スタッフの対応

20件の回答



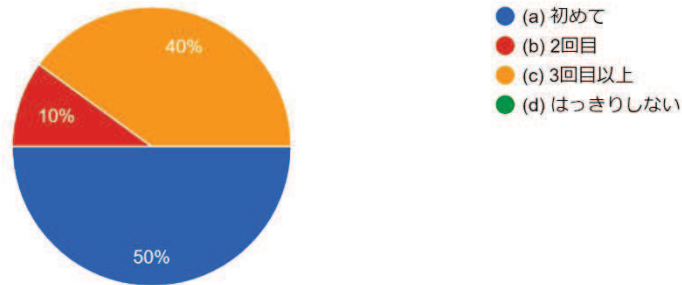
5. 講師にお伝えしたいこと(コメントなど)がございましたら、お書きください。

- 実践的で理解がしやすかったです
- 楽しかったので、これを活かして自分の考えの整理や仕事でも使えるようにしていきたいです
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 分かりやすい講義、ありがとうございました。
- 初学者にも分かり易いご説明をいただきました
- 是非職場で活用出来るようにしたいと思います。
- ありがとうございました。
- よかったです
- 実際にワークをしてみることで、訓練が必要であることがわかりました。
- イラストの有効性は分かっているながら、手も足も出ない状態でしたが、日頃から自分用のアイコンを作りためておくと言うお話に、自分でもやってみようという気になりました。
- 「グラレコとは」という基本的なところから講義していただき、ありがとうございました。

Q3. 青年委員会の CPD 行事への参加状況

1. 青年委員会のイベント参加回数

20 件の回答



2. 今回が 2 回目以上の方にお伺いします。過去に参加したイベントで、印象深かった・面白かったテーマがございましたら、お書きください。

- ・ 英語ワークショップ
- ・ 英会話の講座
- ・ 全て
- ・ 英語のやつです

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント（複数回答可）

18 件の回答



4. 企画内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

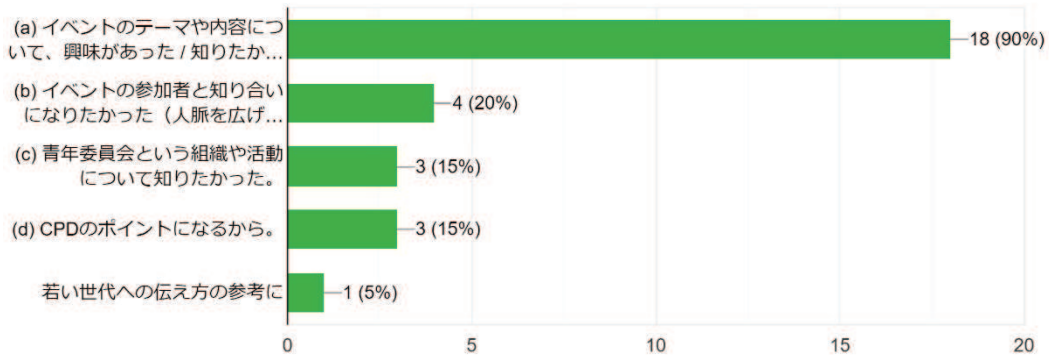
（例：開催の時期・時間帯、場所、発表者・参加者、方法など）

- ・ 平日夜のリモート開催もあると有難いです。
- ・ 遠隔
- ・ 休日希望
- ・ 無

Q4. イベントの参加目的と達成度について

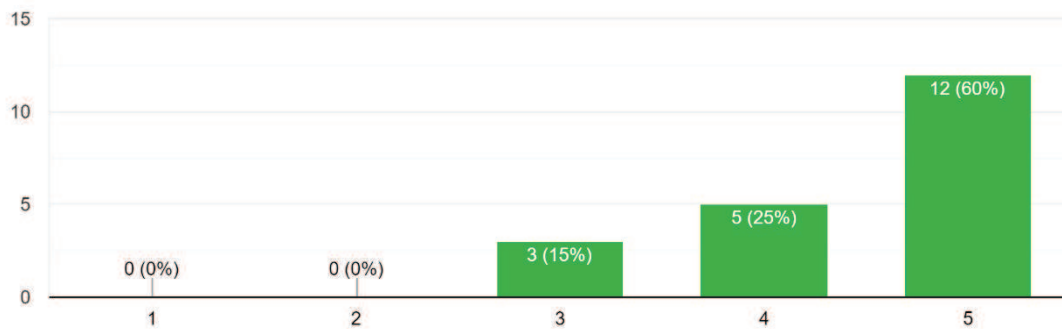
1.目的は何ですか。(複数回答可)

20件の回答



2.上記の目的の達成度

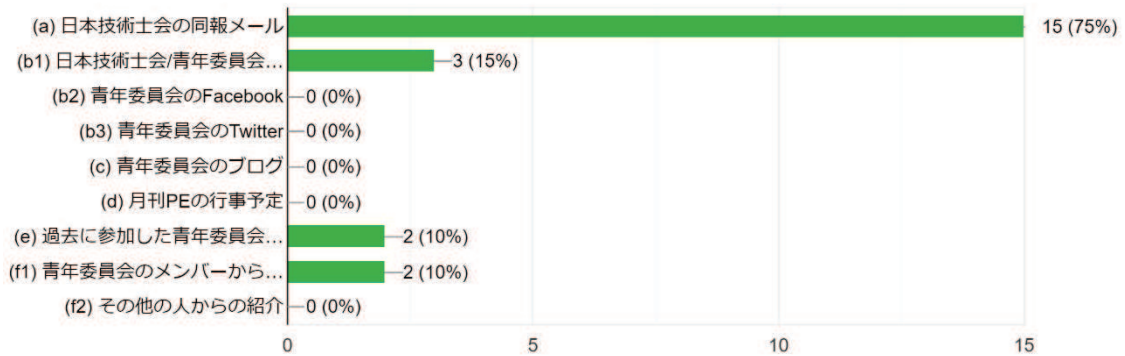
20件の回答



Q5. 今回のイベントへの参加について

1. きっかけとなったものはどれですか。

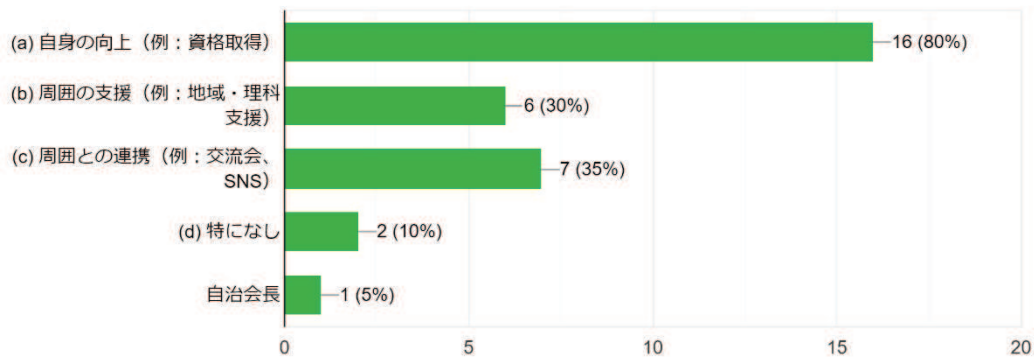
20件の回答



Q6. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

1. ご自身の具体的な活動について(複数回答可)

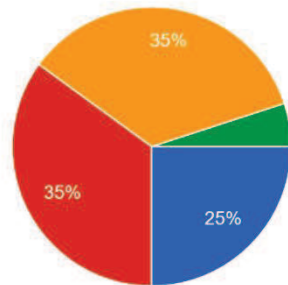
20件の回答



Q7. 青年委員会の委員活動について

1. 青年委員会の活動にご興味はありますか

20件の回答



- (a) 興味があるので、ぜひ詳しい話を聴きたい
- (b) 少し興味がある
- (c) 興味はない／分からない
- 興味あるけど遠いから無理です

2. スタッフに伝えたいこと(コメントなど)がございましたら、お書きください。

- ・ありがとうございました。
- ・45歳以上でも参加したいです
- ・私は50歳をゆうに超えておりますが、皆様の精力的な活動に、敬意と謝意を表します。大変有難う御座いました。
- ・講師との名刺交換の時間があるととっても良かった。
- ・開催お疲れ様でした。
- ・ありがとうございました
- ・青年ではありませんでしたが、参加させていただき、どうもありがとうございました。
- ・青年委員会の講座は実用的なものも多く、たまに年齢制限ない講座があると嬉しいです。
- ・活動結果をホームページから見られる様にさせていただけると嬉しいです。

行事名	10月 CPD 行事:御意(ぎょい)じゃダメ! 合意形成 ~合意形成について学ぼう~
日時	2022年10月15日(土)
場所	オンライン (Zoom)
講師、発表者	吉浦
担当者: (○印:リーダー)	○吉浦、河野、臼井、村上、大川
参加者数	22名

1 背景・目的

組織などのチーム内でモチベーションや能力や経験を最大限に引き出し、高いパフォーマンスを発揮させる為には、全員が納得した意見の一致を図る事ということは重要なことである。

多様な価値観を顕在化させて、意思決定において相互の意見の一致を図る事は、技術士に求められるコンピテンシーに深く関わってくる要素となる。

本例会では、合意形成(コンセンサス)について、グループワークを通じて学び、技術士に求められる資質能力(技術士 PC)の「5. コミュニケーション」をはじめとする7つのコンピテンシーの継続研鑽を目的とした。

2 内容

2.1 挨拶(13:30~13:35):吉浦委員

CPD行事の目的及びスケジュールについての説明、および開会の挨拶を行った。

2.2 青年委員会活動紹介(13:35~13:40):村上委員

本 CPD 行事を主催する青年委員会の活動紹介を行った。

2.3 アイスブレイク(13:40~13:50):吉浦委員

意思決定を行うテーマを出題し、各班に分かれて、自己紹介と共に集団で意思決定を行うアイスブレイクを行なった。

2.4 講義(14:00~14:20):内部講師 吉浦委員

アイスブレイクで出題したテーマを具体例として組織における意思決定の方法や合意形成を得やすくするためのポイントについての講義を行った。

2.5 グループワーク1(14:25~15:55):吉浦委員、参加者

グループワーク1では、下記でコンセンサスゲーム(予め用意されてアイテムの中から、サバイバルに必要なアイテムをグループ全員の合意によって優先順位付けする)を行った。

- ①グループワーク説明(吉浦委員)
- ②個人ワーク(参加者)
- ③グループワーク(参加者)
- ④グループ毎の発表(参加者)
- ⑤模範解答の発表/模範解答の解説(吉浦委員)
- ⑥グループ毎での振り返り(参加者)

2.6 グループワーク2(16:00~16:40):吉浦委員、参加者

グループワーク2では、「技術士に求められる7つのコンピテンシー(資質能力)」で最も重要だと思う項目をコンセンサスを取って決めるグループワークを行なった。

- ①グループワーク説明(吉浦委員)
- ②グループワーク(参加者)
- ③グループ毎の発表(参加者)

2.7 講評(16:40~16:43):原田副委員長

本 CPD 行事の講評を行った。

2.8 集合写真(16:43~16:45):大川委員補佐

Zoom 参加者のスクリーンショット画像を集合写真とした。

2.9 アンケート記入(16:45~16:50):臼井委員

Google フォームを利用したアンケートの URL を QR コード化し参加者へ画面共有し、アンケートへの協力を促した。

2.10 2022年11月および2023年1月 CPD 行事の紹介(16:50~16:55):後藤委員、原田副委員長

青年委員会の11月および2023年1月 CPD 行事の告知を行った。

2.11 閉会の挨拶(16:55~17:00):吉浦委員

閉会の挨拶を行い、懇親会への参加を呼び掛けた。過去のオンラインでの懇親会は参加者が少ない傾向がある為、今回の懇親会では、コンセンサスに関する寸劇イベントを開催する事を告知し、懇親会参加への魅力を伝える事で少しでも多くの参加者に懇親会への参加を促した。

2.12 懇親会(17:05~18:00):参加者

懇親会冒頭で、コンセンサスに関する寸劇を行い登場人物の中で一番問題のある行動をとった人物が誰かについて議論をするイベントを企画する事で、懇親会でも例会内容に沿った場になるよう工夫した。

3 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費 (正会員・準会員)	22	人	1,000	22,000 円
合計①				22,000 円

【支出】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金 (会員)	1	人	10,000	10,000 円
合計②				10,000 円

【収支】

① - ② = 12,000 円

4 成果と今後の展開

本 CPD 行事を、KPT 法を用いて振り返りを行った。

・KEEP

- ✓ 参加者に事前に Zoom 操作、スプレッドシートの PC 環境についての資料を配布し、リハーサル時に青年スタッフにグループワークの意図やファシリテートの方法、進行手順を説明していた為、当日混乱もなくタイムスケジュール通りに進行が出来た。
- ✓ グループワークでは、事前に共同編集機能や関数による自動計算を活用したスプレッドシートを作成/配布する事で、優先順位付けや点数付け等煩雑な作業があったにも関わらず、スムーズに進行が出来た。
- ✓ コンセプトから企画、構成、資料作り、当日の進行や内部講師を同じ委員が担当することで、外部講師のときのようなミスコミュニケーションや内容のダブリや、すり合わせ等の時間を無くす事ができ、同じテキストで一貫した企画内容とする事が出来た。
- ✓ 通常のオンライン例会では、懇親会まで残って頂ける参加者が少ない中、懇親会の中でイベント(コンセンサスに関する寸劇)を開催する事を告知する事で多くの参加者に懇親会まで残って頂けた事。

・PROBLEM

- ✓ 10月例会チームが211会議室に集まってファシリテータをしていた為、グループワークの混線対策を十分に出来ていなかった。(席のレイアウトを全員壁側に配置する等、対策を怠った。)
- ✓ 主担当に負担が偏った。(企画が決まってから準備期間が2か月弱と短かった為、10月例会チームに役割を振る余裕がなかった)
- ✓ 懇親会で寸劇をやるのであれば、もっと感情を込めて役になりきる。

・TRY

- ✓ オンラインではなく、対面やハイブリッドでの開催。
- ✓ 懇親会の寸劇が好評であったので、懇親会ではなく例会の本編に寸劇を取り入れる。

5 所感

内部講師でのイベントで、冒頭のアイスブレイクから講義内容、グループワーク、懇親会まで一貫したコンセプトでイベントを開催することができた。冒頭ではあえて合意形成の説明をせずにグループ内で意思決定を行うアイスブレイクを実施した。その後、講義で合意形成のポイントをアイスブレイクの題材を具体例とした挙げイメーが付きやすいよう講義を行った。講義の後半では、グループワーク②の題材となる技術士7つのコンピテンシーの伏線を張っておき、後半のグループワークに繋げることで参加者がグループワークに対する唐突感や違和感を減らし、自然に問題に取り組めるように誘導した。前半のグループワーク①では、個人ワークやグループワークで点数付けをする煩わしさがあるコンセンサスゲームを行ったが、スプレッドシートの自動計算やシートタグのリングを工夫することでイベントをスムーズに進行できた。

ブレイクアウトルームとメインルームを頻繁に行き来して、グループワークと講習・解説を繰り返すイベント内容であったが、青年スタッフへのリハーサルや参加者に事前にイベントに対する注意事項や Zoom の説明資料の配布を行っていたためイベント中に操作方法やグループワークを進める上でのトラブルがなく実施できた。

また、イベント後の懇親会では、イベント中にコンセンサスに関する寸劇を行う告知をする事で、できるだけ多くの方に懇親会へ参加して頂くことを試み、その効果も確認できた。

参加者に対する例会アンケートの集計では、満足度の全ての項目(イベント全体、プレゼン資料の内容、話し方や進め方、スタッフの対応)で5ポイント中、全て5か4ポイントで比較的高いポイントだったことから、内部講師のイベントであっても満足度の高いイベントを開催できたと思われる。

6 実施状況

＜アイスブレイク＞

今から、グループ別に分かれて自己紹介をしてもらいます。

自己紹介をするにあたって、次のシチュエーションに遭遇した場合、あなたは、何を選択するかを答えてから自己紹介をしてください。

＜お題＞

あなたは街で偶然外国人の観光客に話しかけられました。どうやら日本でお勤めの丼ぶりを食べに行きたいようです。あなたは、次の4種類の中から何をお勧めしますか。

おススメのDONはナンアスカ?



かつ丼



天丼



海鮮丼



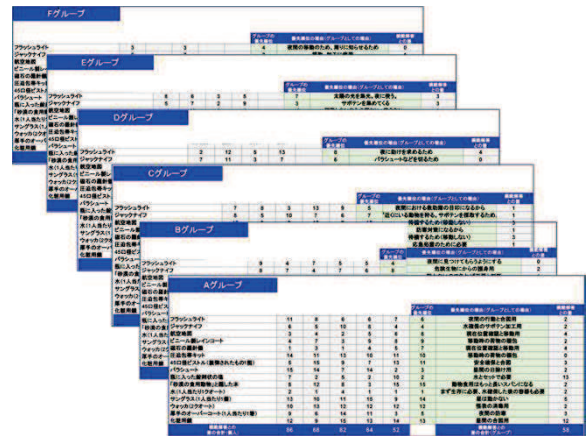
牛丼



海鮮丼



アイスブレイクのお題



グループワーク1のアウトプット

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: コミュニケーション
技術士は個人で何かできるわけではない。人と関わってやっていく。

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: 重要度が高いとする前提「切り口【社会に求められる技術者＝一緒に仕事をしたいと思われる技術士とは・皆で生き延びる】

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: 技術者倫理を實現するためには他の6つのコンピテンシーが必要で

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: 技術者として持つべき倫理観をベースにした上で、他の6個のコンピテンシーが成り立つと考える。技術者倫理組むなければ、専門的知識

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: 技術者はこれからも様々な職業、様々な立場の人と関わる。

＜最も重要度が高いと思う理由＞

7つのコンピテンシー

専門的学識

問題解決

マネ

評価

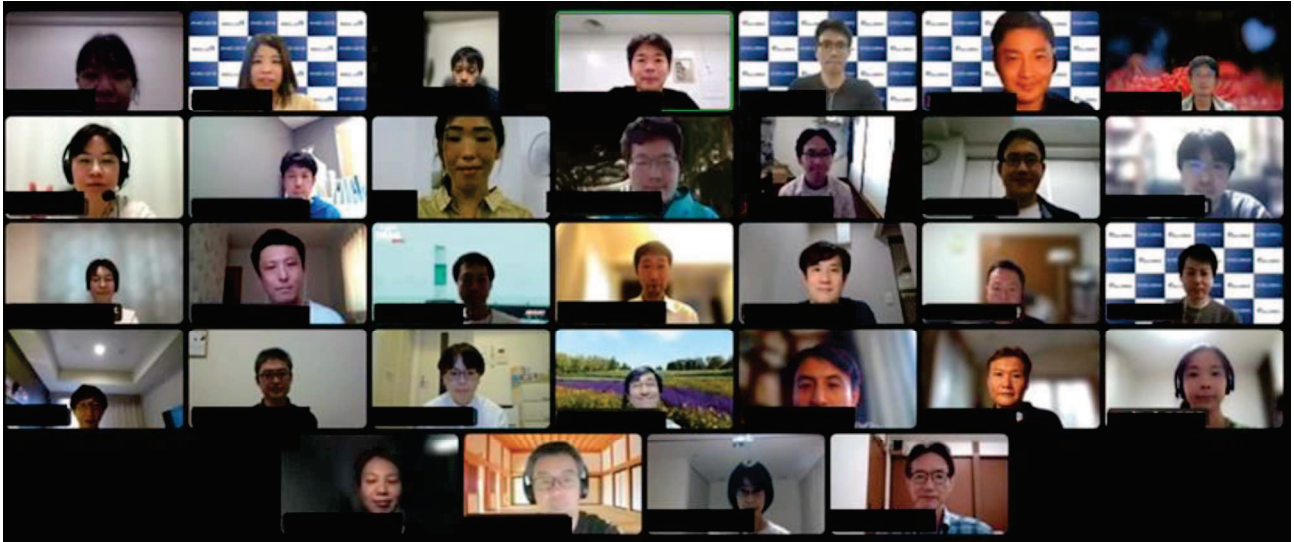
コミュニケーション

リーダーシップ

技術

理由: 問題解決や技術者倫理は大事だけど、何が問題か、何が正しいか、何が目指すべき社会の幸福かは時代によって変わったり、立場によって変わる。当事者間のそれらの擦り合わせが大事になるのでコミュニケーションが大事だと考えた。

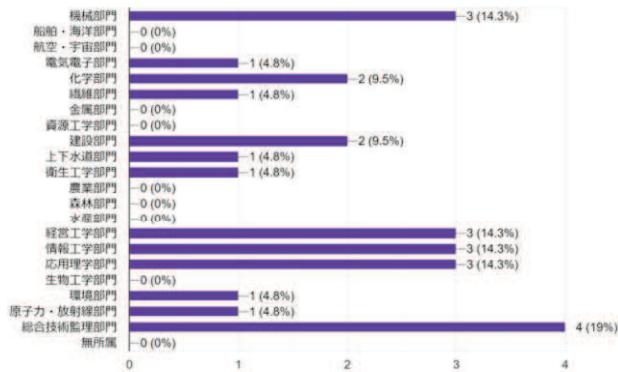
グループワーク2のアウトプット



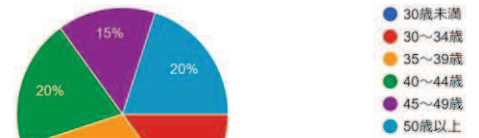
参加者全員で集合写真

外部アンケート

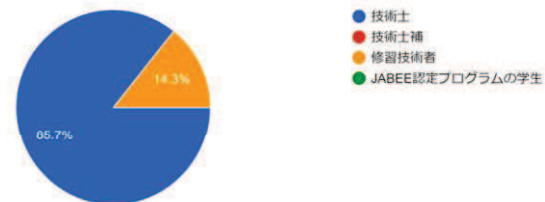
1.技術部門 21件の回答



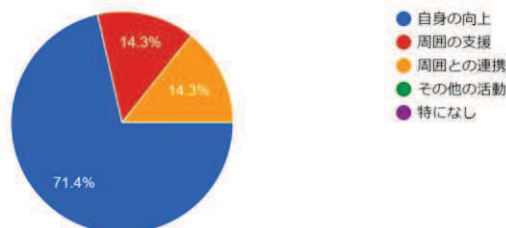
2.年齢層 20件の回答



3.会員層 21件の回答



ご自身の具体的な活動について 21件の回答

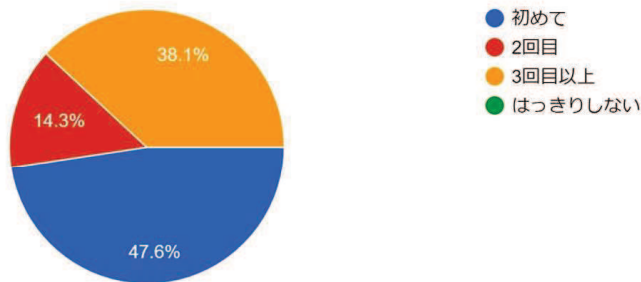


その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

合意形成手法を学びたいから
日本技術士会 男女共同参画推進委員会の委員補佐。
会社の技術士会活動、技術士試験準備の社内勉強会。

1. 青年委員会のイベント参加回数

21件の回答

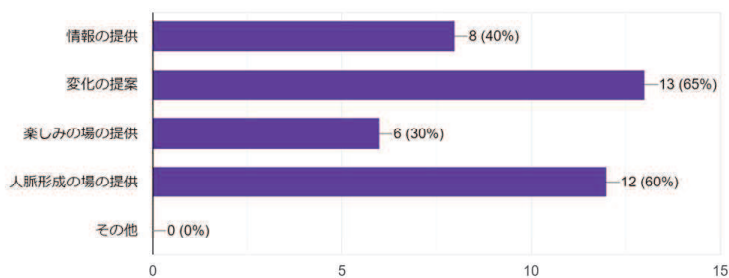


2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

クラフィックスレコーダー 入門編
ストレングスファインダー
エンジニアの話し方
ストレングスファインダーで探るわたしの謎
英語講座
孫子の兵法

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

20件の回答



上記で選択したものの具体例を書いてください

正解のないところやそれが変化するものに対する技術士のアプローチ

テーマを決めたグループディスカッションやグループワークを行い交流を深めたい

若い技術者が自分がやっていることを表現できる場

マネジメント方法の紹介

工場見学

いろいろな方とグループワークができれば、それで色々な変化が体験できていいと思います。

今回のようなセミナーも良いですし、リアルでの懇親会などあれば

合意形成研修その2

今回のような半日研修イメージが、とても良いと思います

4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

平日の夜がいいかな

WEBで参加ができる形式は非常にありがたいです。

土曜のWEB開催だと参加しやすい

参加しやすいのは、週末のオンライン開催です。

オンラインでのグループワーク 土日開催

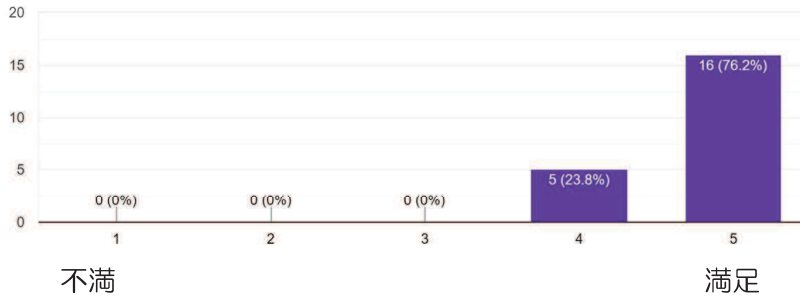
休日の午後

土曜日の午後の開催だったので、参加することが出来ました。毎回興味深いテーマで開催されていて、行事一覧の中でも目をひきます。

<満足度の調査>

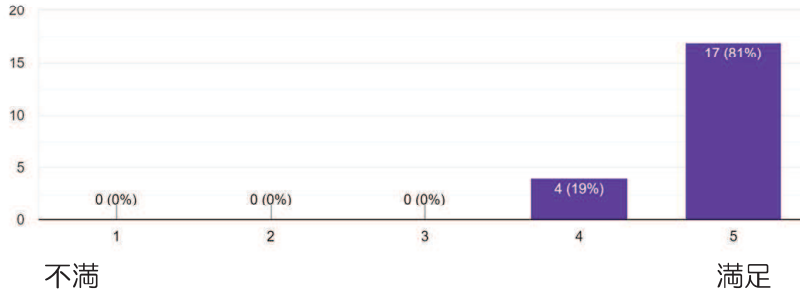
1. 今回のイベント全体

21件の回答



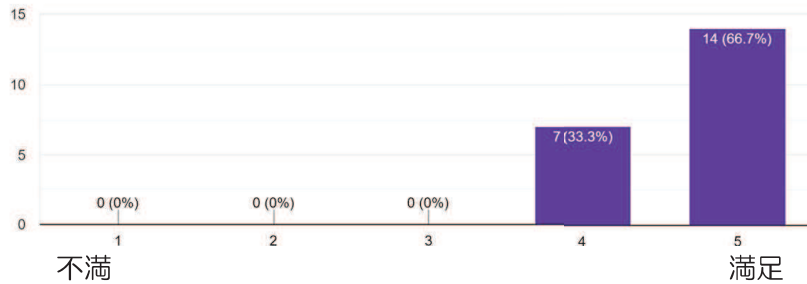
2. 担当の話し方や進め方

21件の回答



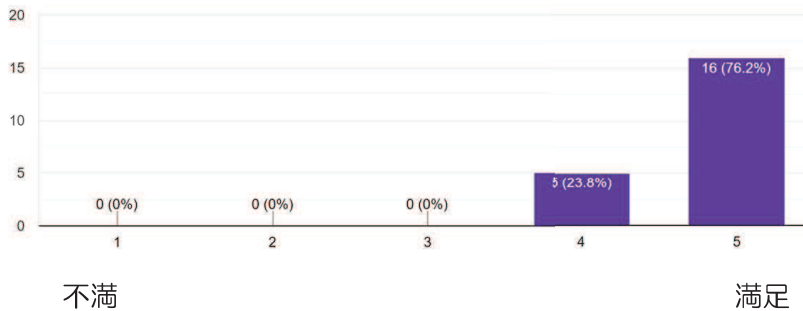
3. 配布・プレゼン資料の内容

21件の回答



4. スタッフの対応

21件の回答



5. 進行担当にお伝えしたいこと

楽しく話ができよかったです

大変役に立ちました。事前に合意生成のファシリテータの訓練もあったかとおもいますがお疲れ様でございました。

ご苦労様でした。たのしかったです

スライドがとても美しかったです。

本日はありがとうございました。

B班の白井さん、フォローと進捗と書記とありがとうございました。

ZooMでの進捗が、社内ものものと比べてスムーズだったので参考になりました。

スムーズな進捗有難うございました

白井さん B班のファシリありがとうございました。

今日の最後の問題（7つのコンピテンシー）は、なかなか難しかったと思います。前の問題との関連性を持たせながら誘導してあげると、もっと進捗がよくなるのではないのでしょうか。

6. スタッフに伝えたいこと

今後ともよろしくお願ひいたします。

自分のチームでもやってみたいので参考資料等あれば欲しいです

楽しく参加させていただき、また他の技術士の方と意見を交わすことができ大変ためになりました。今後もこのようなイベントを期待しております。

本日はありがとうございました。

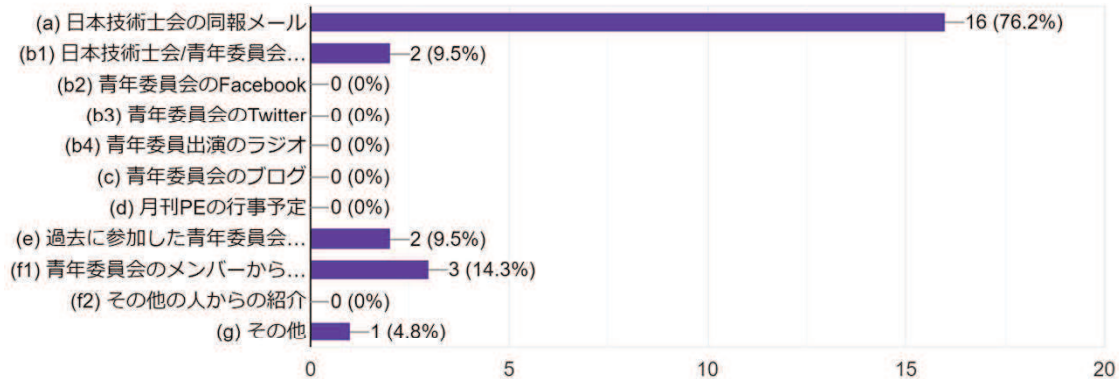
ZooMでの進行が、社内のものと比べてスムーズだったので参考になりました。

大変興味深い知見を得ることができ、経験ができました。ありがとうございました。

良い講座だったと思います。ありがとうございました。

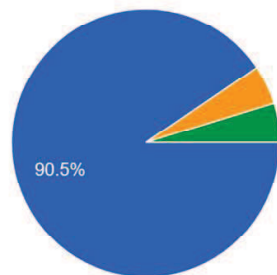
今日の最後の問題（7つのコンピテンシー）は、なかなか難しかったと思います。前の問題との関連性を持たせながら誘導してあげると、もっと進行がよくなるのではないのでしょうか。

21件の回答



1.目的は何ですか。

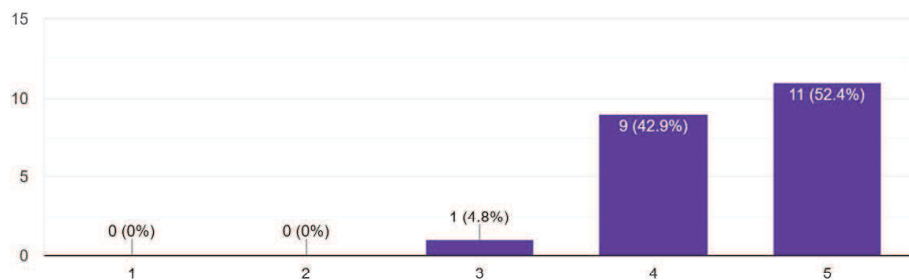
21件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった / 知りたかった / 身につけたかった。
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたかった (人脈を広げたかった)。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。

2.上記の目的の達成度

21件の回答

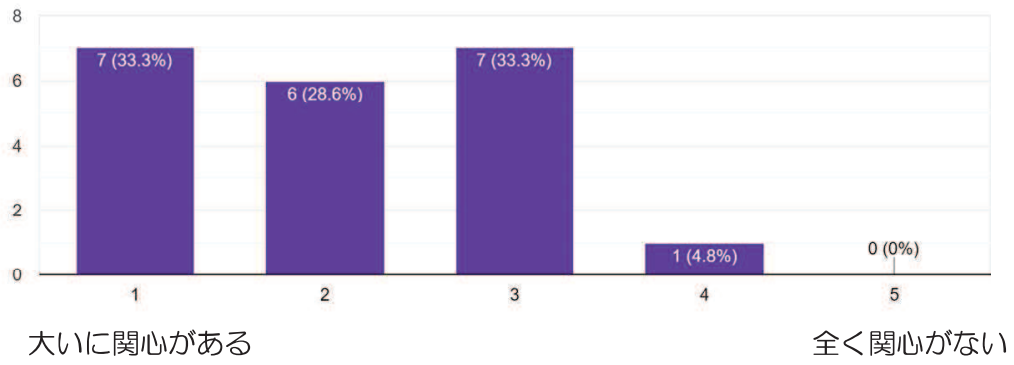


未達

達成

1.青年委員会の活動について関心がありますか？

21件の回答



行事名	11月 CPD 行事:激甚化する気象災害
日時	2022年11月19日(土)
場所	機械振興会館地下3階 研修室-1
講師、発表者	奥野峻也氏((株)構造計画研究所 次世代事業開発部 室長) 今井誠氏(国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所長) 南利幸氏((株)南気象予報士事務所 代表、技術士(応用理学部門))
担当者: (○印:リーダー)	○後藤、三谷、一川、山本
参加者数	133名

1 背景・目的

近年の温室効果ガス濃度の増加に伴う地球温暖化や異常気象の発生頻度の世界的な高まりにより、我が国においても、豪雨や河川の氾濫・高潮等による水害や土砂災害等、気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化が懸念されており、これらに対処するためのハード面・ソフト面の整備や対策が喫緊の課題となっている。

本 CPD 行事では、気象災害をテーマに、気象情報の発信やハード・ソフト事業の計画・実施等において最前線で活躍されている3名の講師をお招きして講演会を実施した。そして、技術士として各々がどう社会貢献ができるかを考え、行動に繋げていくためのヒントを得る機会とすると共に、技術士コンピテンシーの内の「問題解決」「マネジメント」の向上を目的とした。

2 内容

2.1 挨拶・概要(13:30~13:40):後藤

CPD行事の目的及びスケジュール、注意事項等について説明した。

2.2 青年委員会活動紹介(13:40~13:50):河野、村山

本 CPD 行事を主催する青年技術士支援委員会統括本部と、青年技術士交流委員会北陸本部の活動紹介を行った。

2.3 講演①(13:50~14:30):講師 奥野峻也氏

従来の流出解析や機械学習とは異なる、数理工学を応用した新しい洪水予測技術と適用事例等についてご講演をいただいた。

2.4 講演②(14:35~15:15):講師 今井誠氏

信濃川の洪水から新潟を守ってきた人工河川であり、2022年で通水100周年を迎える大河津分水路(おおうづぶんすいろ)を題材に、大河津分水路がこれまで果たしてきた役割と、豪雨の激甚化に対応するための「令和の大改修」等についてご講演をいただいた。

2.5 講演③(15:30~16:30):講師 南利幸氏

近年の地球温暖化の影響で気温が高くなり、それと共に激しい雨の降る回数も増加し、経験をしたことが無いような現象が多発していることを踏まえ、自らの身を守るための気象情報に対する基礎知識や知識を深めることの重要性等についてご講演をいただいた。

2.6 講演講評(16:30~16:35):岩部、稲垣氏(応用理学部会副部長)

3講師による講演を通じての講評をいただいた。

2.7 集合写真の撮影(16:35~16:40):山本

3講師と会場参加者により集合写真の撮影を行った(今井講師はWEB画面より参加)。

2.8 アンケート記入(16:40~16:45):三谷

アンケートのQRコードをスクリーンに表示し、参加者にアンケートへのご協力を促した。

2.9 1月 CPD 行事(統括本部)および北陸本部 CPD 行事の紹介(16:45~16:50):原田、村山

青年委員会統括本部・北陸本部の CPD 行事の内容紹介及び宣伝を行った。

2.10 CPD 票配布(16:50~16:55):三谷

オンライン参加者向けの CPD 参加票についての案内を行った。

2.11 講師より一言(16:55~17:00):奥野峻也氏、今井誠氏、南利幸氏

本 CPD 行事を通じての気付きや所感等について、各講師より一言ずついただいた。

2.12 閉会(17:00~17:05):後藤

閉会の挨拶を行い、事前にアナウンスしたとおり、講師陣に先に退席をいただき、その後参加者に退席をしていただいた。

3 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費（オンライン）	110	人	1,000	110,000 円
参加費（会場；会員）	19	人	1,000	19,000 円
参加費（会場；非会員）	4	人	2,000	8,000 円
合計①				137,000 円

【支出】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金①	1	人	11,000	11,000 円
講師謝金②	1	人	10,000	10,000 円
講師交通費	1	式	1,680	1,680 円
Zoom ウェビナーオプション	1	式	10,700	10,700 円
会場使用料	1	式	100,980	100,980 円
合計②				134,360 円

【収支】

① - ② = 2,640 円

4 成果と今後の展開

本 CPD 行事を、KPT 法を用いて振り返りを行った。例会の準備段階から本番当日までの時間軸とカテゴリーに分けてシートを整理した。次頁以降に K に対する T と、P に対する T の一覧を示す。

本例会を通じて得られた企画・運営上の課題については、広報 Gr.と例会 Gr.の中で別途共有を行い、次回以降の企画・運営に活かすこととした。

時期	分類	Keep 継続	Try action 挑戦・取り組み
6ヶ月前	企画	・約5ヶ月に亘る粘り強い交渉や調整により、今回の3講師による講演が実現できた。	・交渉や調整は重要であることが改めて確認できた。相手に対して最大の敬意を払いながらも、伝えることははっきり伝えるという交渉が重要で、双方がwin-winの関係になるような方向にいかを持っていくかがポイントのため、その点をよく考えながら交渉・調整を今後も進める。
6ヶ月前	企画	・大規模CPD行事（講演会型）	・年に1回は大規模な講演会等を行い、少人数ワークショップを実施しても収支バランスが崩れないよう補っていく等実施方法を考える。
6ヶ月前	企画	・ハイブリッド開催	・ハイブリッド開催のノウハウを蓄積できたので、次期につなぐ要領書のまとめが必要。
6ヶ月前	企画	・魅力ある講演・講師で参加者を増やす	・他部門・他委員会・技術士会以外で良さそうな講演があれば、それを参考にする。
6ヶ月前 3ヶ月前 3週間前 1週間前	外部講師 調整	・講師との細かい確認や調整を着実に進めることで、滞りない講演に繋げることができた。 ・不測の事態を事前に想定して調整を行うことで、確実に参加者に対して研鑽の場を提供するという準備ができた。	・一つ一つの項目を箇条書きにして相手に対しても分かり易く伝えることで、確認ができたものできていないものを明確にし、着実に進めることができたため、今後も継続する。
3ヶ月前	企画	・北陸本部や応用理学部会にも働きかけることで、地域や部会との連携という一つの目標が達成できた。 ・今後に繋がる良い関係性も構築できた。	・地域本部や部会への働きかけは今後の例会実施の良いモデルになるため、今後も継続して取り組む。 ・地域本部委員長や部会に所属する青年メンバーを通じて会内への働きかけや情報発信を行うことで参加者増に繋げることができたため、今後も取り組んで行く。
3ヶ月前	企画	・Webinarオプションを活用した例会（今回はじめて）	・例会の内容によっては、今後もWebinarオプションを活用する。
3週間前	オンライン 関係	・今回の例会において、技術士会で標準としているTeamsではなくZoomを用いる理由を整理し、研修委員会・企画委員会の了解を得たことで、次期以降Zoomを青年予算にて導入できる可能性が高まり、そのきっかけ作りができた。	・仮に意見が通らなかったとしても、研修委員会や企画委員会に改善の提案をすることは良いことが分かったため、今後も継続していく。
3週間前	企画	・地域本部・部会・オブザーバーの参加費を有料・無料にする基準を明確にし、トラブルなく例会を実施できた。	→ もっとよくするためには ・企画・運営サイドとして参加する統括本部委員・委員補佐以外のメンバーは無料とし、それ以外のメンバーは有料とする。オブザーバーは企画・運営サイドでない場合は有料とする。この方針を事前に打ち出し、委員会内での了解を取った上で準備を進めるよう改善する。
3週間前	資料準備	・開催日2週間前に講師から資料をいただくように調整できて、印刷等の準備を余裕をもって進めることができた。 ・発表内容についても予めイメージすることができて良かった。	・今回、講師の決定が難しかったが、講師決定した後の資料提出までに期間が短かったため、講師の方の講演資料を用意する期間をもう少し取る等も考える。
2週間前 (リハーサル)	オンライン 関係 現地運営	・リハーサルの実施	・ハイブリッドでは必ずリハが必要で、これも要領書にまとめるのが良い。
2週間前 (リハーサル)	受付	・受付と書かれた用紙、おつり、会費を入れる箱、領収書を事前に準備できた。	・会費を入れる箱はあると便利だったので継続する。領収書を入れる箱がなかったので、今回は準備した方が良い。
2週間前 (リハーサル)	受付	・受付2人と案内2人を事前に準備できた。	・体温測定器の反応が良くなく、会場の案内に支障をきたしていたので、事前に動作確認をする。 ・青年の体温測定を図っていなかったため、今回は全員測定するようにする。
当日	企画	・会場ーオンラインのハイブリッド開催での大規模な例会を無事に最後まで実施でき、講師や参加者からも良かった・勉強になったとのコメントをいただいた。	・Zoom-Webinar機能を用いての100人以上の参加者の受入れを行い、細かいトラブルはあったものの、音声のトラブルはなく最後まで実施できたため、新たな例会の実施モデルとして、今回得た事項を記録に収め、委員会内で共有を行う。
当日	企画	・当日は機材の接続等の問題により、開始時間が遅れる等のトラブルがあったが、タイムスケジュール通りに進行し、17時に例会を完了させることができた。	・講師に講演時間の厳守を伝えたことは大変効果的だったため、当日の呼び鈴による管理も含めて今後も継続する。 ・講師の先生を早めに退場させる作戦も功を奏した。
当日	受付	・予め資料を机の上に置くことで、スムーズに参加者を誘導することができた	・リハーサルでもう少し具体的にどのように置くか検討することで、準備に手間取らなかったと考える。

時期	分類	Problem 問題・改善事項	Try action 挑戦・取り組み
全体	企画	・ 主担当の負荷が一番大きく、メンバー間での偏りがあった。 ・ 今回の準備に対するメンバーの非積極性を感じる部分が多々あった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ SLACKやMLを活用して積極的な声掛けを行い、作業負荷の偏りを少しでも解消できるよう働きかける。 ・ 準備資料や当日の資料についても気付いたことがあれば自ら提案して追記をする等も必要。 ・ 全員が主役と思って取り組まない限り、主担当の負荷低減は実現できない。 ・ 外部講師を複数呼ぶ時や大規模例会になる時は、講師毎・時間軸毎（準備段階・当日段階等）等に担当を割り振る。
6ヶ月前	外部講師調整	・ エージェント経由のやり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師が会員であれば、まず直接コンタクトをとってみる。その結果エージェント等を介するよう指示があればそれに従う
3ヶ月前	企画	・ 講師との交渉の過程において、参加費を徴収する例会にする場合は講演を断られる可能性が生じた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例会を実施する上で、参加費を徴収する例会にするかについては事前に委員会内で確認を行い、取り決めを行っておく。その上で講師との謝金を含めた交渉を行い、折り合いがつかない場合は依頼を諦める等の手順を決める。 ・ 官公庁の職員に講演を依頼する場合、公益性の観点から参加費を取る例会実施は難しい可能性があることを事前に踏まえておく。
3ヶ月前	企画	・ 意見交換会が実施できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の段階で、機械振興会館の6階や地下3階の広い会場の予約が入っていて、例会開催時間の制限をせざるを得ない状況になってしまった。しかし今回は南さんの講演を実現させるためにやむを得ない選択であったと考える。会場を早い段階で確保して動くことに越したことはないため、そのやり方は今後も継続する。
3ヶ月前	広報	・ 対外的な広報の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師の場合、必ず確認をすることを基本方針とする。 ・ 掲載記事の講師展開は、原則禁止するか許可が出た場合のみ送付するなど、ルールを明確化する。
2週間前 (リハーサル)	企画	・ 例会の基本運営方針として、講師等に不測の事態があった時にどうするか取り決めがされていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例会の実施方針として、不測の事態発生時の対応の取り決めを行っておく。例会中止・順延の判断基準（参加者に対して研鑽の場の提供が難しくなった時を基準にする等）、後日のZoom録画→youtubeでの期間限定配信による参加者への講演聴講機会の提供等
1週間前	外部講師調整 広報	・ 新聞記事への掲載について講師への報告を行ったところ、講師より契約問題に抵触するとの指摘を受け、プレスリリースに当日の取材・記事掲載等、報道関係の対応を取り止めざるを得ない状況になった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の基本対応方針として、講師等に対しては、事前にプレスリリースや新聞記事への掲載、当日の取材等について問題がないかを確認し、合意形成を図っておく。
数日前	オンライン関係	・ 個別問い合わせが多い。特に資料配付・CPD配布に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「分かるだろう」ではなく、「分からないかも」という前提で年配層が多いことを考慮して案内等に細かく書く。
数日前	オンライン関係	・ 資料配布時に開けない方が数名いた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダウンロード方法について、事前にメールで手順書を送付（特に参加者が高齢の場合は必要）。Win・MacのほかにiOSやandroid用も必要となる。
当日	資料準備	・ アンケートの入力案内用紙（会場用）とCPD票（会場用）を事前に用意して、イベント当日の朝に早めに来て印刷した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の朝でも十分に間に合うが、当日用意する場合は8時半くらいには来て印刷しないと余裕がない。当日の準備が大変な場合は、運営委員会を抜けて準備する等も必要。
当日	オンライン関係	・ 会場ーオンライン参加者間での画面表示や音声・設定等でのトラブルにより、開始時間が遅れてしまい、質疑時間の短縮等を検討しないといけない状態になってしまった。また、講演中も会場ーオンライン間での画面表示が上手くいかず、思った通りの進行ができなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の準備時間は余裕を持って設定し、当日の接続チェック等は必ず行うようにする。 ・ リハの段階で本番を想定したチェックリストを作り、一つ一つ懸案事項を確実に潰していくように方法を改善する。
当日	オンライン関係	・ 講師のPC操作や共有の確認時間、対応者が決まっていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時に誰がどのPCからどのデータを投影するなど確認項目を追加する必要がある。 ・ チェックリストを作成し、確認項目を確実にこなせるようにする。
当日	企画	・ 非会員・若手層を対象とした会場開催だったが、効果は限定的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場とオンラインが選べる場合、若手層はオンラインを選ぶのかもしれない。改善案は現時点で不明。
当日	現地運営	・ 委員が演台に行くときに参加者の前を通る必要があった	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員等の関係者席は演台近くに配置する。
当日	企画	・ 参加者の年齢層が高い（講師よりも年齢高い方が多	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年委員会の例会なので、参加者に対する青年層の割合を多くしたい。年齢制限などは引き続き検討する（会場は45歳以下限定、オンラインは制限なし等場合によっては有り）
当日	受付	・ 講師を一般参加者と間違えてしまい、失礼な対応をしてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の先生には予め目印になるものを渡す等、工夫する。ネームタグなどかけて入場していただければスムーズだったかもしれない。
当日	受付	・ 若手の参加者がどこに座っているのかわからなくなってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、声をかけたい若手の参加者に目印品をわたすなど、工夫する。例えば名札を渡せないときはアンケート用紙にマーカーで強調するなど。

→
改善するには

5 所感

青年委員会統括本部において、初の会場とオンライン参加者を招いてのハイブリッド例会を開催し、オンライン接続関係でのトラブル等が少々あったものの、ほぼ予定通りの進行ができ、無事に講演会を終了することができた。今回の CPD 行事は、全国からたくさんの方の参加者を募るために年齢制限を設けずに行うこととしたが、45 歳以下の若手会員や非会員に多く参加をいただけるよう、これまでの青年行事に参加された方に優先案内を流す等、参加者の呼びかけの工夫を行った。その結果、全国から幅広い年齢層の方に参加をいただけたが、講演内容を主目的に参加された方が多かったことや、45 歳以下の参加者数が思うように増えなかった等の反省すべき点があった。今回の結果を踏まえ、例会の企画運営の仕方や広報・宣伝方法等、工夫・改善を図っていきたい。

今回は Zoom ウェビナー機能を使用しての初めての例会で、そのことが当日の接続トラブルの要因にもなってしまったが、初めての試みを実現したことで、今後につながる良い成果を残すことができた。

また、今回は北陸本部や応用理学部会等の部会にも事前に働きかけを行い、企画・運営サイドとして参画していただくことで、地域本部や部会との連携という当委員会が掲げる一つの活動目標を達成することができた他、今後につながる良い関係性を構築することができた。

講師の講演内容はとても素晴らしく、全ての講演に共通するテーマや繋がりを感じることもできたため、今後もグループワークを主体とした例会だけではなく、講演会ベースの例会を継続しても良いのではと考える。本例会を通じて得られた知見や課題を有効活用し、今後より良い研鑽の場を提供できるよう、取り組んでいきたい。

6 実施状況



活動紹介



会場での講演状況



オンラインでの講演状況



質疑応答の状況



講師を囲んで参加者全員で集合写真

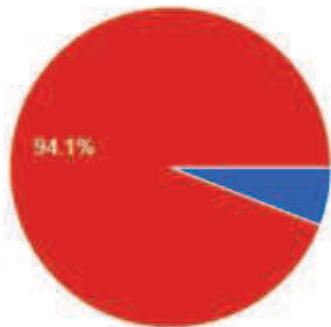
以上

11 月例会外部アンケート

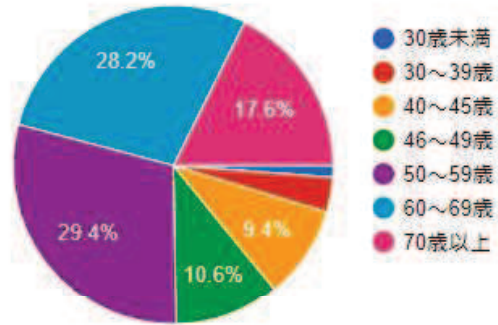
Q1. あなたご自身について教えてください

参加形態

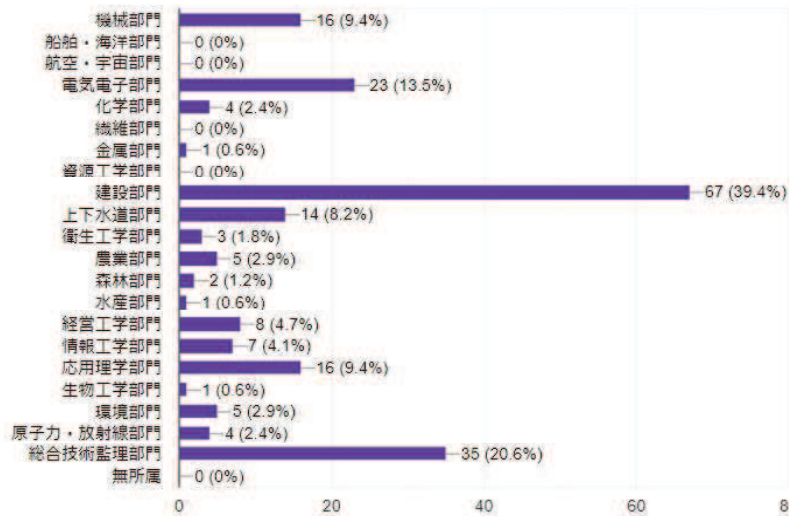
- 会場参加
- オンライン参加



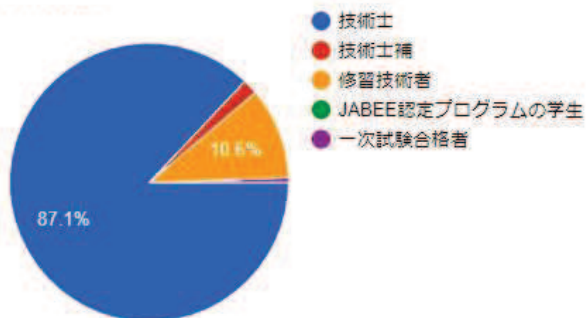
年齢



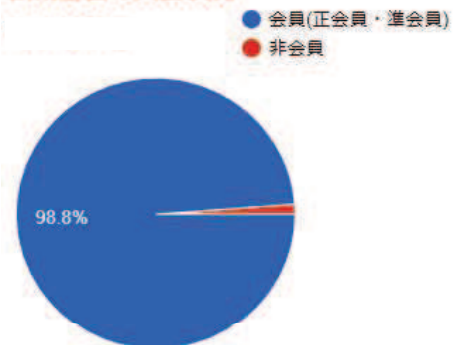
技術部門



技術士の区分

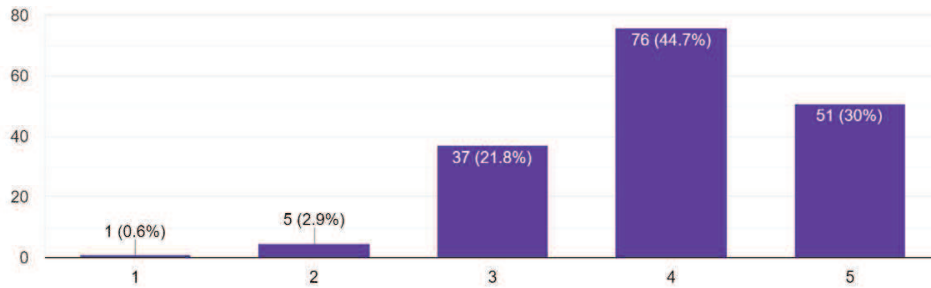


技術士会の入会状況

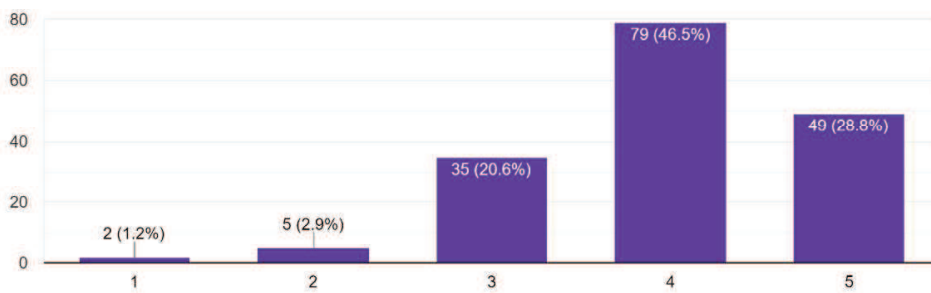


Q2. 今回のイベントについて

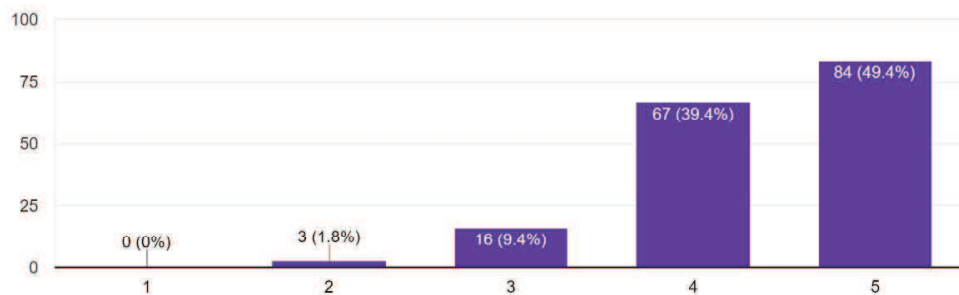
「数理工学による洪水予測の新しいアプローチ」の講演内容はいかがでしたか？



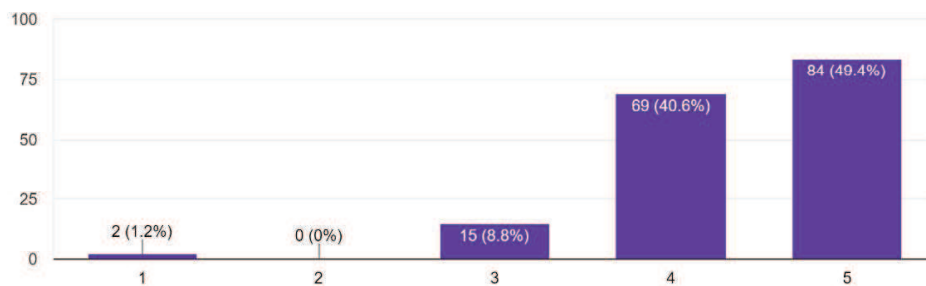
「数理工学による洪水予測の新しいアプローチ」の資料はいかがでしたか？



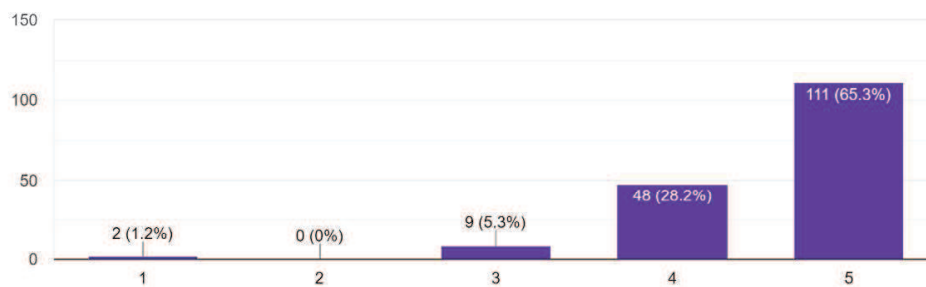
「100周年の信濃川・大河津分水路 次の100年に向けた大改修」の講演内容はいかがでしたか？



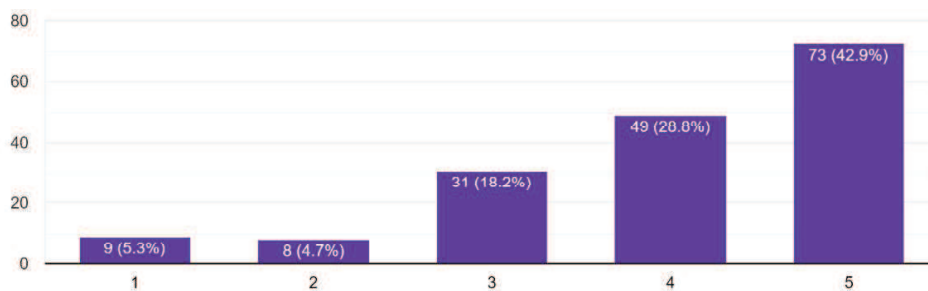
「100周年の信濃川・大河津分水路 次の100年に向けた大改修」の資料はいかがでしたか？



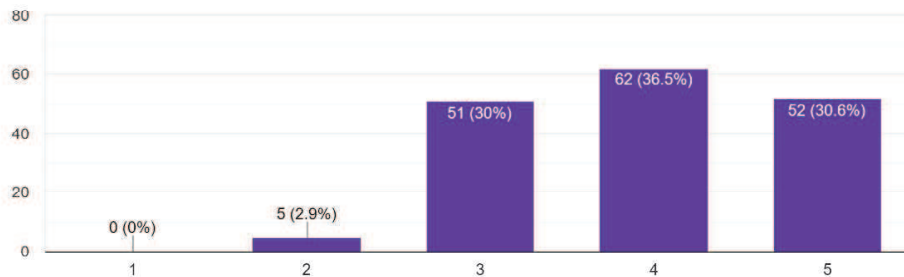
「激甚化する気象災害と災害への備え」の講演内容はいかがでしたか？



「激甚化する気象災害と災害への備え」の資料はいかがでしたか？



講演での青年スタッフの対応はいかがでしたか？



講演について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

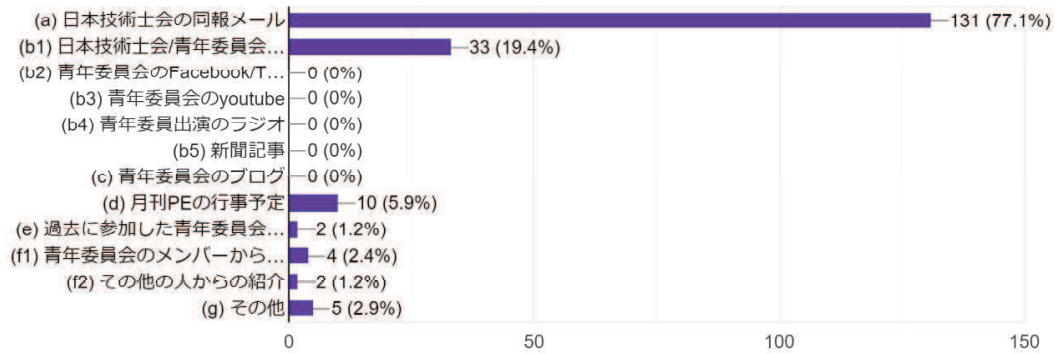
57 件の回答

- ✓ 若いスタッフが多く、頼もしく感じました。
- ✓ とても有意義な講演会でした。今後も期待しています。
- ✓ 貴重なお話を拝聴できました。ありがとうございました。
- ✓ トラブルなきよう頑張ってください。
- ✓ 災害気象については、継続して研修会を実施してほしい。
- ✓ 資料がダウンロードできなかった
- ✓ どの講演も興味深く、もう少しお話を聞きたかったです。
- ✓ web の併用方式は今後の主流になると考えます。講演のハード面の拡充をお願いします
- ✓ 南氏の資料がありませんでした。
- ✓ お疲れさまでした。業務や活動に役立てたいと思います
- ✓ 技術力アップのための気づきをいただきました。ありがとうございました。
- ✓ とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ✓ 大変興味深く拝聴できました。
- ✓ 素晴らしい講演内容と適切な運営に感謝いたします
- ✓ 今後も受講したいです
- ✓ 稲垣さんも仰られていたように、各講演の時間配分がもう少し長い方がよかったと思います。講演の組み合わせはよかったと感じました。
- ✓ 有意義な講演会でした。ありがとうございます。
- ✓ スムーズな進行に努めてください。
- ✓ 事務局の準備不足が否めない。
- ✓ 講演はメインの1本は1～1.5h程度のある程度詳細なものと、話題提供2題程度があれば理想的ではないかと思います。

- ✓ 最初もたつかないで、講演時間を多く確保してほしい。
- ✓ 質問時間を多くしていただくとありがたいです。
- ✓ 講師の皆さんのお話は十分興味深いものでしたが、せっかく立場や専門分野の違う3名に同じ課題で集まっていたのだから、講演はもう少し簡単・短くして、パネルディスカッションのような討論形式にしていだけたら、もっと興味深い内容になったと思います。
- ✓ どの公演も自分の専門分野や地域に近く、大変興味深いものでした。ありがとうございました。
- ✓ 講演の企画、実施ありがとうございました。
- ✓ 途中で雑音、人の声が入ったのは残念でした。
- ✓ 前半の2つは、時間が一寸短かったと思いました。
- ✓ 興味深く聴講させていただきました。
- ✓ 参考になる発表でした。ありがとうございました。
- ✓ 講演会序盤が慌ただしかったが、他は親しみを感じました。
- ✓ 技術士は高齢者が多いので青年技術士に今後の活躍を期待したい。なお講演については信濃川大河津分水路については、興味があり今後追加公演をお願いいたします。
- ✓ 素晴らしい講演内容で大変勉強になりました。私の住む近くに小規模河川があり、水位計の設置により河川からの越流による災害防止に役立てたいと思いました。
- ✓ 過去に経験したことがない洪水予測もできるのは素晴らしいと感じた。大河津分水路の歴史、役割やこれからのDXを使用した工事の進め方など学ぶことができた。急激な気象変化による気象災害の変化や、災害に対する備えの必要性を学ぶことができた。
- ✓ どの講師のお話も興味深く拝聴いたしました。特に南利幸さまはテレビ出演されているだけあって、話し方が面白く、講演中に簡単なクイズもあって楽しかったです。
- ✓ 良い企画でした。稲垣さんと同じ感想です
- ✓ 確立による洪水予測の手法。歴史から始まり、わかりやすい資料で信濃川大河津分水路が、現在も改築されていること。気象予報の基礎的な知識等、非常に興味がわき、大変有意義な講演で勉強になりました。ありがとうございました。
- ✓ 講演会資料全てパソコンで開くことができずこれが不満です。最後の南先生の話は面白かったです。災害時に助けにいくのもよいですが、逃げるタイミングの大切さが二次災害の防止につながる話は印象に残りました。
- ✓ コロナ渦でのハイブリット開催おつかれさまでした。
- ✓ 非常に興味深い内容でした。ありがとうございました。
- ✓ 普段聞けない内容を話を聞けて、大変勉強になりました。また、多忙な中、会場設営等ご苦労さまでした。
- ✓ オールド会員です。オンラインも含め 初めて 青年技術士会 例会に参加。シニアの年齢では中々経験できない 数理解析や河川工事の実際、南氏の 最近の気象災害 全て 感激しました。今後も参加したいです。

- ✓ 南気象予報士の話をもっと長く詳しい話を聞きたいと思いました。
- ✓ 私の専門は、河川計画分野なので、今回の講演の3つとも大変有意義な内容でした。このような聴講機会をつくって頂き、講師並びに運営スタッフの皆様に感謝致します。
- ✓ 楽しい会でした。
- ✓ 内容や分量により講演者と時間配分の調整をもう少し調整した方がよいのではないかな？
- ✓ 青年の範囲に含まれていない人にも、とても興味深く有益となりました内容の講演でした。
- ✓ 大変参考になる講演でした。各公演の時間がもう少し長くても良いのではないかと感じました。
- ✓ 普段情報入手の機会がない内容での講演、大変勉強になりました。有難うございました。
- ✓ 青年の集まりに老人を参加させていただき、ありがとうございました。
- ✓ 企画運営お疲れ様でした。講師に気を遣わせないように心がけて下さい。
- ✓ 大河津分水の歴史から現代の改修事業が良く、理解できた。また、南さんの気象予報士から論じた豪雨のメカニズムは、大変解りやすく、時間を忘れた。もう少し長く聞きたかった。
- ✓ 講演資料のダウンロードに手間取って「資料」なしで受講致しましたのが残念です。
- ✓ 数理工学出力結果を事前予想に適用できるよう検討してほしい
- ✓ 南氏のように、専門分野が異なっても理解しやすい講演は印象に残りました。
- ✓ 機器トラブルありましたが対応ありがとうございました。
- ✓ 例会をもっと充実させてください。期待しております。
- ✓ 色々手を打っていることが分かった。

Q3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの

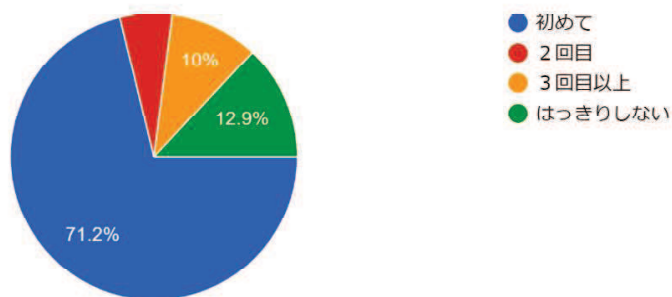


その他と答えた方は具体例を教えてください。(任意)

5 件の回答

- ✓ 土木学会の CPD 開催プログラムの案内
- ✓ 青年委員会の研修についても、良いものがあれば参加いただければと思いました。それを実行していただきまして、ありがとうございました。
- ✓ 原子力学会の広報メール
- ✓ 技術士会 CPD 一覧表
- ✓ 気象予報士の南さんが講演されると伺い参加を決意しました

統括本部の青年委員会のイベント参加は初めてですか？



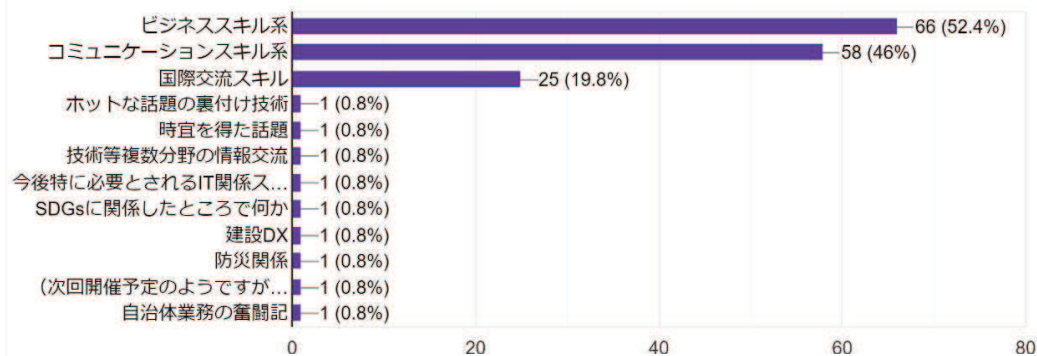
2回目以上と回答いただいた方に、過去に参加した統括本部の青年委員会のイベントで印象に残っているものがありましたら、教えてください。(任意)

7 件の回答

- ✓ 技術の伝承外
- ✓ 傾聴

- ✓ 昨年秋のバーチャルテクノツアー
- ✓ 2019年1月の、海外研修の報告会
- ✓ 令和3年度合格者行事
- ✓ R3全国青年の集い VRオンラインテクノツアー
- ✓ プレゼンテーション関連の講習会

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。



青年委員会に質問したいこと、伝えたい内容がありましたら、ご記入ください。

41 件の回答

- ✓ 頑張ってください。
- ✓ 一般に周知してはどうか、、、
- ✓ 本当に運営お疲れ様でした。企画も素晴らしいと思いました。
- ✓ 良いテーマ選定ありがとうございました。
- ✓ とても有意義でした。ありがとうございました。
- ✓ ありません
- ✓ 46歳以上でも傍聴できるしくみがあれば、オンライン参加したい。
- ✓ 特にありません。これからの活動に期待いたします。
- ✓ 頑張ってください
- ✓ 45歳超えでも参加できる行事は、メールにタイトルで強調するなどにして頂けるとありがたいです。
- ✓ 年齢制限を緩和いただくとありがたいです。
- ✓ 年寄りにも参加させてくださってありがとうございました。
- ✓ 青年委員会の活力を感じました。
- ✓ 特にございません。
- ✓ 自分の分野をわかりやすく伝えるのに際し、日本語で学んだものを英語でも表現できると、なお良いと思います。

- ✓ 久々に参加しました。楽しかったです。これからの頑張ってください。ありがとうございました。
- ✓ 今後の活躍を期待したい。
- ✓ 農村部の過疎化が進んでおります。対策の提案などについて青年委員会に期待します。本日はお疲れさまでした。
- ✓ 年齢制限を 50 歳までにしていただきたい。
- ✓ 講演内容によっては、45歳上限の制限を外してほしい。
- ✓ 交流委員会から青年技術士支援へうごいていると感じています。河野委員長 マネジメント 今後ともよろしくお祈いします
- ✓ 今回のテーマ設定は時節柄とても良かったと思います。運営面では役員の挨拶が多すぎると感じました。
- ✓ オンラインは移動時間もかからず、有意義な話が聞ける点が大きく、今後も参加できればと考えています。参加費用は一度では大した金額ではないのですが、回数が多いとそれなりの金額となるので回数に関係なく参加できるとありがたいです。
- ✓ 富山在住ですので統括本部の行事に参加されている方もぜひとも北陸本部の行事に参加いただければと思いました。
- ✓ 若い技術士の皆さんの 行動力と 実践力に 感謝しています。医工連連携などの企画も期待しています。
- ✓ 45 歳以下が青年委員会と聞きましたが、46 歳からは退会されるのでしょうか？
- ✓ 新型コロナの中、企画・準備など大変だと思います。無理のない範囲で頑張ってください。
- ✓ ありがとうございました。オンラインで受講しましたが、画面共有が講演資料よりも、会場雨の様子ありがたいと思ったときが何度かありました。また、チャットがディセーブルで、接続トラブルなり(感謝も含め)反応を連絡しにくく感じました。
- ✓ 45 歳上限は再考した方がよいと感じる。技術士の年齢分布等を考慮すればもう 5 歳くらい年齢あげた方がいいのでは？
- ✓ 青年限定との記載がございましたが、可能な限り、全ての人へ、講演の聴講の機会を設けて頂けますように、よろしくお祈いいたします。
- ✓ 大変有意義な講演会でした。有難うございました。
- ✓ 今後ともレベルの高い講演会の提供、よろしくお祈いします。
- ✓ 非常に勉強になる催しを開催くださり、誠にありがとうございました。
- ✓ 若さをバネに御健闘下さい。
- ✓ 今後も楽しみにしています。
- ✓ 若い世代の行動に感動します。多少の勇み足は若さの特権と思います。現業もありお忙しいでしょうが期待しています。
- ✓ 講演前後の挨拶はらない
- ✓ 今後も頑張ってください。

- ✓ 意欲的魅力的な講演をありがとうございました。事務局様、大変お疲れ様でした。今後ともこのようなご縁を期待しています。
- ✓ 微力ながら応援しています。
- ✓ 技術の輪が大きく広がる事を願っています。期待してます。

行事名	専門分野をわかりやすく伝えよう！
日時	【例会】2023年1月21日(土) 13:30~17:00 【懇親会】 同日 17:00~17:30
場所	機械振興会館 6-66会議室
講師、発表者	なし
担当者:	原田副委員長、徳原委員、明山委員補佐、高瀬委員補佐、佐藤副委員長
参加者数	【例会】25名(一般11名、委員14名)【懇親会】25名

1 背景・目的

聞き手の知識量や理解力に合わせて自分の専門分野について説明することは、技術士として必要不可欠な能力である。この例会では、相手に「伝える」のではなく「伝わる」ことを目指して、伝え方について体系的に学び、実際に自分の専門分野について専門外の人に説明することで、コミュニケーション力強化を目的とした。特に、全員がそれぞれ演習を行う、アウトプットを重視した例会とした。技術士に求められる資質能力(技術士PC)の内、「5. コミュニケーション」の継続研鑽を図った。

なお、青年技術士支援委員会の活動の主な対象である45歳以下の会員を対象として、参加者を募集した。

2 例会内容

(1)アイスブレイク

事前に主催者側で決めた4名ずつのグループ内で、1対1で自己紹介を実施し、他の3人のメンバすべてと自己紹介できるようにした。短時間に自己紹介と質問を行うことにより、この後のグループワークの前に、メンバの部門や仕事内容の概要を理解できた。なお、グループはできるだけ同一部門が重ならないように工夫した。

(2)グループワーク

グループ内で3回のグループワークを実施した。1回目と2回目は同じグループで下記テーマ1を、3回目はグループを変えて下記テーマ2について、それぞれ3分間で他のグループメンバにプレゼンする演習を行った。演習内容に対して、他のメンバからフィードバックシートを用いて改善すべき点やよかった点をコメントしてもらうようにした。

テーマ1「自分の専門分野とその面白さについて」

テーマ2「自分の専門分野で私が注目している技術トピック」

グループワークを通して自分の説明のわかりにくい点を認識できたとともに、それが改善していく様子が見られた。また、青年技術士支援委員会の例会は多くの部門の若手技術者が参加する例会であるが、今回のグループワークによって普段関わりのない他の部門の内容や技術トピックについても知見が深まり、青年技術士支援委員会の例会参加者の特徴を生かした例会となった。

(3)青年委員によるポイント説明

グループワーク1回目と2回目の間に、青年委員による「専門分野をわかりやすく伝えるためのポイント」を6項目に分けて説明した。説明した項目は「1.主題を明確に」「2.目次を伝える」「3.主観と客観を分離する」「4.相手に寄り添う」「5.メリハリをつける」「6.比較を使う」であり、本例会担当者が様々な本やこれまでの経験から、技術者が陥りがちな説明不備項目を持ち寄って定めた項目である。

(4)懇親会

参加者と青年委員を含めて、例会と同じ会場で飲食なしで開催した。最初は一般参加者全員に例会の感想を述べてもらい、そのあとは名刺交換や情報交換をそれぞれ自由に実施する形態とした。対面の例会が数年ぶりやコロナ以降初めてという参加者も多く、委員と参加者、あるいは参加者同士で積極的にコミュニケーションを取る様子が確認できた。

3 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費（正会員・準会員）	9	人	1000	9000 円
合計①				9000 円

【支出】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金	0	人	0	0 円
講師交通費	0	回	0	0 円
スケッチブック(3冊)	1	式	1490	1490 円
合計②				1490 円

【収支】

①－②＝ 7510 円

4 成果と所感

今回の例会の KPT と所感を以下に示す。

(1) K:keep 良かったこと（今後も続けること、成果）

- ・時間管理を綿密に行えた。グループワークの時間管理が良かった。
- ・スライドの表示や司会者、進行のフォローもあり、数分レベルで仕切るタイトな時間管理を適切に行えたこと
- ・ファシリテーターが流れを十分に理解し、グループ毎の作業が円滑に行われた。
- ・参加者の方と適度な交流ができた。全面現地開催で、フレンドリーな雰囲気醸成できた。
- ・プレゼン資料がわかりやすいと好評であった。
- ・内部講師で、当委員会の個性が十分に発揮された。外部講師に頼らず青年としてネタ提供できた。内部メンバーで企画をすることができ、企画側も参加側も双方勉強になる機会をもてたこと。
- ・現地開催の例会経験が少ない中、委員が経験を積む機会となった。
- ・リピーターが相応におり、今後の継続参加への足掛かりとなった。
- ・各参加者が話す時間を長くとれた
- ・対面でグループワークを行うことでお互いに刺激し合える時間を参加者側へ提供できたこと。
- ・一番重たい部分を一人に頼り切るのではなく複数名で分担できた。

(2) P:problem 悪かったこと（今後はやめること、反省点、改善したいこと）

- ・グループワーク中の時間のアナウンスが徹底できていなかった。
- ・内輪的な雰囲気から脱却できなかった。
- ・懇親会は、開催の是非から一考の余地あり。
- ・進行がタイトで、参加者に変な思いをさせた。
- ・グループワークでは分野を分散させたつもりだったが、部門が異なっても近い分野の方が同グループに配置されてしまった。
- ・ファシリテーターや参加者としてご協力いただいた委員の力量に頼む形となってしまった。ファシリテーターの負担重めだった。
- ・想定よりも集客数が少なかった。
- ・参加者目線で、スケジュールの画面表示を工夫すべきであった。
- ・事前準備が特定の人に偏り、役割分担を平準化すべきであった。
- ・ブログ更新した際に FACEBOOK を更新していなかった
- ・テーマの事前周知が、伝わっていないひともいた
- ・タイムキーパーは当日参加者グループワークの様子を伺ったりする余裕がなかなか持てなかったこと。
- ・当日はベルを借用したが 1 回目と 2 回目で区別をつく鳴らし方をすることが難しかった。
- ・外部アンケートの回収率が悪く、例会中に記入時間を作る必要があった。

(3) T:try 次に挑戦すること

- ・内輪ネタで盛り上がっているのをやめる。受付開始後、例会開始までの間に委員どうしではなく参加者に話し

かける。

- ・懇親会について車座は同調圧力が強かったので、小さいグループを作っておいて参加者に青年委員が話しかけるスタイルにするなど工夫が必要である。名刺交換会として、青年委員が参加者に話しかけることを徹底するなど。
- ・グループワーク中に企画側が話しかけるなどの対応が必要。グループワーク中に何か気の利いた行動・声かけができてよかったかもしれない。
- ・タイムキーパーもグループワークの内容を聞けるように分担を調整する。
- ・宣伝(ブログ、同報メール)に少し工夫があったほうがよい。
- ・写真の保存ルールを整理・徹底したほうが良い。

(4) 所感

外部講師を呼ばない形式で、青年委員がグループワークと講義のすべてを担当する対面の例会は、コロナ禍ではほとんど実施できておらず、現在の0期・1期の委員の中にはこれらの経験がなく、一から手探りで内容を検討・模索する例会となった。十分に検討に時間をかけた結果、グループワークや講義の内容は充実し、複数の技術部門の技術者が集まる青年技術士支援委員会という特性を十分に生かした内容となった。

その一方で1月の繁忙期やコロナ禍という状況から参加者数が予想よりも少なかったことや、来ていただいた参加者ではなく青年委員どうしで盛り上がってしまった状況があるなど、対面開催ならではの課題もいくつか見受けられた。懇親会についてもどのような流れにすれば、任意参加かつ交流を促進できるかをしっかり検討する必要がある。

今後、コロナが5類に移行することが決まっており、対面開催の例会が増えることが予想されることから、今回のよかった点・改善すべき点を次の例会に確実につなげ、より若手技術者の自己研鑽に資するとともに、「また来たい」というリピーターを増やす例会を開催していく必要がある。

5 今後の展開

以下を重点的に検討する。

- ・今回の内容は青年委員内部例会でも活用できるものであり、他の部門に関心をもつきっかけにもなるため、今後の内部例会開催を検討する。
- ・飲食が制限される状況での懇親会の内容を検討する。
- ・宣伝の方法の見直し
- ・写真の保存ルールの整理
- ・参加者が会場に来た際の青年委員の対応の整理

6 実施状況

【グループワークの様子】



【集合写真】



【懇親会】



以上

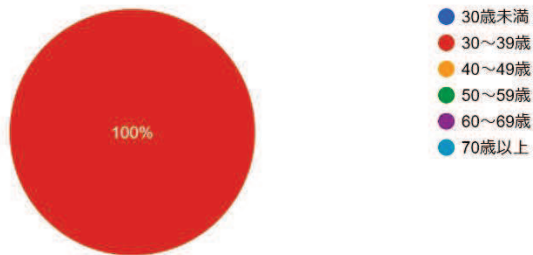
青年委員会 1月 CPD 行事 外部アンケート結果

一般参加者 11名
アンケート回答者 4名

1. 回答者属性

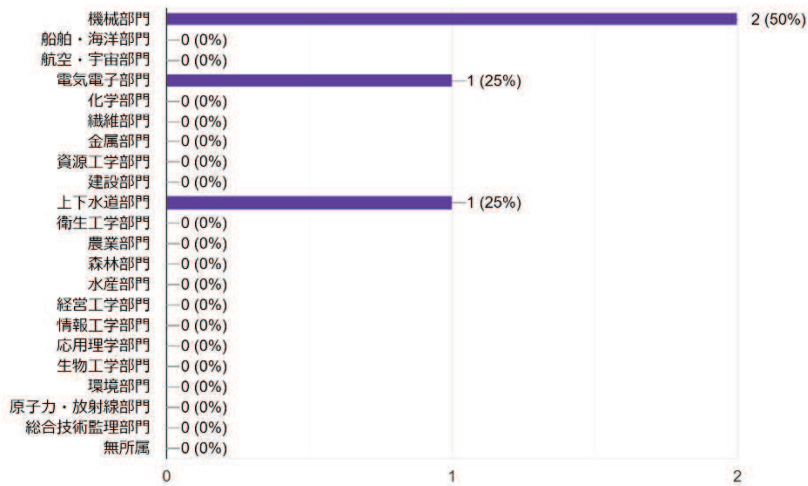
(1) 年齢

年齢
4件の回答



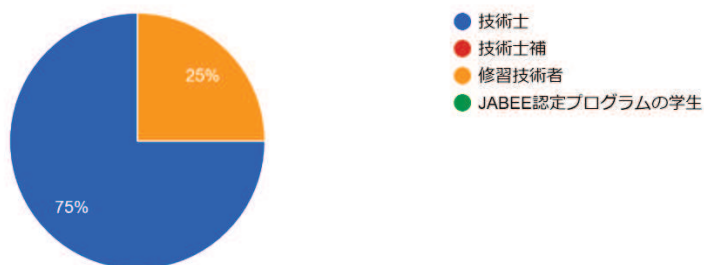
(2) 技術部門

技術部門
4件の回答



(3) 技術士の区分

技術士の区分
4件の回答



(4) 技術士会の入会状況

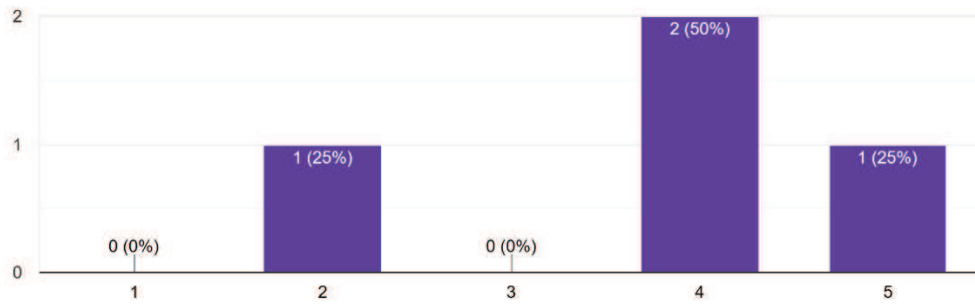
技術士会の入会状況
4件の回答



2. 今回のイベントについて

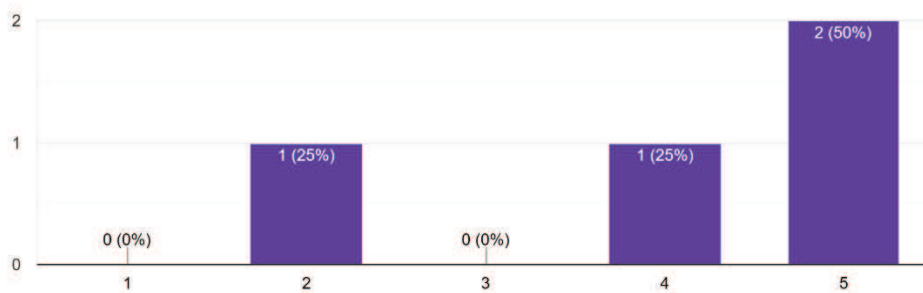
(1) 本日の講義内容について

1. 本日の講義内容はいかがでしたか
4件の回答



(2) 講義の資料について

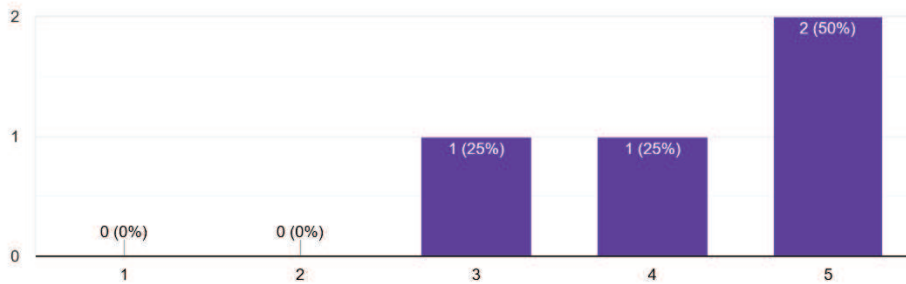
2. 講義の資料はいかがでしたか？
4件の回答



(3) 講義での青年スタッフの対応について

3. 講義での青年スタッフの対応はいかがでしたか？

4件の回答



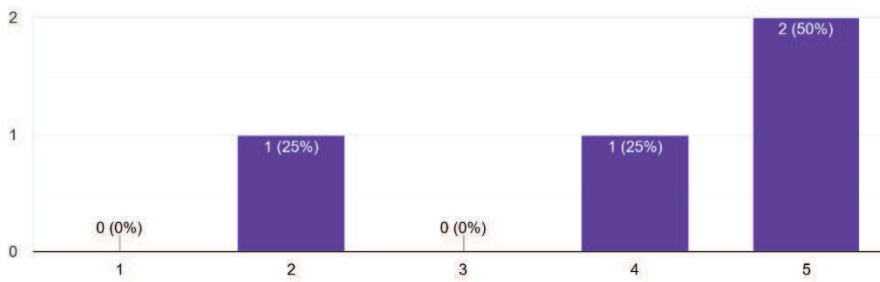
(4) 講義について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

回答なし

(5) グループワークの内容について

5. グループワークの内容はいかがでしたか？

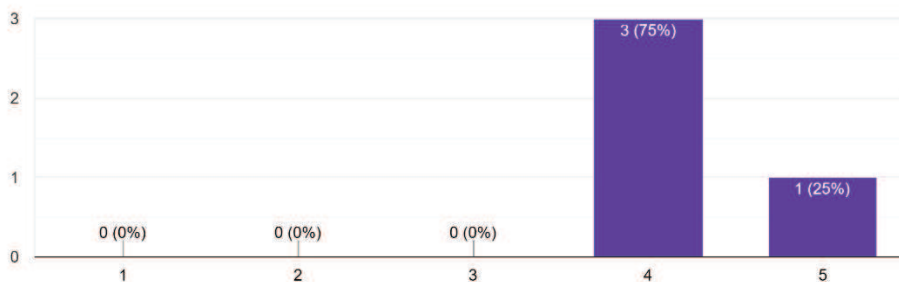
4件の回答



(6) グループワークでの青年スタッフの対応について

6. グループワークでの青年スタッフの対応はいかがでしたか？

4件の回答



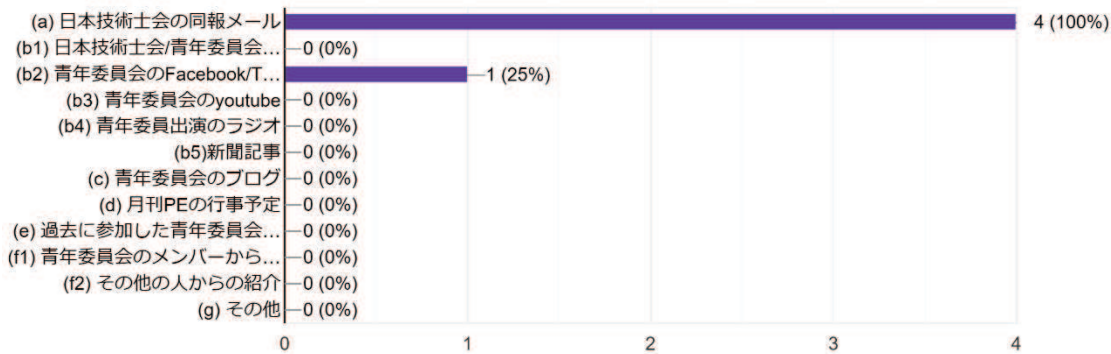
(7

(7) グループワークについて、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。(任意)

回答なし

3. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったもの

4件の回答

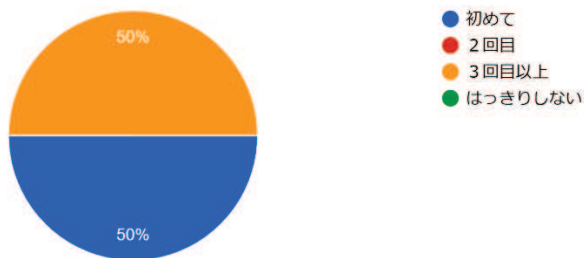


4. 青年委員会のイベントについて

(1) 過去の参加回数

統括本部の青年委員会のイベント参加は初めてですか？

4件の回答

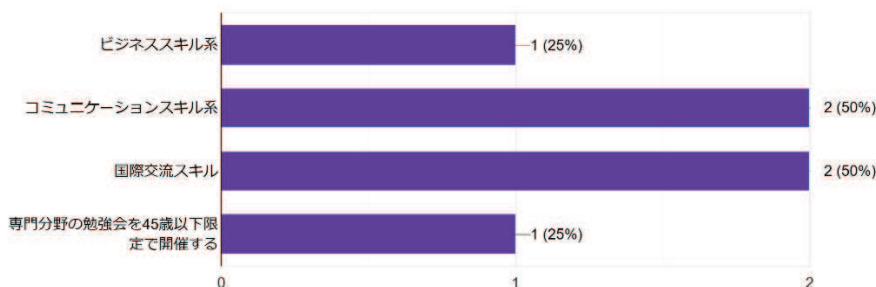


(2) 過去の青年イベントで印象に残っているもの 激甚化する気象災害

(3) 開催してほしい内容

今後の統括本部の青年委員会のイベントで、開催してほしい内容がありましたら、教えてください。

4件の回答



5. 青年委員会に質問したいこと、伝えたいことがありましたら、ご記入ください。

・企画ありがとうございました。

6. 青年スタッフへの興味の有無

回答なし

以上

行事名	今日から君もコンサルタント！技術経営 入門編
日時	【CPD 行事】 2023年2月18日(土) 13:30～17:00 【懇親会】 同日 17:00～17:30
場所	機械振興会館 6-66会議室
講師、発表者	落合技術士事務所代表 落合政彦氏
担当者：	徳原、山本、鎌足、森、高木
参加者数	【CPD 行事】 25名（一般13名、委員12名） 【懇親会】 22名

1 背景・目的

近年 AI や IoT をはじめとする技術革新によりビジネスモデルが変化しつつある。製造業ではこのニーズに対応すべく少品種大量生産から多品種少量生産にビジネスモデルが変化している。そのため技術者にも生産性・経済性を考慮する機会が増えている。そこでこれからの技術者には自分の専門性に加えて簿記知識・財務諸表の分析などビジネスに関する知識も求められている。

本会には慶応技術士会で知り合った落合政彦技術士（電気電子部門、長野県支部、経済学部卒で商社・メーカー勤務を経て独立開業）に技術者に不足しがちな経済・経営についてご講演・グループワークを依頼する。

2 CPD 行事内容

(1) 講演

前半の講義では、落合講師がこれまで数々勤務された経験を元に、事業者側としての立場では「堅実」「厳格」「前例を踏襲した基本的に忠実」、製造者側では「ルールが厳格」「教育体系が充実」「投資判断は費用対収支のバランスや安全安定生産への貢献」、事業展開を提案する商社では「正解はなく最適解を模索する」といった3社のそれぞれの立場を解説し、3社の違いを技術に加えて経営という観点から解説頂いた。

(2) アイスブレイク

アイスブレイクは各グループ内で自己紹介をし、重要と考える技術士コンピテンシーを披露し合うとともに、グループ名を決めてもらった。アイスブレイクを行うことで、グループ内の人物や考え方を知ることができ、その後のグループワークでの議論を円滑に進める事ができた。

(3) グループワーク

身近な例として、事業所の電気料金の削減のため下記2つのケースについてワークを行った。

1. 太陽光発電設備の導入
2. 蓄電設備の導入

上記2つケースに対して導入した場合、どの程度電気料金が削減できるのか、投資回収に要する期間の計算を行った後、顧客に対して経営管理・社会環境・安全管理の視点から提案するためのアプローチ方法を個人ワークで検討した後、グループ内でディスカッションを実施した。

投資、回収、利益、損益分岐点等の経済的な視点だけでなく、CO2削減効果によるSDGsへの取り組み

みとしてのメリットや、災害時の備え(BCP)としての重要性など、数値化しにくい面についても活発に議論を行い、技術的観点から企業価値を向上させる”技術経営”の理解を深めることができた。

各グループのディスカッションの様子を講師が見て回り、ディスカッション終了後、特徴のある意見や新しい視点等、気になった意見を述べた参加者を講師が指名し全体に対して発表、紹介して頂いた。

(4) 交流会

参加者と青年委員を含めて、同じ会場で飲食なしで開催した。1月 CPD 行事での成果と所感を踏まえ、車座形式にしつつも、輪を複数作りグループの人数を少なくした。最初は全員に CPD 行事の感想を述べてもらい、その後、テーマに分かれてグループを変えた。飲食なしではあったが、参加者同士だけではなく、参加者と青年委員が積極的にコミュニケーションを取る様子が確認できた。

3 収支報告

【収入】

項目	数量	単位	単価	金額
参加費（正会員・準会員）	10	人	1,000	10,000 円
参加費（非会員）	3	人	2,000	6,000 円
合計①				16,000 円

【支出】

項目	数量	単位	単価	金額
講師謝金	1	人	10,000	10,000 円
講師交通費	1	回	11,300	11,300 円
資料カラーコピー代	1	式	1,292	1,292 円
合計②				22,592 円

【収支】

$$\text{①} - \text{②} = -6,592 \text{ 円}$$

4 成果と所感

今回の CPD 行事の KPT と所感を以下に示す。

(1) K : keep 良かったこと（今後も続けること、成果）

- ・興味を惹くタイトルであったため、案内期間が短いにもかかわらず参加者が集まった。
- ・参加者の年齢制限を設けることで、若手技術者が集まった。
- ・対面開催に限定することで、当日の運営担当が少人数でも開催できた。
- ・外部講師を招聘し、講演・グループワークを企画してもらうことで準備時間を短縮できた。
- ・同世代の独立した技術士を講師に招くことで独立技術士の現実を知ってもらう機会を提供できた。
- ・提示スライドを一つにまとめることで、スライドの切り替えをスムーズにすることができた。
- ・アクセアのセルフコピー機を使用することでカラーコピー代を削減できた。（A3 で 33 円）
- ・CPD 行事中にアンケート記入時間をもうけたことで全員から回収できた。
- ・担当者は3名くらいが適切だと感じた。意思決定が早くて進めやすい。
- ・CPD 行事の期間を空けない事でリピーターが増え、オブザーバーを獲得出来た。
- ・1月 CPD 行事の反省を踏まえて、青年同士の内輪的な雰囲気をも薄くすることが出来た

(2) P : problem 悪かったこと (今後はやめること、反省点、改善したいこと)

- ・講師と講演内容の擦り合わせが不十分であった。
- ・講師の講演資料提出が当日となったため担当者間で内容を確認することができなかった。
- ・講演時間が大幅に短くなってしまった。タイムテーブルの認識合わせが不十分であった。
- ・担当者の考える講演内容と実際の講演内容に齟齬が生じた。
- ・講演のリハーサルを実施しなかったことで齟齬が生じてしまったと思われる。
- ・講演において時間配分を管理するタイムキーパーが必要であった。
- ・グループワークの時間配分が講師の想定よりも長くなったためアウトプットの時間をとれなかった。

(3) T : try 次に挑戦すること

- ・講師の力量について、講演のリハーサル等を通じて十分に確認をする。
- ・講演に不慣れな講師に対しては必要に応じて積極的にサポートを行う。
- ・講演内容の事前確認時はマイルストーンを設定し、講師と調整を実施する。
- ・マイルストーンに達しない場合は開催の可否を検討する。
- ・グループワークの企画は担当者も検討し、講師と密に調整する。
- ・グループワークの時間配分には十分な余裕を設定する。
- ・時間が不足するようでも発表（アウトプット）は必ず行う。

(4) 所感

外部講師を招聘し、講演だけではなくグループワークもお願いする形式での開催は委員の負担を軽減できることから、開催のハードルは低いといえる。一方、内容は講師の技量に委ねることとなるため、講師の技量を見極める事、特に講師の講演内容が当会の希望するものと合っているか、グループワークで得られるものが当会、担当者の考える目的と合致しているか、初期段階で見極める事が重要であることを痛感した。

本会に招聘した落合氏は経済学部を卒業され様々な会社を経験された異色の経歴をお持ちであったが、担当者の考える講演内容と実際の講演に齟齬が生じていた。担当者の考える技術経営の講演は、技術者が、自社や他社の経営陣や意思決定権を持つ人物に対し技術提案を行う場合において、技術以外の経済性や環境性等の考慮すべき事項、考え方、経営者の視点の解説であった。しかし、講師の考える技術経営の講演は、技術者がどのように技術士事務所を運営しているかの実態披露及びその解説に留まっていた。このような齟齬の要因は担当者と講師との間で認識の擦り合わせが不十分であった為であり、反省の必要がある。

また、当日の講演では当初のスケジュールと講演時間にずれが生じてしまい、予定時間の半分で講演が終了した。講演自体は講師に委ねていたものの、残り時間の揭示や、講演の進み具合の誘導等は青年委員会側でサポートする必要があるとの反省がある。

以上を踏まえ、今後は講師との綿密な調整を実施し、必要に応じて講演内容や時間配分についても適切にサポートを行うことで担当者の負担を最小限としつつも充実した CPD 行事を企画出来るものと考えている。

5 今後の展開

以下を重点的に検討する。

- ・経営に関する知識は技術者にとっても必要であると考えられることから、当会の目的に合う講演ができる講師を選別して、経営に関する講演を依頼する事が良いと考える。
- ・マイルストーンによる管理を行い、達しない場合には支援や開催の可否を検討する。

6 実施状況

【グループワークの様子】



【集合写真】



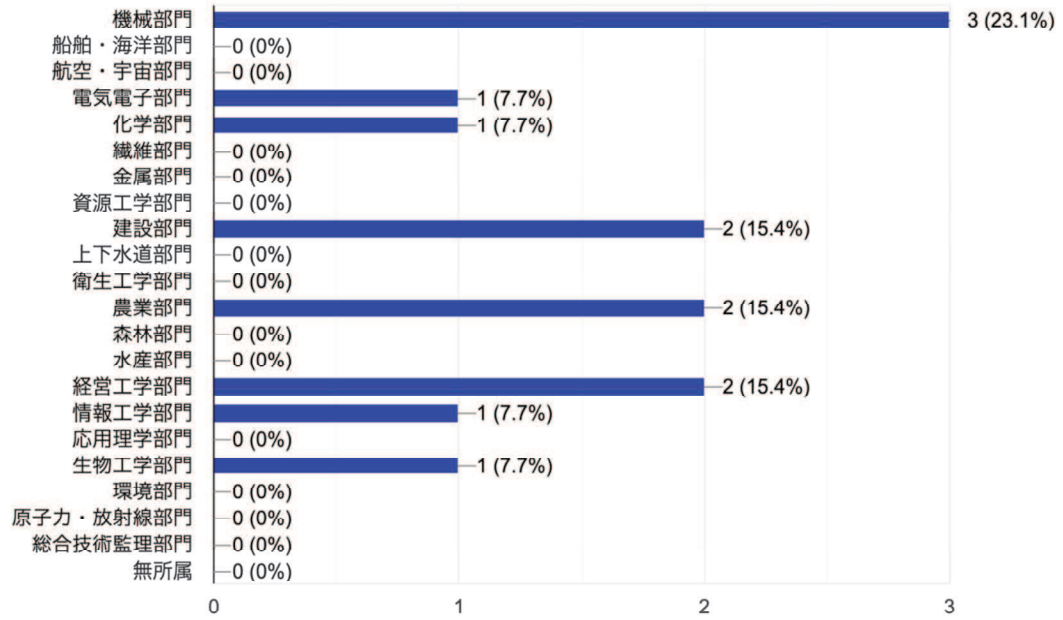
【懇親会】



以上

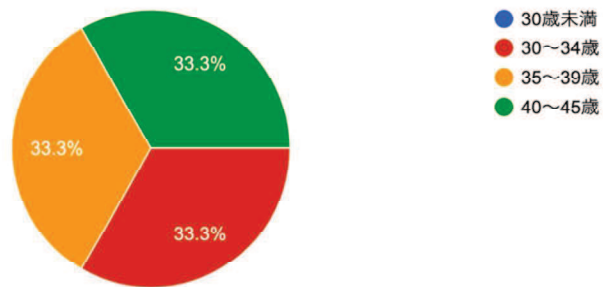
2.技術部門

13 件の回答



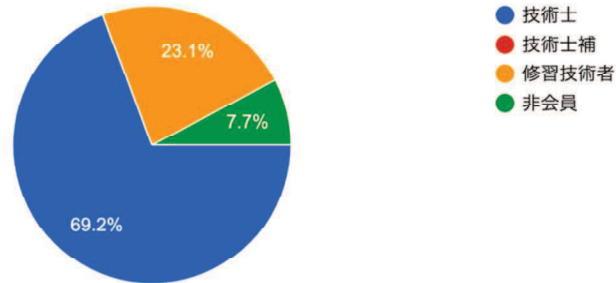
年齢層

12 件の回答



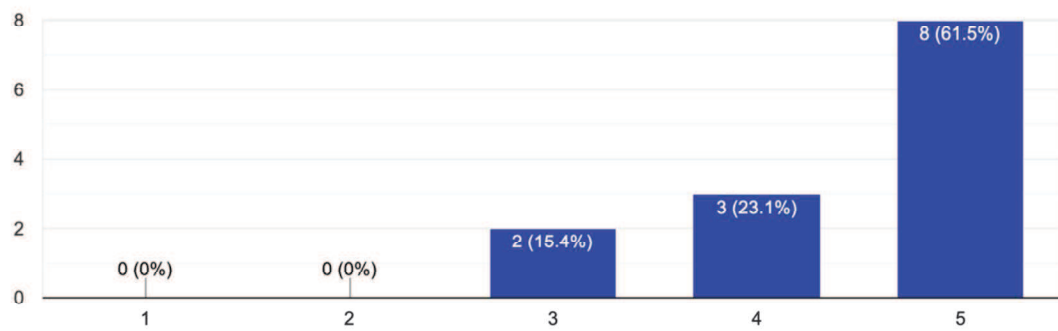
区分

13件の回答



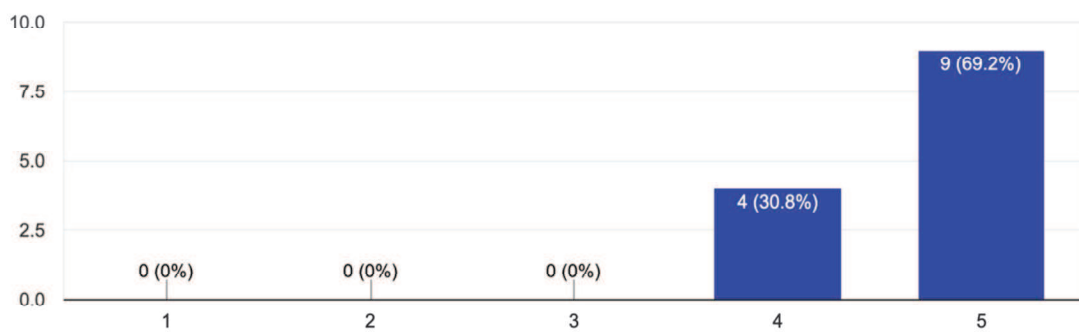
1. 講演会の内容

13件の回答



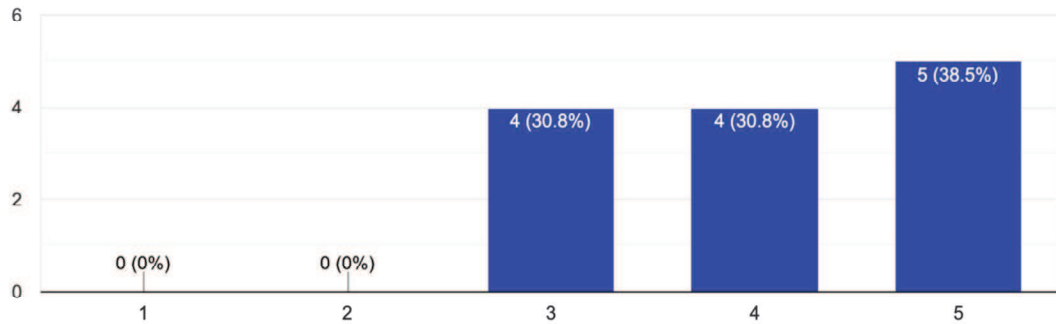
2. 講演会でのスタッフの対応

13件の回答



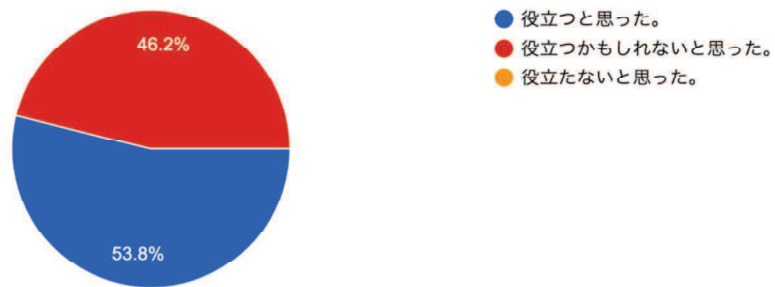
3. 講演資料の内容

13件の回答



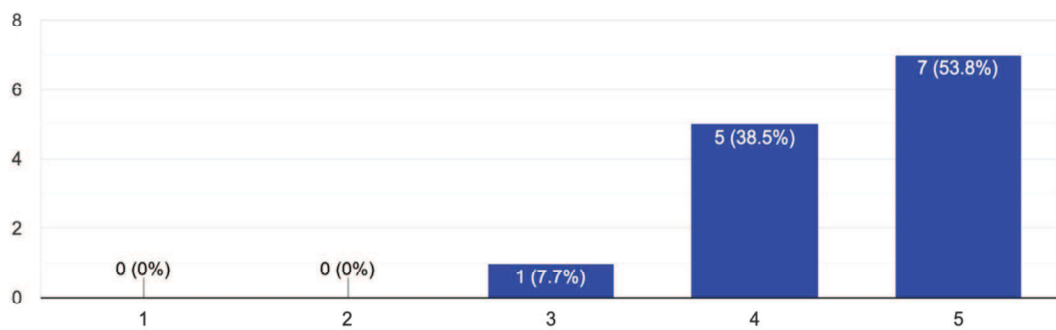
4. 今回のイベントでの学びが立つと思いますか？

13件の回答



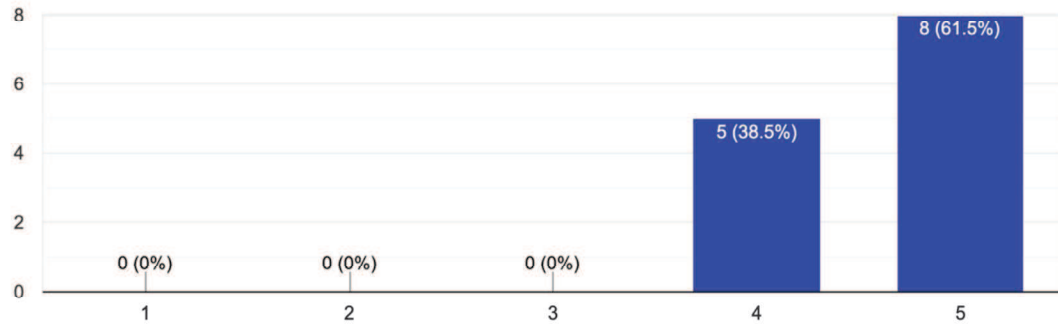
1. ワークの内容

13件の回答



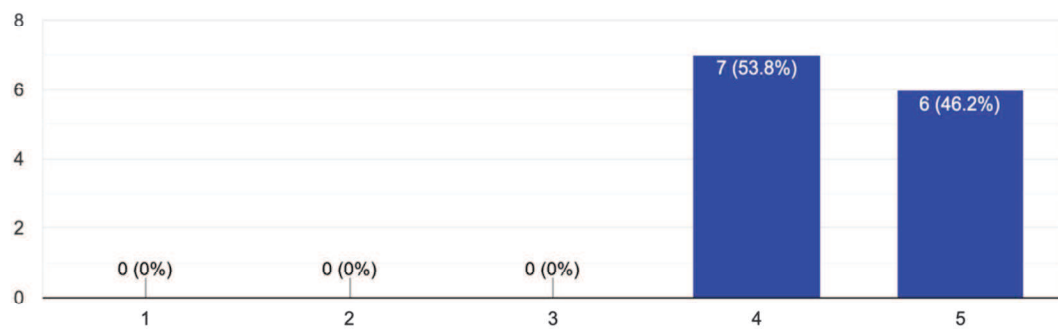
2. ワークの進行、進行役の話し方について

13件の回答



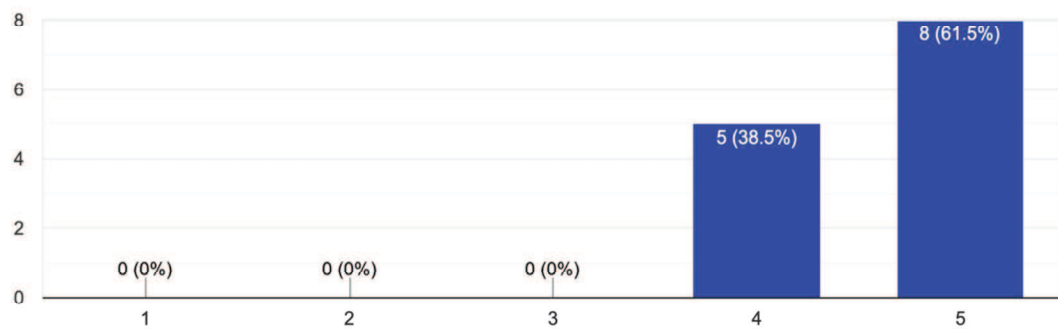
3. ワーク資料の内容

13件の回答



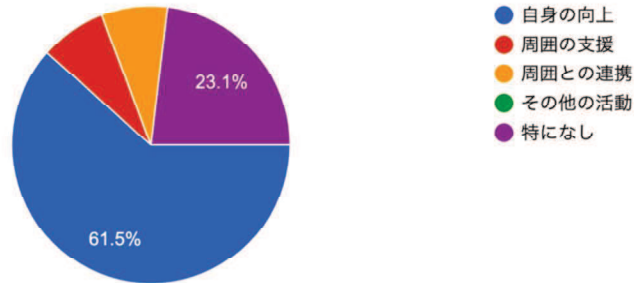
4. ワークでのスタッフの対応

13件の回答



ご自身の具体的な活動について

13件の回答



その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

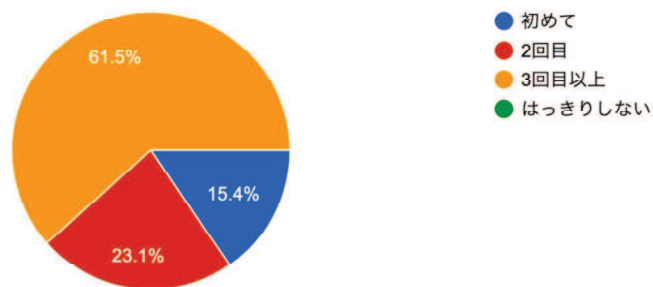
2件の回答

CPD参加、別の資格の取得

人材育成、組織活性化

1. 青年委員会のイベント参加回数

13件の回答



2.過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

6件の回答

合格者交流会

英会話

ストレングスファインダー

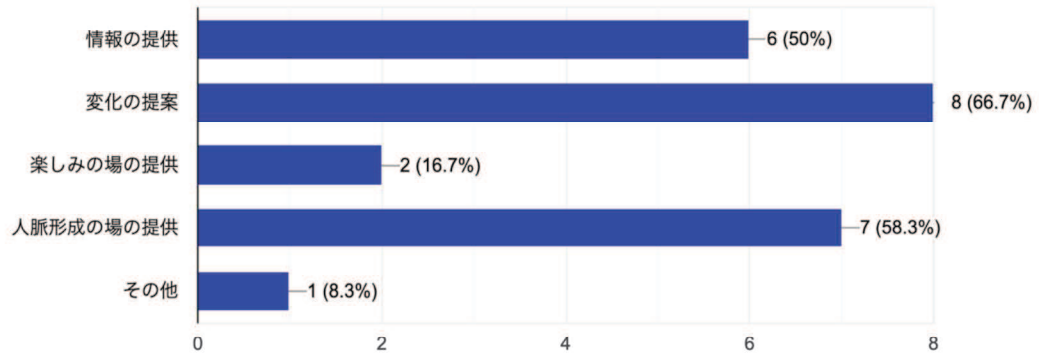
激甚化する自然災害

技術者の営業力を考える、的なイベント（2018年頃）

説明スキルがテーマだった会

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

12件の回答



「その他」を選んだ方は具体例を回答してください

1件の回答

技術的なトピック（特に若手らしく未来を語るようなもの）

上記で選択したものの具体例を書いてください

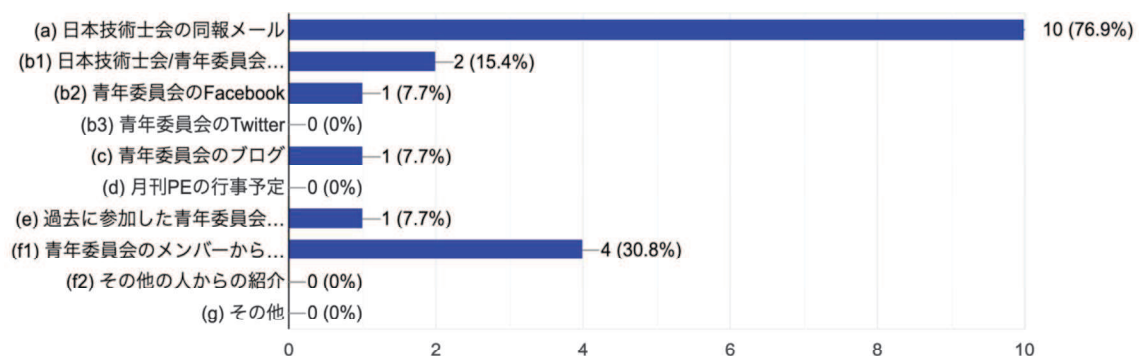
2件の回答

AI, SDGs, 宇宙開発 等

コンサルティング力向上

Q5. 今回のイベントの参加のきっかけとなったものはどれですか

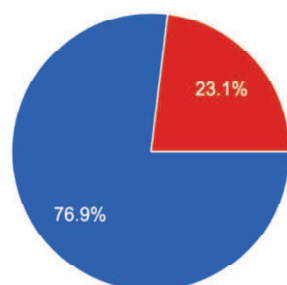
13件の回答



Q6.参加の目的と達成度について

1.目的は何ですか。

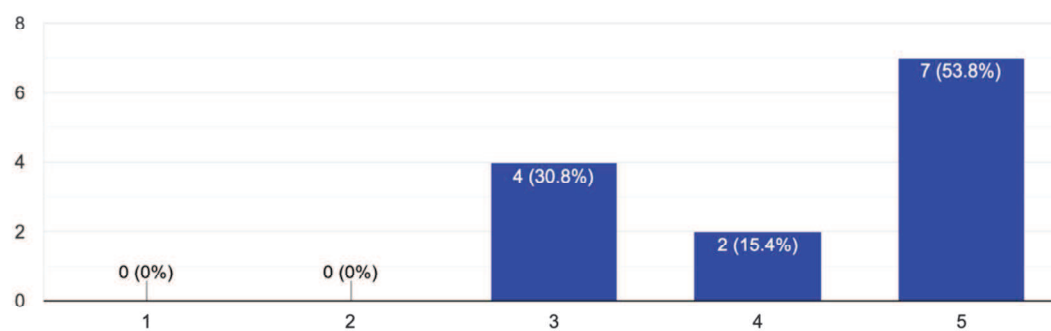
13件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった / 知りたかった / 身につけたかった。
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたかった (人脈を広げたかった)。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。

2.上記の目的の達成度

13件の回答



行事名	2023年度 一次・二次試験合格者交流会 「技術士としてのキャリアプランを考えよう！」
日時	2023年4月15日(土)
場所	機械振興会館(6D-1,2,3)
担当者: (○印:リーダー)	○村上、徳原、三谷、原田、明山、山本、杉山、高瀬、大川
参加者数	53名

1 背景・目的

令和2年度以降の技術士二次試験合格者及び新規修習技術者(以下、「新規合格者」という。)を対象とし、若手技術者同志の親睦を深める。

新規合格者が、技術士の仲間づくり並びに自身の技術士としてのキャリアプランを考える場を提供する。

現役若手技術者に技術士会及び当委員会の活動の魅力を伝え、新規合格者の入会の契機とする。

本会は技術士に求められる資質能力のうち、「5.コミュニケーション」の習得を狙いとする。

2 内容

2.1 挨拶・諸注意(13:30~13:35):村上委員

合格者交流会の趣旨及びスケジュール、注意事項について説明した。

2.2 お祝いの言葉(13:35~13:40):河野委員長

新規合格者に向けた祝辞を述べた。

2.3 青年委員会紹介(13:40~13:45)

合格者交流会を主催する青年委員会の活動紹介を行った。

2.4 グループワーク(13:45~16:45):三谷委員、グループワーク担当

新規合格者同士の交流を行うとともに、「生きがいチャート」を基に自身の技術士としてのキャリアプランを検討した。

・アイスブレイク

岩部副委員長、吉浦委員より自己紹介を行うとともに、両名のキャリアプランを作成した。

・グループワーク

3~4名のグループに分かれ、まず自己紹介で自身の強みや特徴を述べた。その後、グループ内でインタビューや質疑応答を行い、該当者のキャリアプランを検討した。

グループを変え2回実施した。

2.5 講評(16:45~16:48):佐藤副委員長

合格者交流会の講評を述べた。

2.6 2023年5月例会の紹介(16:48~16:51):高木副委員長

次回CPD行事の内容紹介及び宣伝、参加受付を行った。

2.7 アンケート(16:51~16:54):村上委員

アンケート(Google フォーム)のQRコードを提示し、アンケートへのご協力を促した。

2.8 写真撮影(16:54~16:57):山本委員補佐

全体の写真撮影を行った。

2.9 閉会の挨拶・懇親会案内(16:57~17:00):村上委員

合格者交流会の総括及び懇親会の案内を行った。

2.10 懇親会(17:30~20:00)

合格者交流会修了後、同会場で立食形式の懇親会を実施した。

前半は部門毎、後半はキーワード毎のテーブルに分かれ親睦を深めるとともに、新規合格者へのインタビュー企画や当委員会の CPD 行事紹介等の話題提供を行った。

3 成果と所感

本交流会の KPT と所感を下記に示す。

(1) K: keep 良かったこと (今後も続けること、成果)

- ・当委員会行事への初参加の方が大半を占め、多くの方から好評を得た。
- ・アイスブレイクは後に続くグループワークの手本として良く機能した。
- ・グループワークの人数を 3~4 名程度に設定することにより、限られた時間の中で深い交流を行うことができた。
- ・参加者が積極的で、グループワークにおいて活発な意見交換がなされた。
- ・アンケートの QR コードを各テーブルに設置していたことで、後方で画面が見えなくても対応できた。
- ・懇親会のインタビュー企画等が盛況であった。
- ・デリバリー等の活用により、懇親会経費を安価に抑えることができた。

(2) P: problem 悪かったこと (今後はやめること、反省点、改善したいこと)

- ・参加費無料のため前日・当日キャンセルが多く、グループワークの編成を調整しなおす必要が生じた。
- ・全体的に予定の工程より遅延気味であった。
- ・グループワークに不慣れで、趣旨を理解できていない参加者がいた。
- ・会場が広く、スクリーンが見つらい席があった。
- ・写真撮影に時間を要し、早く帰りたいがっている参加者がいた。
- ・懇親会のキャンセル者が多く、予算が不足した。想定よりも飲食物に余剰が生じた。
- ・オードブルを会場中央に配置したので、会場が二分されてしまった。
- ・懇親会にはぎやかな雰囲気であったため、各催しの声が後方まで届かなかった。
- ・アンケート記入時間が十分でなく、回収率が不調であった。
- ・アンケートの質問項目が当初懇親会参加前提のものだった。(直後に差し替えた。)

(3) T: try 次に挑戦すること

- ・直前キャンセル者の名簿を作成し、今後の CPD 行事申込時の参考とする。
- ・時間超過対策として、全体的に余裕時間を多めに確保する。
- ・グループワークでファシリテーターをつけない場合、導入部分でグループワークの流れを十分に説明する。
- ・会場が大規模な場合、フォントを大きくする、スクリーンを増設する、スクリーンを中央に配置する等の対応を検討する。
- ・写真撮影の時間を 10 分程度確保する。予定がある方には先に帰宅可能な旨アナウンスする。
- ・懇親会での催し・食事量について見直しを図る。
- ・アンケート回答の時間を当日に確保できない場合、次回割引等の特典を設けることを検討する。

(4) 所感

受け入れ可能人数に迫る多くの方に集まっていたが、アンケート結果からも内容に概ね好評を得たことが推察される。

グループワークの内容がオリジナルのものであるため、アイスブレイクを兼ねた解説を行い、実施要領の周知に努めた。開始当初は戸惑っている班もあったものの、中盤以降は参加者の方々も要領を掴み、参加者自身が盛り上げていく理想的なものとなった。

アンケート結果から人脈形成を求めている参加者も多く、懇親会の開催が参加者を増やす上でも重要だと考えられる。

一方、3年振りの対面開催であったことから、事前の会場確認や懇親会の食事量のノウハウを持ち合わせておらず、結果として準備が不足していた事項もあった。

4 今後の展開

本交流会は参加者に好評を博し、当日参加受付をした5月度CPD行事にも多くの方が申し込みをされた。今後のCPD行事への参加呼びかけ等、継続的にコンタクトを取り、将来の委員候補となり得る人材を発掘していく。

対面での開催は3年振りとなり、オンライン開催と比較し、より交流を深められた一方、会場設営や懇親会等に対する課題も露見した。今後は対面でのCPD行事が主流となると推測されるが、本交流会の実績を蓄積し、今後のCPD行事の円滑な運営の一助としたい。

5 実施状況

・グループワークの様子



・集合写真

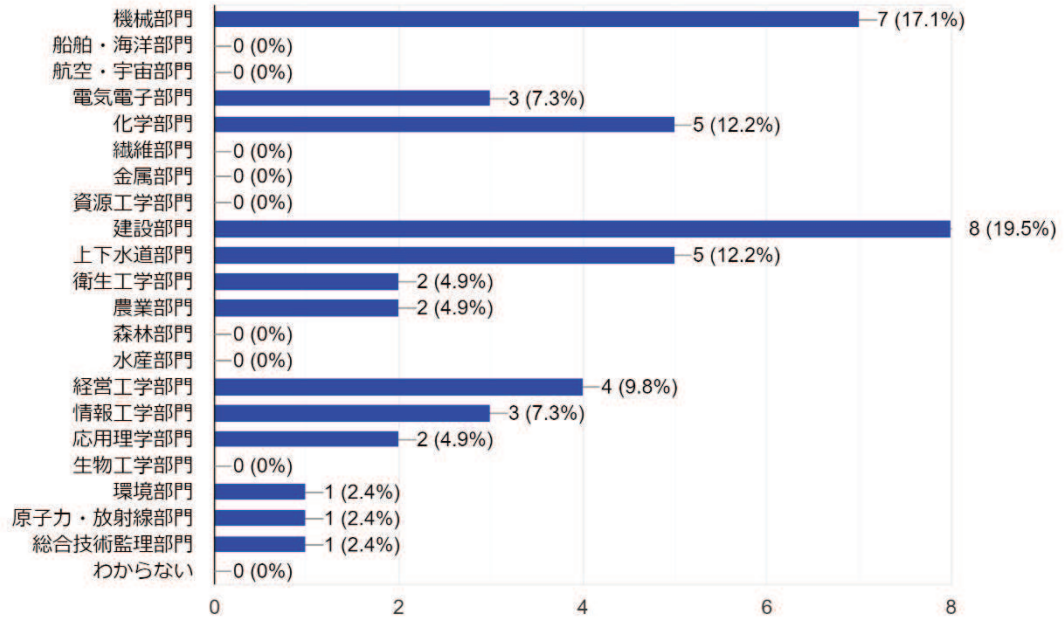


2023 年合格者交流会 外部アンケート集計結果

1. 参加者について

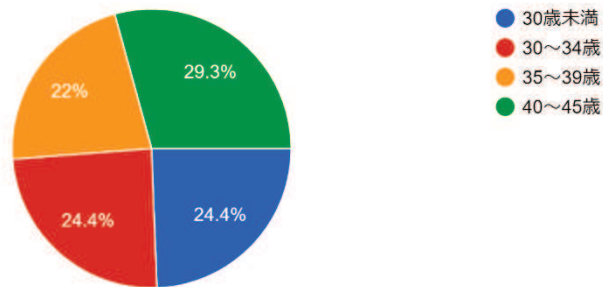
2. 技術部門

41 件の回答



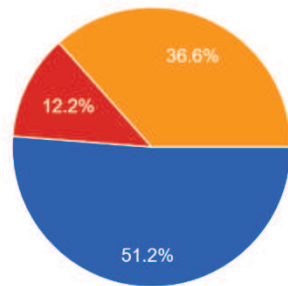
年齢層

41 件の回答



会員層

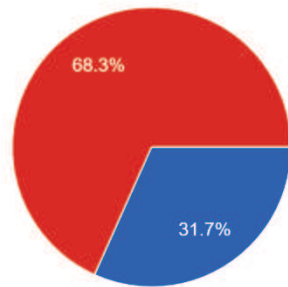
41 件の回答



- 技術士（登録申請中を含む）
- 技術士補（登録申請中を含む）
- 修習技術者
- JABEE認定プログラムの学生

日本技術士会の会員（正会員・準会員）ですか？

41 件の回答

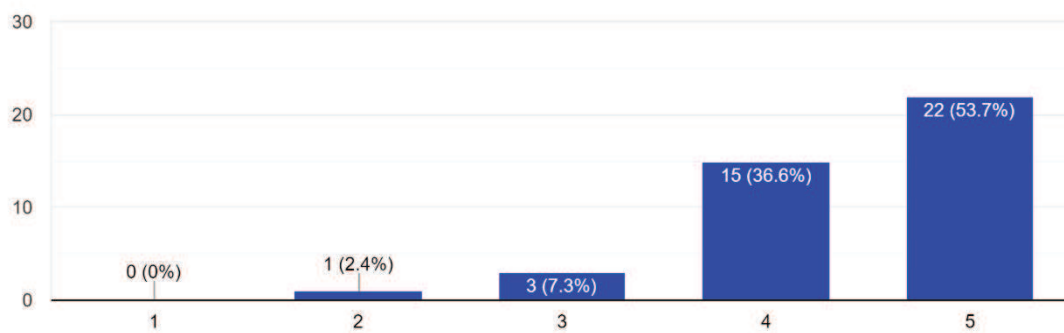


- はい
- いいえ

2. グループワークについて

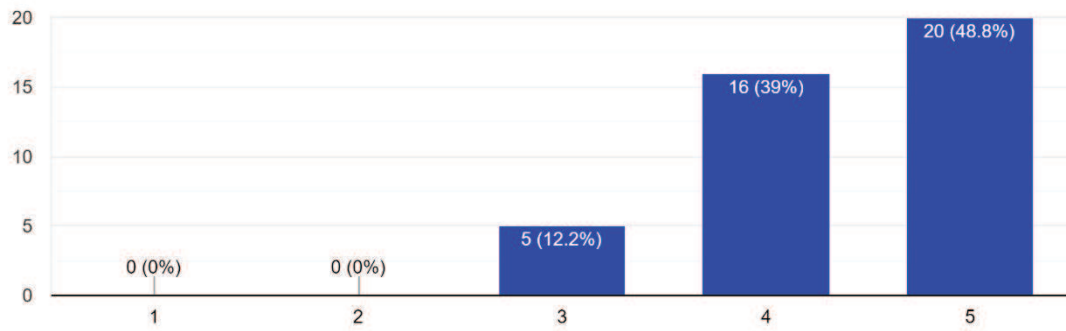
1. グループワークの内容

41 件の回答



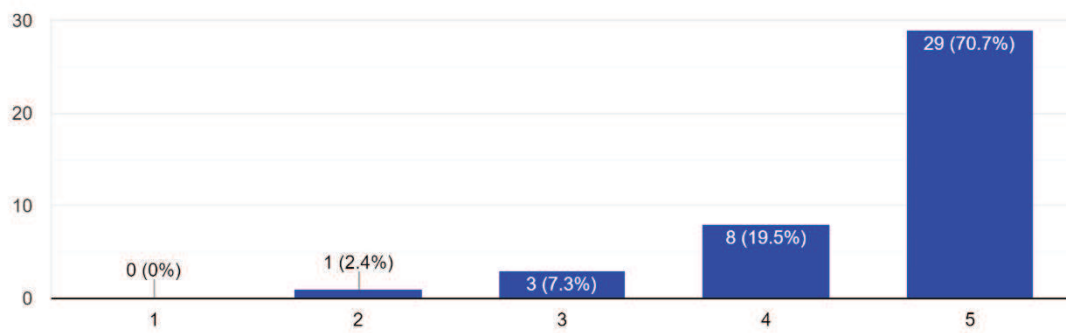
2. グループワークの進行、進行役の話し方について

41件の回答



3. グループワークでのスタッフの対応

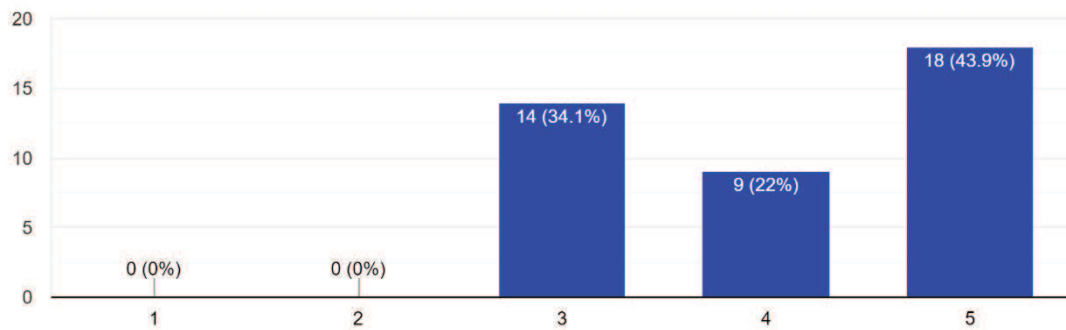
41件の回答



3. 懇親会

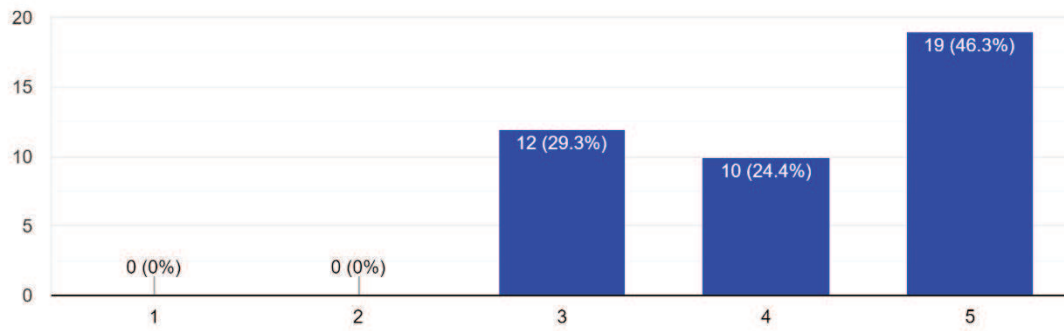
1. 懇親会の内容

41件の回答



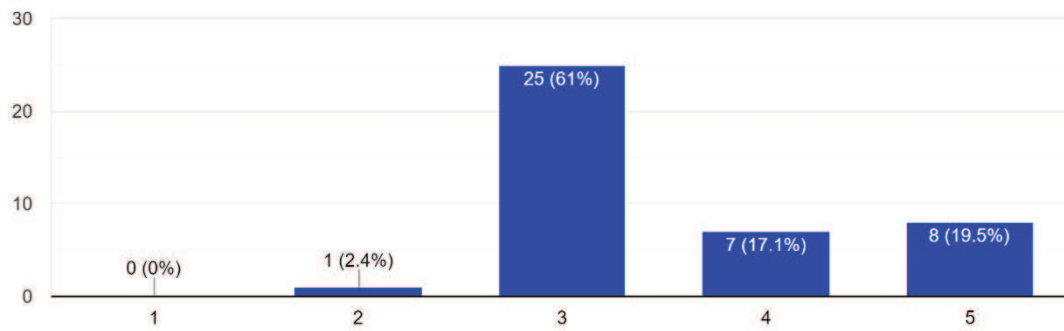
2. 懇親会の進行、進行役の話し方について

41件の回答



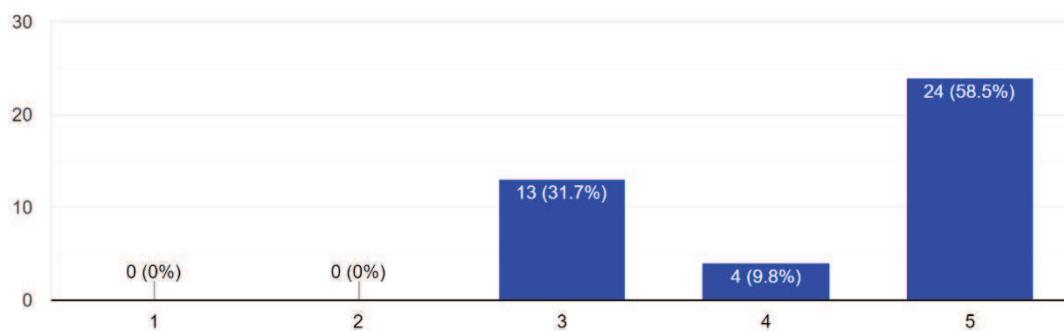
3. 飲食物の量

41件の回答



4. 懇親会でのスタッフの対応

41件の回答

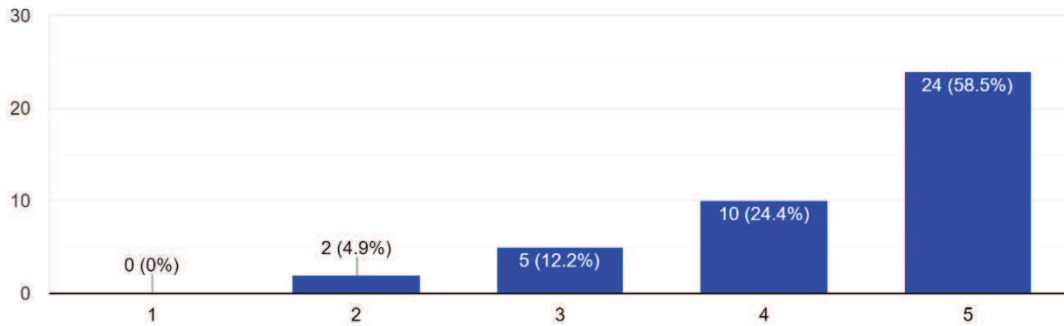


※懇親会の回答が他と比較して3が多いのは、懇親会不参加者に対しても入力必須項目としてしまったため、それらの方々がすべての項目において3を選択したことによる。

4. 交流会全体

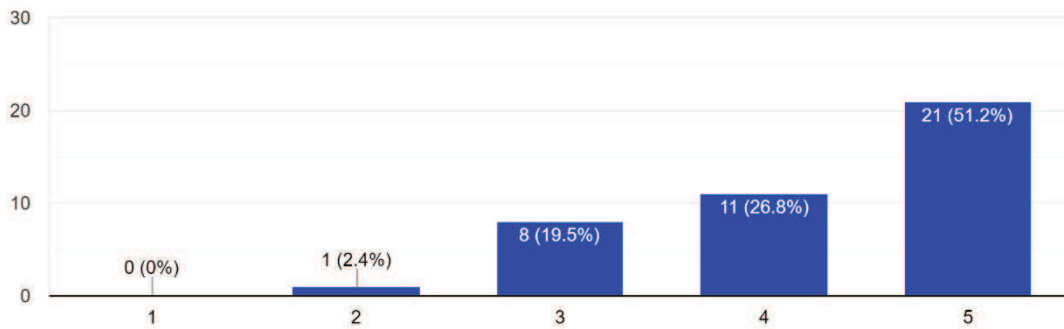
1. 交流会の内容

41件の回答



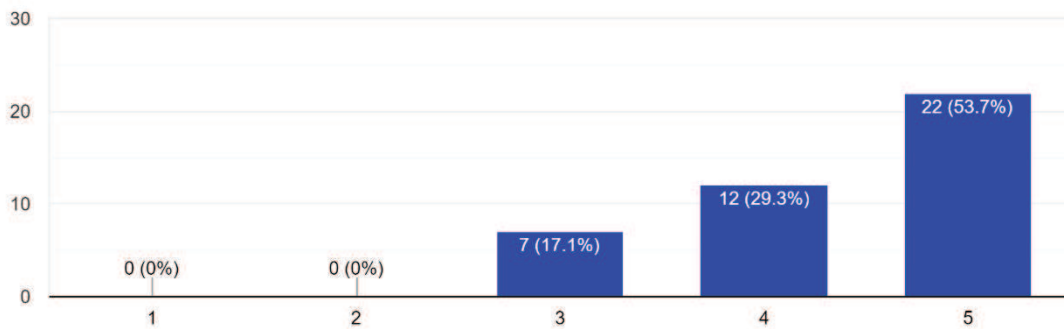
2. 交流会の進行、進行役の話し方について

41件の回答



3. 交流会でのスタッフの対応

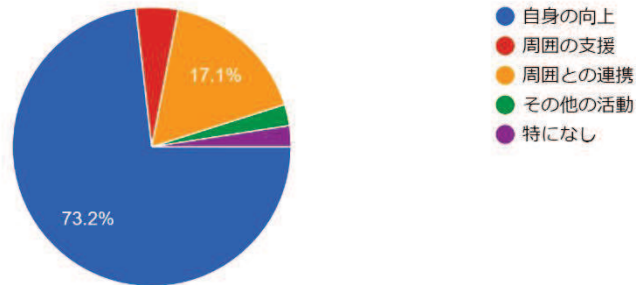
41件の回答



5. 自己研鑽活動

ご自身の具体的な活動について

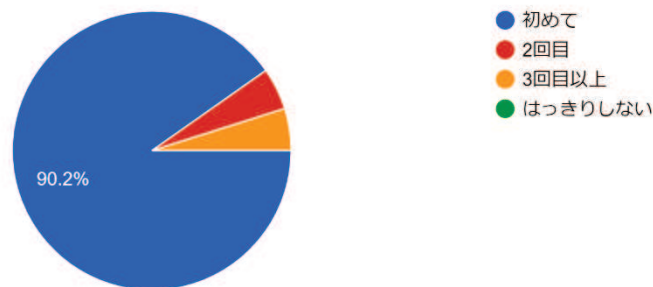
41件の回答



6. 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数

41件の回答

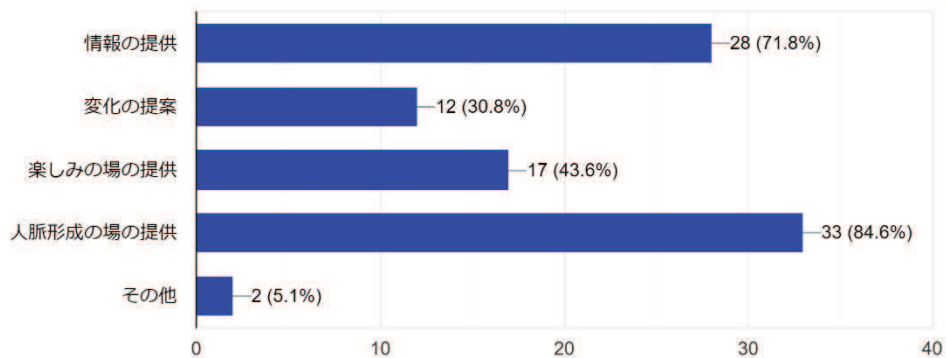


2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ

- ・ 本日の回
- ・ プレゼンテーション力
- ・ 無人島でのサバイバル
- ・ インフラテクノツアー
- ・ 交流会

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

39件の回答



具体例

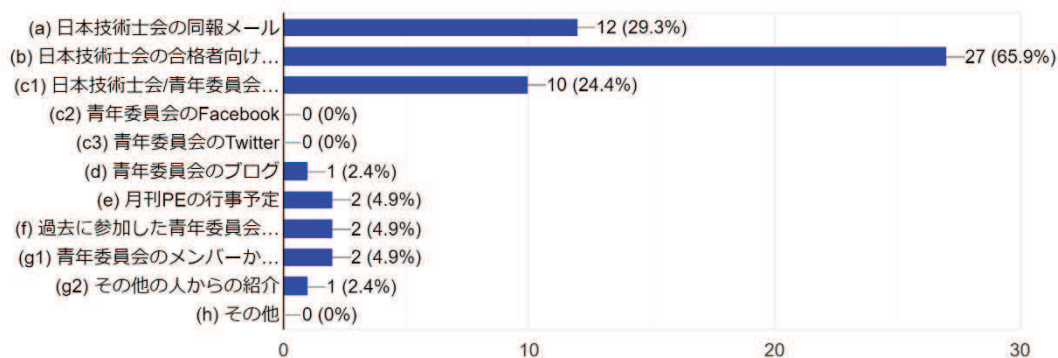
- ・ 第二次試験の記述問題の対策の勉強
- ・ インフラテクノツアー
- ・ テーマを決めたディスカッションなど
- ・ 交流会
- ・ 同じ部門で交流会みたいなのをやりたい
- ・ 各自で実施されている業務効率化の取り組みなど共有できる機会があれば参加してみたいです。
- ・ どのような実績ができれば、合格レベルになりますか。
- ・ 技術士が産み出した成果等の社会実装の実例
- ・ 最新の技術トピックスについて議論してみる。

4. 内容以外のご希望・ご意見

- ・ 開催の曜日、時間帯について、もし可能であれば、平日のデイトタイム開催のイベントもご検討いただけますと、子育て世帯としてありがたく思います。
- ・ 飲み物で水が欲しい
- ・ オンライン開催（会場とのハイブリッド）があると嬉しい。
- ・ 平日夕方開催など。

7. イベント参加のきっかけ

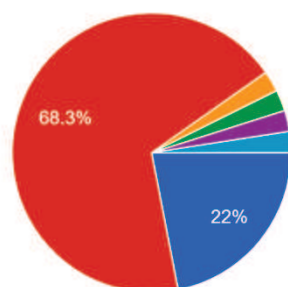
41件の回答



8. 参加の目的と達成度

1. 目的は何ですか。

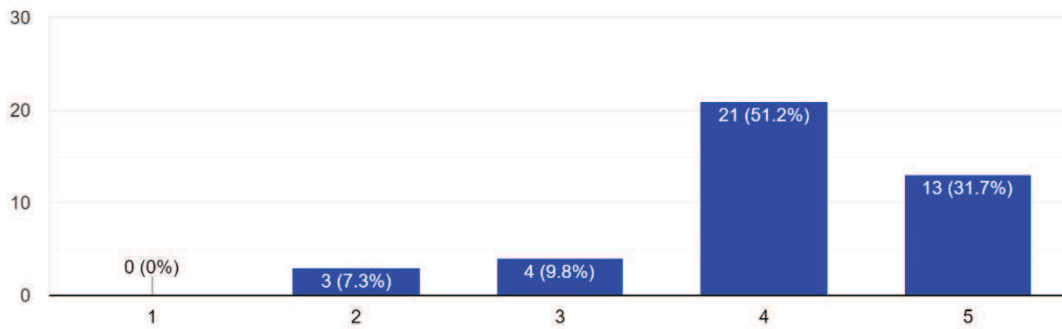
41件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった / 知りたかった / 身につ...
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたかった (人脈を広げたかった)。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。
- (e) 青年委員会の方々や技術士や技術士となる方々の、人となりに興味があり、交...
- (f) (a)と(b)

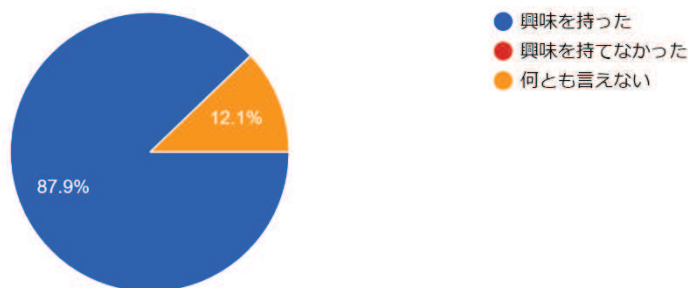
2.上記の目的の達成度

41件の回答



3.非会員の方にお聞きします。このイベントを通して日本技術士会に興味を持って頂けましたか？

33件の回答



4. スタッフに伝えたいこと

- ・ありがとうございました。
- ・丁寧にご準備、ご対応いただきありがとうございました。グループワークのみの参加だったため、もう少しいろいろな方とお話したいと思いつつ帰宅したところでしたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。今後の企画も、家庭の調整がつく範囲で参加させていただきたいと思いました。
- ・とても楽しくて、有意義な時間を過ごせました。ありがとうございます。
- ・軽い気持ちで申しこんだのですが、とても楽しい会で参加して良かったと思いました。司会進行や会場設営の準備もしっかりされていて、今後も参加したいと感じました。
- ・向上心の高い方々のお話をたくさん伺うことができ、刺激になりました。業務に追われて自己啓発をおろそかにしてしまっていたので、時間を見つけて前向きに取り組みたいと思うきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・イベントをしてくださって、ありがとうございます。
- ・面白かったです。ありがとうございました。
- ・企画・運営お疲れ様でした。
- ・懇親会の準備片付けは、参加者にも手伝ってもらう形で良いと思います。みんなで盛り

上げましょう！

- ・ありがとうございました！！
- ・ありがとうございました。2次会までお世話になりました。
- ・※懇親会に参加はしてないが、必須入力項目だったため、3を入力しました。
- ・懇親会不参加のため、回答はダミーになります。
- ・ご準備や当日の司会進行、本当にありがとうございました。私自身も青年支援委員会に参加して活動してみようかと思いました。より広くて深い人脈形成も期待できそうです。

地域本部 活動報告書

青年技術士支援委員会 統括本部 活動報告

統括本部 委員長
河野 恭彦

1 / 15

青年技術士支援委員会（統括本部）

2019年6月
拡大委員会の様子



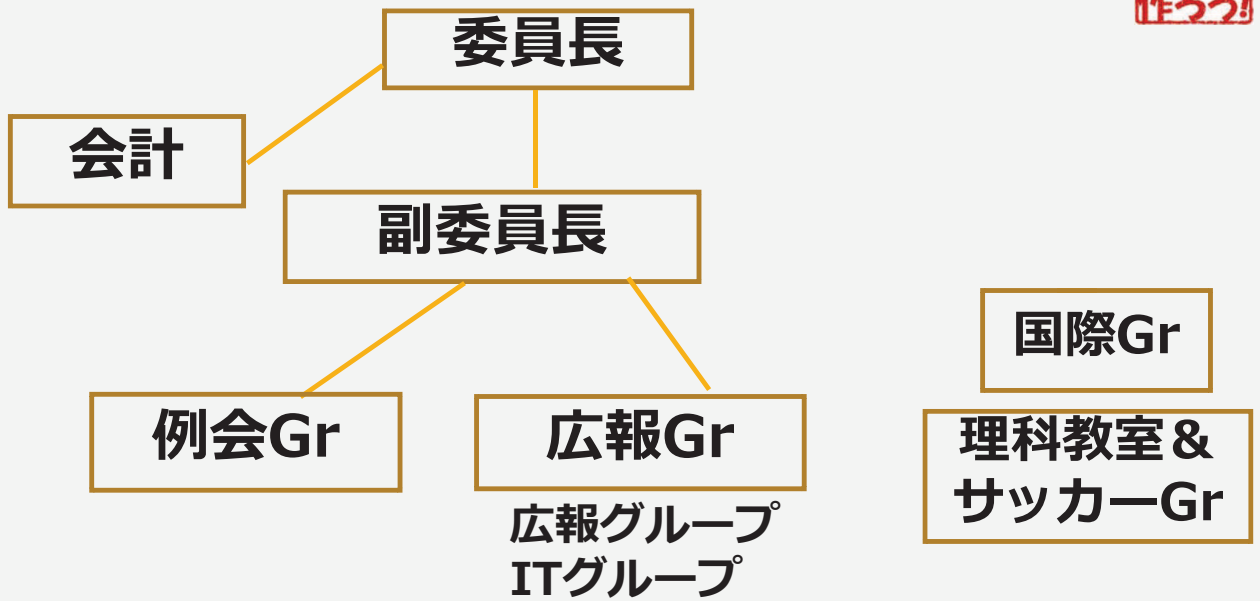
地域本部の若手技術者と積極的に交流！！



3 / 15

統括本部体制図

技術士
仲間を
作ろう!



※ 国際Gr、理科教室 & サッカーGrはボランティアベース（有志による活動）

4 / 15

統括メンバー構成

技術士
仲間を
作ろう!



全国大会2022 青年の集い@東京タワー
お揃いのTシャツを着ました！

オンラインメインで対面での活動
が難しい1年でした・・・。

対面での交流、コミュニ
ケーションのありがたみ
を感じた今期でした。

- 1) 幅広い年齢層！（20代～40代）特に30代～40代が中心
魅力的なメンバーがたくさん！！
- 2) 6名の女性が参画！（男女共同参画：ダイバーシティ）
統括委員21名（各地域本部委員長除く）
- 3) 様々な技術部門の方から構成！
（13部門／21部門：網羅率は約7割！）

5 / 13

活動目的 (2021年7月から変更)

技術士
仲間を
作ろう!

1. 本会の運営についての若手正会員層による積極的な企画、協力体制の構築
 2. 若手正会員向けを中心とした研鑽事業の企画・実施・指導
 3. 部会及び地域組織における若手正会員層との連携による研鑽活動の活性化
- ※国際交流等は有志による活動として実施

【本活動の参加対象者&主な特徴】
技術士、技術士補、修習技術者等向け
(参加対象者：45歳以下の正会員・準会員)
OUTPUT重視！！

6 / 15

統括本部の今期の活動方針

技術士
仲間を
作ろう!

- ・ 青年委員1人1人が主役となって、各自が全国の若手技術者を牽引するという強い思いを持つ。
 - ・ 全国の若手正会員及び新規若手技術者と交流、自己研鑽する場（例会）を設ける。
- ビジネス、コミュニケーション等といった多岐に渡る魅力あるテーマを発案



- 魅力ある青年委員会を作る = 青年委員会で成長し、人を惹きつける魅力ある人間になること
- 積極的な情報発信（広報活動）及び得られた例会における成果の外部へのアウトプット

7 / 15

今期の主な活動（2020～2023年）



2022年度CPD行事
合意形成・グラレコ・気象災害・専わか・君コン

2023年4月
合格者交流会
お互いのキャリアプラン
を考える

2021年11月
技術士全国大会青年企画

コロナ禍でもオン
ラインで積極的に
活動！！

2020年11月
オンライン企画
技術継承を学ぶ
（建コン協とコ
ラボ）

VRゴーグル設計・製作&
オンラインテクノツアーを
YouTube配信！！

その他詳細は当委員会のブログをご参照ください！

[HTTPS://PEVEG.JP/](https://PEVEG.JP/)

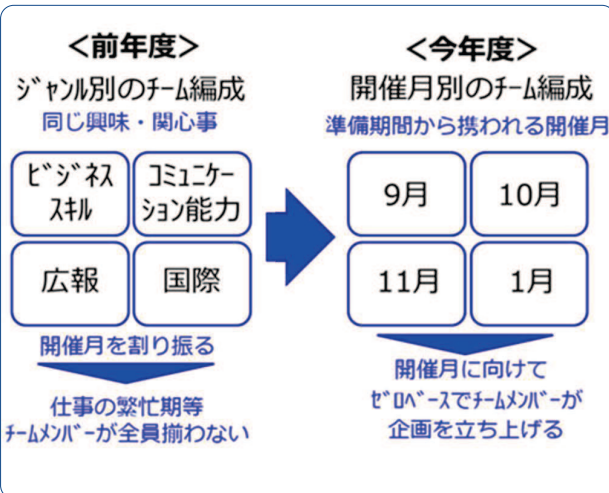
例会グループ 活動報告

例会グループの活動目的

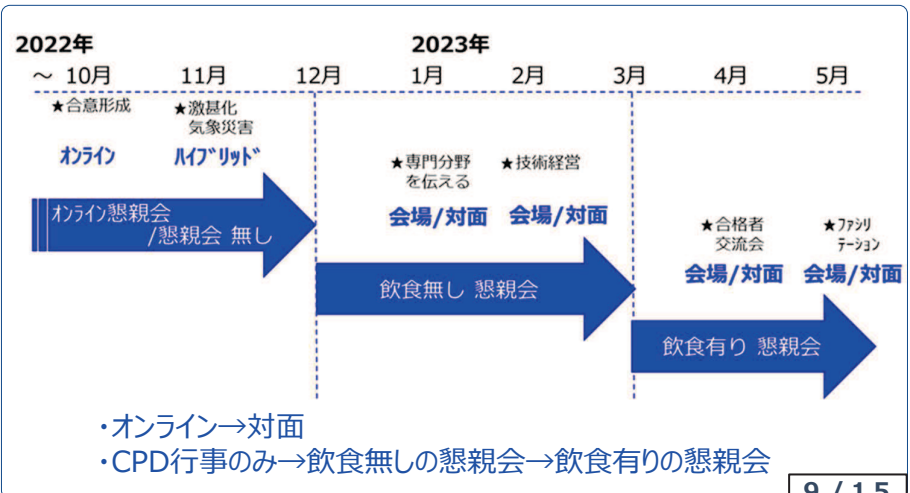
ウィズコロナ時期(オンラインのみに限定したCPD行事の開催)から、アフターコロナへの転換を想定しつつ、円滑にCPD行事が運営できるサポート

例会グループの活動実績

1) 例会チームの体制見直し



2) 対面活動の段階的再開



3) 新規委員の獲得に向けた取り組み

・45歳以下に限定したCPD行事の募集

→委員候補を集める

・合格者交流会

→1期メンバー主体で開催

次期に向け共に活動する仲間探し

・ Googleフォームのアンケート

QRコードを作成



<行事参加者>



スマホで
その場で
回答

青年活動への興味を
持っている参加者

その日の内に勧誘

2022年度 CPD行事の実績

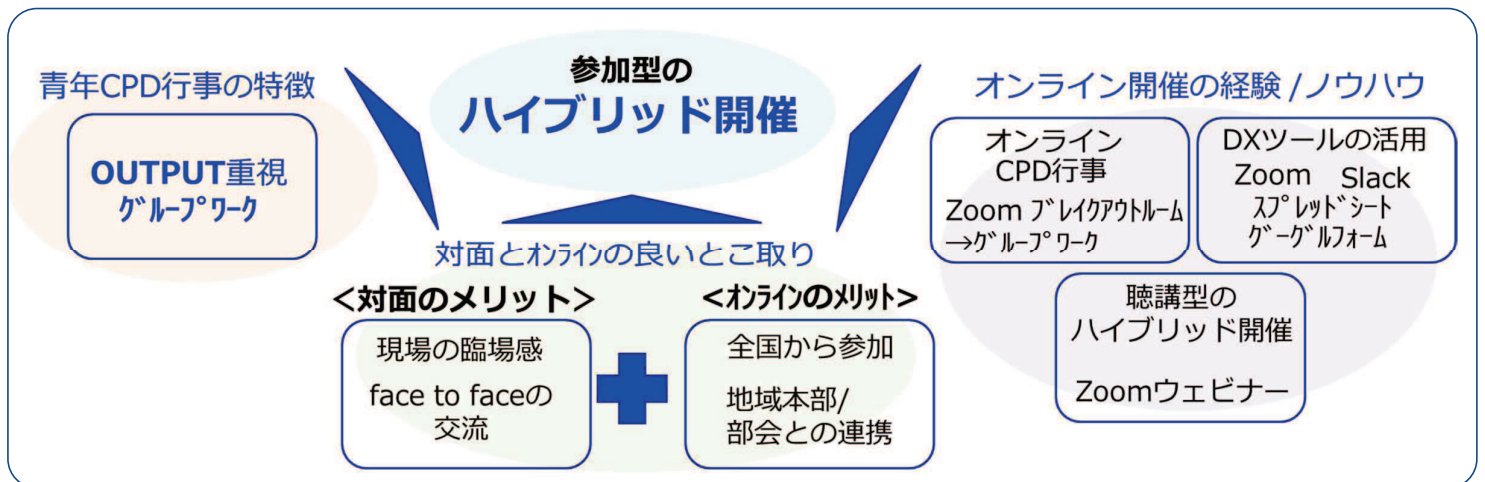
実施年月	分類	CPD行事
5月	部門横断	熊本城復旧を取材した新聞記者に学ぶ、一般公衆への情報の伝え方
7月	部門横断	英語ワークショップ
9月	部門横断	会議を描こう！グラフィックレコーディング初級編
10月	部門横断	御意（ぎょい）じゃダメ！合意形成～合意形成について学ぼう～
11月	部門横断	激甚化する気象災害
1月	部門横断	専門分野をわかりやすく伝えよう！
2月	部門横断	今日から君もコンサルタント！技術経営 入門編
4月	合格者向け	一次・二次合格者交流会

10 / 15

次年度に向けて

<青年の活動の目的の一つ>

「部会及び地域組織における若手正会員層との連携による研鑽活動の活性化」



- ・オンライン開催での経験やノウハウ
- ・対面の臨場感、交流



良いとこどり

参加型(OUTPUT重視)の
ハイブリッド開催

11 / 15

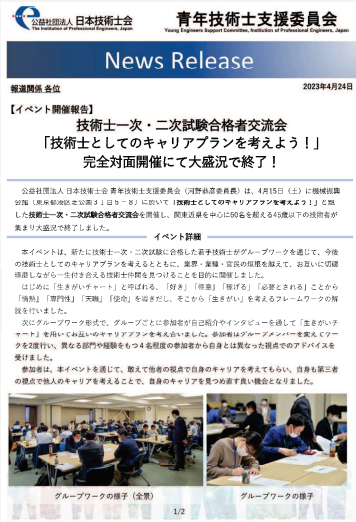
活動報告 広報プロジェクト

CPD行事開催後、3日以内にプレスリリース!

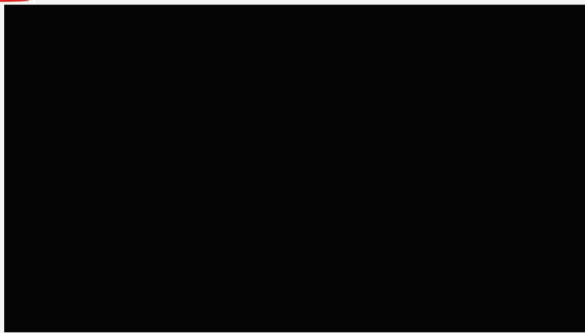
活動方針

- 青年技術士交流委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外にPRする。
- 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的にPRする。

リリース作成 CPD 行事	リリース先	掲載新聞社
5月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設工業新聞
拡大委員会	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設工業新聞
7月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞、建設工業新聞
9月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
11月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
1月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
2月 CPD 行事	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
4月合格者交流会	建設系新聞社 3 社、日刊工業新聞社	建設通信新聞



▶ 青年委員会活動紹介動画 (YouTubeで公開中!)



若手技術士プラットフォーム (オンラインサロン) を運営中
現在全国の青年メンバー 68 人で稼働中! QRコードをクリックして参加しましょう!



IT担当 活動報告

Mission

青年委員会の活動をITインフラで下支えし、青年活動の円滑化に寄与する。



2022年度活動

- ① サーバ保守 (契約更新、維持管理)
- ② メーリングリスト管理 (追加/削除)
- ③ アカウント管理 (owncloud/Redmine)
- ④ 事務局協議対応 ★2022年度重要活動
 - ・ 青年HPを技術士会公式HPに立ち上げ
 - ・ 青年サイトをブログに特化
 - ・ Zoom利用を公式合意 (2023予算化済み)

今後の活動方針

- ・ IT基盤の維持・運用を継続
- ・ 老朽化したインフラの対策検討

New 技術士会公式HPに 新規に立ち上げた青年HP



ブログに特化した 青年サイト

青年技術士支援委員会

Young Engineers Support Committee, Institution of Professional Engineers, Japan (YEC-IPEJ)

ホーム 行事予定 スタッフブログ About Us

投稿

2023年5月23日

5月CPD行事「チーム活動を活性化！ファシリテーションを学ぼう」のリハーサルを行いました

青年技術士支援委員会のブログをご覧のみなさま、こんにちは！

5月CPD行事「チーム活動を活性化！ファシリテーションを学ぼう」を5月28日(日)13時30分から開催します(13時から受付開始)。

先日、担当メンバーが集まり、開催に向けてのリハーサルを行いました。

リハーサルでは、当日の流れや準備について打ち合わせを行い、講師の関戸総哉さんのご講演内容を一足先に確認させていただきました。

ご講演には、話し合いの臨み方、付箋紙・マーカー、模擬会議などのワードが出てきそうです。

詳細は当日の関戸さんのご講演をお楽しみに。

言語

- 日本語
- English

今後のイベント

直近のイベントはありません。

追加

カレンダーを見る

アクセスカウンタ

総閲覧数:	241940
今日の閲覧数:	50
昨日の閲覧数:	153
一日あたりの訪問者数:	104
現在オンライン中の人数:	2

最近の投稿

「第17期」2年目、始動 活動テーマ=「楽しい青技交！」

交流・研鑽促進のため楽しいイベント企画・実施
 約50名の幹事でのWG体制の実行 / 若手幹事の活躍！

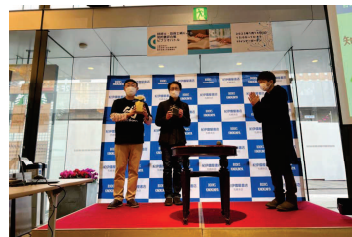
大小含め、
年間8イベントを計画・実行！

全イベントの報告

- 拡大委員会@zoom への参加 (6/25)
- ①本部主催の合格祝賀会 (1・2次試験) (4/6)
- ②新合格者&U-35対象 ワークショップ (5/14)
- ③オンライン講演会「セコマ」 (7/6)
- ④テクニカルツアー (北海道新幹線) (7/27)
- ⑤幹事+家族交流「夏合宿 (キャンプ)」 (9/17~18)
- ⑥テクニカルツアー (kitara) (10/20)
- 日韓技術士国際会議 (韓国 麗水) (10~11月)
- 全国大会 (青年イベント) @奈良への参加 (10/30)
- ⑦技術士を知ろう！小学生編 (11/9)
- ⑧公開型講演会「技術士による知的書評合戦
 オンラインビブリオバトル2023」 (1/14)



▲テクニカルツアー (kitara)



▲公開型講演会
 オンラインビブリオバトル2023



▲幹事+家族交流「夏合宿 (キャンプ)」



▲オンライン講演会「セコマ」



▲技術士を知ろう (小学校編)

その実現へ向けた
 事前打合せ・調整
 = 幹事会&WG
計10回以上実施
 ※技術士を知ろうWGを除く



(新任)

(継続)

(継続)



(継続)

第18期、新体制。

(新任)



(新任)



(新任)



楽しさがリーチする 青技交

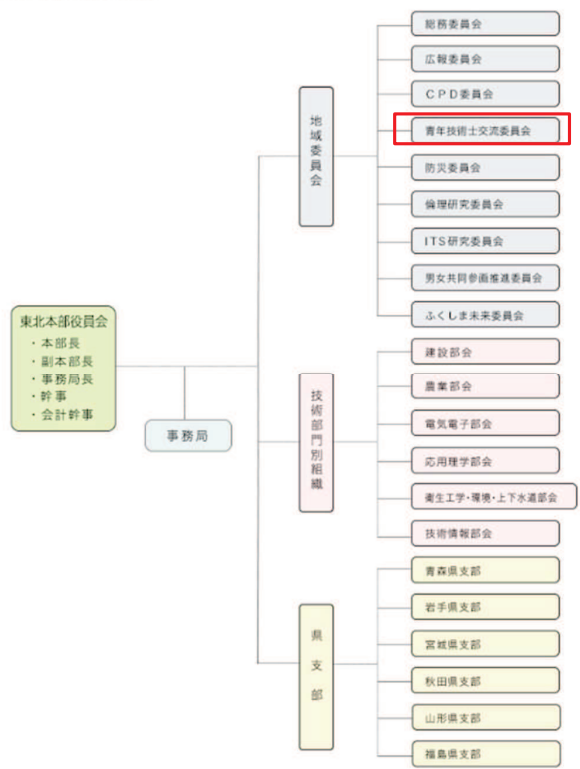
～多様な価値観で成長を加速する
技術士・技術者のサードプレイス～

2023年度 青年技術士交流委員会 拡大委員会

活動報告【東北本部】

組織

令和4年 東北本部役員会制定



【2023年度】 活動予定

【2023年度東北本部活動】 予定含む		
技術士試験合格祝賀研修会	4月20日	ユアテック会議室
青年技術交流委員会(4月)	4月21日	ユアテック会議室
東北本部設立50周年記念式典	5月30日	ホテルモントレ仙台
青年技術支援委員会 拡大委員会	6月17日～18日	機械振興会館(東京)
青年技術交流委員会(6月)	6月23日	ユアテック会議室
ガイアパラダイム(東北本部会報)原稿執筆	～6月30日	—
青年技術交流委員会(8月)	8月下旬(計画中)	ユアテック会議室
出前授業①(日本大学)	9月上旬(計画中)	日本大学理工学部(郡山)
出前授業②(日本大学)	9月下旬(計画中)	日本大学理工学部(郡山)
出前授業③(秋田高専)	10月上旬(計画中)	秋田高専(秋田)
青年技術交流委員会(10月)	10月下旬(計画中)	ユアテック会議室
青年技術交流委員会(12月)	12月中旬(計画中)	ユアテック会議室
青年技術交流委員会(2月)	2月下旬(計画中)	ユアテック会議室

定例会議



懇親会



公益社団法人日本技術士会東北本部設立50周年記念式典

2023年5月30日



学校へ行こう (出前授業)

- 「秋田工専」「日本大学」にて実施予定

【内容】

- 就職後の土木業界の面白さ、資格の重要性を知ってもらう
- 学生のモチベーションアップやキャリアデザインetc



拡大委員会2023 各地域本部交流会

北陸本部 活動報告

Young Engineers Committee, The Institution of Professional Engineers Japan



青年技術士交流委員長 村山 達也

北陸本部 活動報告

北陸本部 青年技術士交流委員会について



当委員会は福井・石川・富山・新潟

北陸4県の若手技術士・技術士補で構成されており

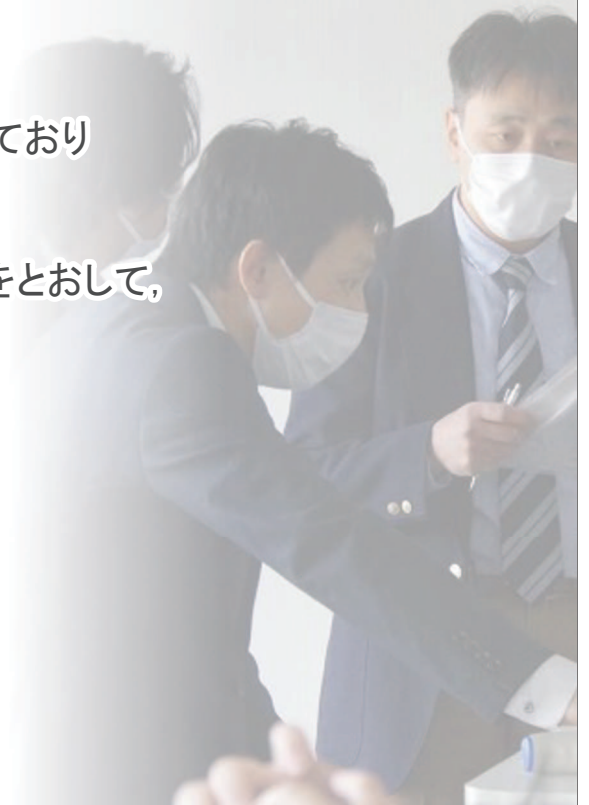
勉強会、現地学習会、講演会などの「交流」をとおして、

若手技術者の技術力の向上と

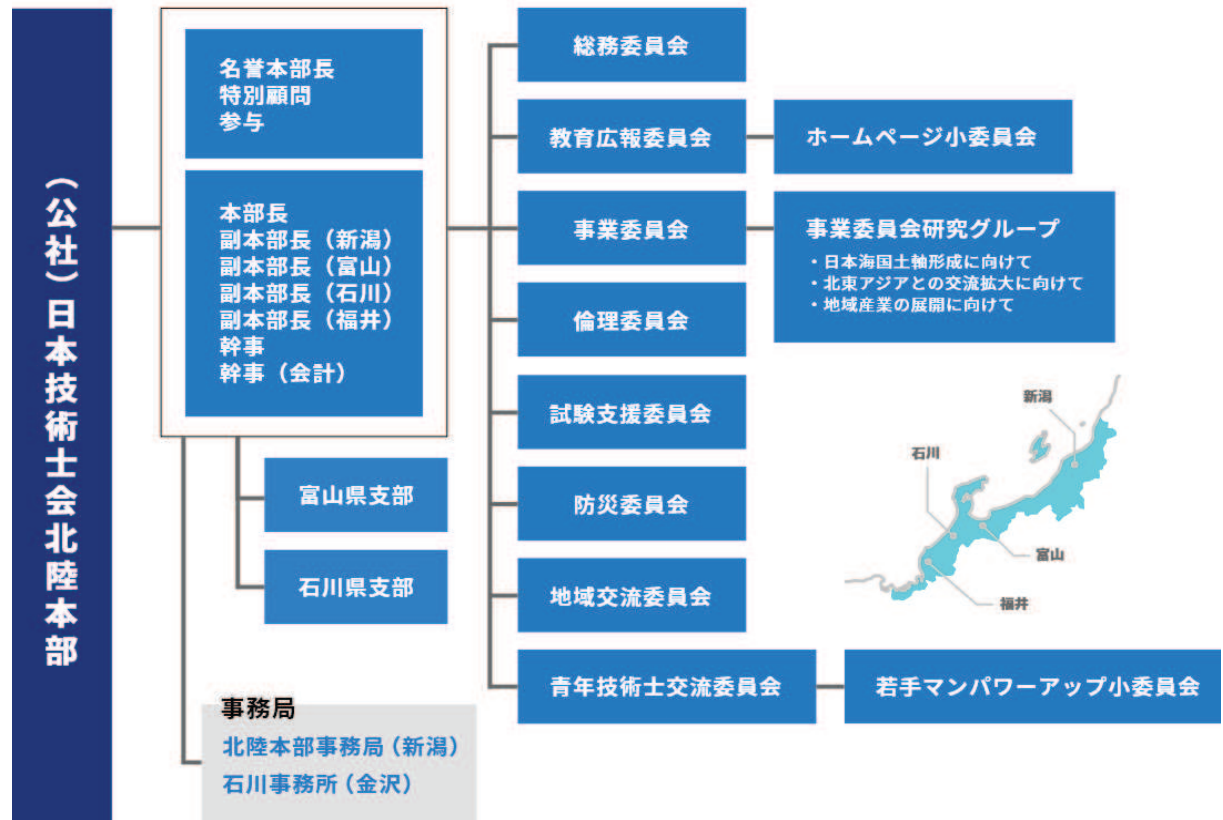
技術者全体の資質向上を図っています。

下部組織に「新潟県建設関連産業

若手マンパワーアップ小委員会」があります。



日本技術士会北陸本部 組織図



構成メンバー

No	職名	氏名	技術部門	県	勤務先	
1	委員長	村山 達也	建設	新潟	オムニ技研(株)	
2	副委員長	石田 謙介	建設	新潟	(株)興和	
3		関谷 悟	建設	新潟	グリーン産業(株)	
4		茅田 照代	建設、環境、農業	福井	(株)北陸環境科学研究所	
5		下鳥 稔	環境	新潟	(一財)上越環境科学センター	
6	委員	中村 大輔	電気電子	新潟	(株)興和	
7		安野 伸春	建設	福井	(株)サンワコン	
8		神納 毅	建設	石川	(株)日本海コンサルタント	
9		柴田 悠平	建設	石川	(株)日本海コンサルタント	
10		荒井 秀和	建設	富山	(株)新日本コンサルタント	
11		伊藤 義将	建設	新潟	(株)本間組	
12		勝見 百合	金属	富山	YKK(株)	
13		根本 晋哉	建設、総監	新潟	(株)日建緑地	
14		三善 啓昭	上下水道	新潟	敦井産業(株)	
15		飯澤 周佑	森林	新潟	(株)キタック	
16		坂井 貴文	衛生工学	新潟	菱機工業(株)	
17		内田 真梨	建設	福井	(株)サンワコン	
18		山岸 由佳	応用理学	新潟	(株)キタック	
19		齋藤 良章	建設	新潟	国土交通省	
20		新家 哲平	建設	石川	株式会社 国土開発センター	
21		オブザーバー	森 将恒	建設、総監	新潟	(株)キタック
22			大門 健一	建設	富山	(株)新日本コンサルタント
23			高野 康夫	衛生工学	新潟	菱機工業(株)

青年技術士交流委員会の活動は以下のとおり、
21部門のプロフェッショナルたちが集まり親交を深める貴重な場となっています。

合格祝賀会（4月）

第一次試験合格者を対象にガイダンスを実施すると共に、第二次試験合格者を交えて歓迎行事を開催。

拡大青年委員会議（6～7月）

北陸本体内4県を順に巡り「地域の活力、底力」をテーマに、技術発表会やディスカッションを行います。

技術士全国大会（10～11月）

年に1度、持ち回りで技術士の全国大会を開催。地域の特色を活かした青年イベントが実施されます。

見学会（9～11月）、講演会（1～2月頃開催）

科学技術に関する地域の話から全国的、世界的話題にいたるまで、会員が興味ありそうなトピックスを選び見学会や講演会を開催しています。

※ 技術士補・修習技術者も準会員として参加！

令和4年度 秋の見学会 「天然の学び舎 松之山温泉に学ぶ」

参加者 15名（内、宿泊6名）

2022年11月11日（金）
完全対面式で実施！
宿泊者には**全国旅行支援**を活用

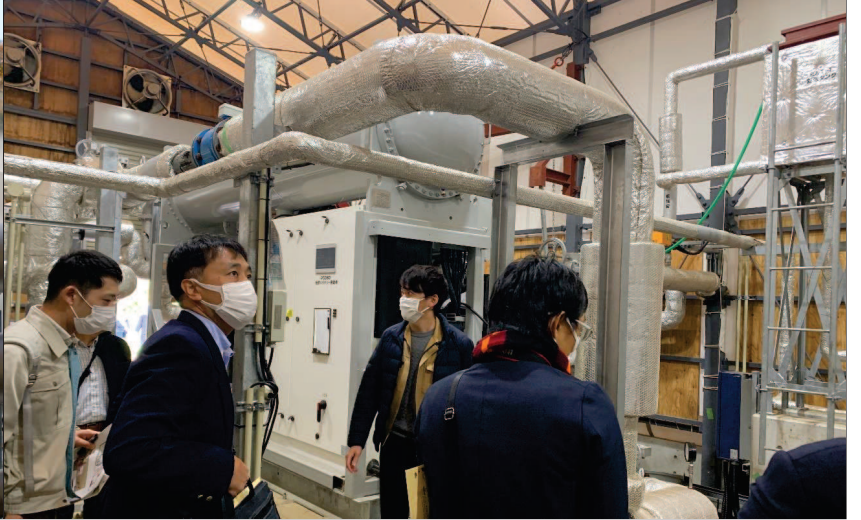
2021年度の冬の講演会「地熱(温泉)発電を活かしたローカルSDGsへの挑戦！」の現地見学をメインとした、天然の学び舎と称される**松之山温泉**をまると体験する企画。

数年ぶりの完全対面式ということで開催への不安もありましたが、アンケート結果などから非常に満足度が高い結果となりました。

- ◆見学先① 地熱バイナリー発電所「コミュニティ発電ザ・松之山温泉」
- ◆見学先② 松之山温泉街（日帰り温泉、湯治豚昼食、散策）
- ◆見学先③ 森の学校「キョロロ」 美人林散策



地熱パイナリー発電所
「コミュニティ発電ザ・松之山温泉」

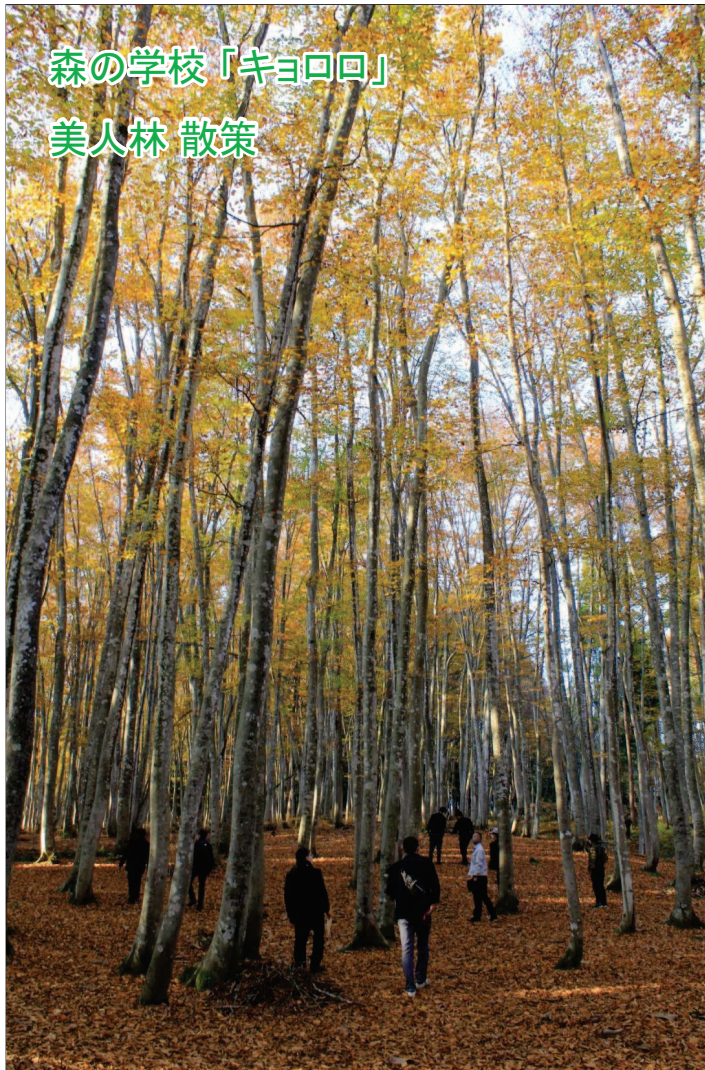


松之山温泉街 散策



森の学校「キョロロ」

美人林 散策



北陸本部 活動報告

活動紹介 冬の講演会

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

令和4年度 冬の講演会 「ケミカルチェーンが繋ぐ循環型社会と企業価値」

参加者 36名（現地会場 13名 リモート 23名）

2023年 2月 18日（土）
現地開催・リモートのハイブリッド方式

三菱ガス化学様が取り組む **SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)** に関してご講演いただきました。日本を代表するエネルギー開発地域である新潟を拠点として、長期的な視点による持続可能な循環型社会を目指す取り組みは、これからSXに取り組む北陸地域の技術者にとっての指針となるような貴重な講演となりました。

◆講演①

「三菱ガス化学(株)および新潟工場のご紹介」

◆講演②

「三菱ガス化学(株)新潟工場 **カーボンニュートラル** の取り組み事例」



三菱ガス化学 株式会社 様 新潟工場 ・ 水素ステーション



北陸本部 活動報告

北陸地方整備局との連携企画案

開催に向けて検討・調整中

「(仮) DXインフラツーリズム in 北陸」

北陸が誇る社会資本(インフラストラクチャー)をオンラインで巡る企画。
現地に赴いた青年委員や施設担当者との中継を繋ぎ、臨場感ある施設見学を実現するとともに、DX(デジタル・トランスフォーメーション)による変革事例を紹介しします。

連携・共催

北陸建設業界の担い手確保・育成推進協議会 様

日本技術士会員をはじめとした技術士・士補への案内だけでなく、北陸建設業界の担い手確保・育成推進協議会所属の学生・若手技術者に企画発信していただき、Engineerの重要性・素晴らしさをPRする。



北陸のダイナミックなインフラを巡る

[写真提供:北陸地方整備局様]



大河津分水路 (燕市)



国道289号八十里越 (三条市)



国道8号新潟バイパス (新潟市)



伏木富山港 (射水市)

中部本部
青年技術士交流委員会
2022年度活動報告/2023年度活動計画

中部本部 青年技術士交流委員会
委員長 嘉田 善仁

2022年度の活動報告

2022年度の中部本部青年の取り組み（振り返り）

・新体制での活動

- ・委員長交代後2年目の活動
- ・前年度の成果を活かしつつ、ブラッシュアップ

・例会決め大会実施による年間計画の立案・実行

- ・委員会内で年間計画を合意し活動→反省点は2023年度活動に反映

・終息するコロナ禍での研鑽方法（例会運営）の確立

- ・F2Fでの例会運営の増加
- ・オンライン開催が普通になったことによる新規参加者の増加

3

新体制での活動（振り返り）

・運営委員会後に『建設的な雑談』の時間を創設

テレワークで人に会わず、飲み会もできない状況下で、
「心のオアシス」の役割

・例会マニュアルを活用した例会企画・運営

担当者が不明点を抱え、質問をしたり、質問への回答を待つことが減り、
円滑な企画・運営を実現

4

・新体制での活動（振り返り）

・良かった点

- ・年度前半は計画に従い、例会を企画・運営の準備、実施ができた。

・反省点

- ・運営委員の生活環境の変化に伴い、活動参加率が変化するために一部の例会担当者に不規則に高負荷をかけてしまった。

【要因】 ・運営委員年齢層3,40代は、社内において役割・負荷変動の大きな時期。業務は増大するが、一部の部門を除き、技術士活動に対する社内の批判も存在。
・技術士資格の恩恵が、家庭へ還元されにくい。

【対策】：常に活動参加という過去の認識を破棄。流動的な参画も良しとする。

→早めに参加可否の確認を行い、早期対応を図る。

これまでの情報・連絡展開スタイルのメールからLINEへ変更し、

気軽・早期に情報の確認、サポートメンバーの展開をできるように心がける。

5

例会運営の実績（振り返り）

2022年4月例会 11名参加



「プレゼン企画「第2回ビブリオバトルWITH北海道本部」

テーマは「技術と心の豊かさ」にしました
チャンプ本は、「天空の川」
(関正和 著、北海道丸山さんより)

**コロナ禍で得たノウハウ：WEB方式+会議室
地域の距離を超えて開催**

2022年8月例会 8名参加



「名古屋市内の浄水場見学」

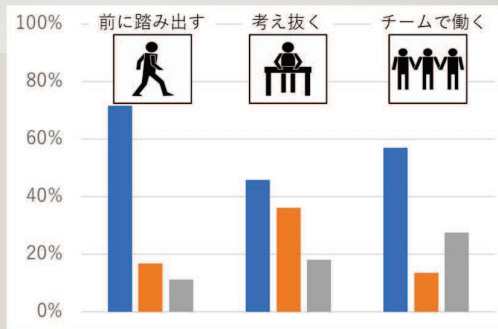
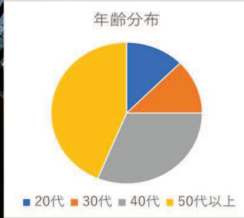
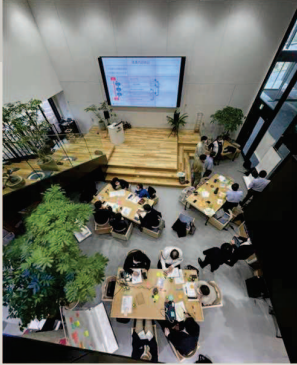
名古屋市内の浄水場の内、
鍋屋上野浄水場を見学。

コロナ終息後の本格的な見学会

6

例会運営の実績（振り返り）

2023年3月例会 16名参加



「全国大会で実施予定の仕掛学をテーマとしたワークショップ」
講師：BIPROGY株式会社 齊藤哲哉様

技術士のリカレント教育にフォーカスし、
社会人基礎力を基にした評価系により
例会の効果測定を実施した。

全国大会を視野に入れた例会・WGも精力的に開催

2023年度の活動計画

2023年度の中部本部青年の取り組み（計画）

・全国大会（2023年11月）に向けた準備

- ・ 前夜祭、分科会、懇親会、テクノの企画
- ・ 全国大会（奈良・関西/2022年10月）にて概要をご案内予定

・技術同好会活動による研鑽の活性化

- ・ 同好会主催の例会の開催
- ・ 例会改革リーダーによるサポート/フォローの強化

中部本部メンバー（2023年度）

- ・ 委員長～顧問 : 17名
- ・ 運営委員 : 2名

役割変更委員

- 成田 副委員長 → 委員長
- 青山尚 委員 → 副委員長
- 市位 委員 → 副委員長
- 久保田 → 新規委員
- 小島 → 顧問
- 嘉田 委員長 → 顧問

役割	特命	氏名	任期
委員長	委員会運営、全国大会 科学教育、規約管理	成田 尚宣 生物工学	新任 13代
副委員長	委員長代行、デジタル化推進	中村 将士 金属	再任
副委員長	例会企画	青山 尚弘 機械(修)	新任
副委員長	例会企画、試験支援	市位 卓久 機械	新任
委員	例会企画	加藤 潤哉 電気電子	任期2年目
委員	例会改革SubL	中川 勝統 衛生工学	任期2年目
委員	例会企画、CPD委員会、データ管理	加藤 昭久 機械	任期2年目
委員	例会企画、修習技術者支援、 会計	青山 浩之 建設、 上下水、総監	任期2年目
委員	例会企画	熊澤 貴弘 経営工学	再任
委員	交流会企画	三島 孝朗 機械(修)	再任
委員	例会企画、全国連携	久保田 翔哉 衛生工学	新任
委員補佐	例会運営補助、修習補助	平野 健二郎 環境	任期2年目
委員補佐	例会運営補助、WEB管理	秋山 幸之朗 機械(補)	再任
顧問	運営相談	嘉田 善仁 機械	任期2年目 12代
顧問	運営相談	石川 智康 情報工学	任期2年目 11代
顧問	運営相談	高瀬 春之 経営工学	任期2年目 10代
顧問	運営相談	小島 茂樹 建設	新任
運営委員	例会推進	木村 琢磨 電気電子(修)	再任
運営委員	例会推進	宇佐美 英明 農業(修)	再任

5. 2023年度 活動計画

1. 活動方針

活動スローガン

ふるわせろハート！ 燃え尽きるほどヒート！！

活動目標

『おもしろい！』『交ぜて！』と言われる企画

自分の楽しい × 人の楽しい を企画・実現する場

やりたいことを実現できる場の提供

今年は全国を舞台にできる10年に一度のチャンス！

壁のない新たな出会いの提供

職場、家庭、、だけではない、もう1つの居場所で在ろう

5. 2023年度 活動計画

1. 活動概要

活動概要

▶ 全国大会（愛知2023 Re:BOAN）

⇒全国に向けて独立青年の息吹を感じる“交流”企画を開催

・分科会・大懇親会・テクノツアーが一通貫した革新的な全国企画

▶ “やり方”でなく“見方”を変える

⇒そこにつながる多くの学び同好会（WG）開催 +α

（建設WG、製造WG、IT活用WG、仕掛学・科学教育WG等）

ある農家の人の言葉

「小さい変化を求めたら、“やり方”を変えればいい

大きな変化が必要なら、“見方”を変えなければ」

5. 2023年度 事業計画

2. 活動体制

例会体制

青年技術士交流委員会

幹事会(委員会)

例会内容計画、中部本部連携、
全国大会準備

例会

総会、CPD例会、見学会、勉強会
中部本部・他地域とのコラボ例会

技術同好会

自主的なワーキング活動、全国大会への参画

地域交流

他地域青年との連携（拡大委員会、日韓等）

まとめ

ふるわせろハート！

燃え尽きるほどヒート！！

発表おわり！

近畿本部 青年技術士交流委員会 2022年度活動報告／2023年度活動計画

近畿本部 青年技術士交流委員会
委員長 藤内 洋

近畿本部 青年技術士交流委員会

所掌事務および主な業務

青年技術士層の相互交流、研鑽、社会貢献

委員長： 藤内 洋 (機械、総合技術監理)

委員： 高岡 直樹 (化学)

竹市 雄作 (船舶・海洋)

坂東 大輔 (情報工学)

藤本 喜敏 (機械、総合技術監理)

畠中 祐二 (機械)

事務局委員: 河野 千代 (建設)



主な活動 (近畿本部への届け出)

近畿青年技術士懇談会の活動支援

2023年の活動は主に「全国大会」の準備

第48回 技術士全国大会 第4分科会 未来社会への技術監理

10月29日（土） 9:30～12:00

場所：ホテル日航奈良 5F「天空」



当日の会場の様子

「未来社会への技術監理」というテーマ、「わたしの〇〇マネジメント」というサブテーマで予稿をいただきました。

「情報リテラシー～「FACTFULNESS」を通して考える」
北海道本部青年技術士交流委員会 副委員長 長内 克真 様

「走り続ける技術監理としての人材育成」
北陸本部青年技術士交流委員会 副委員長 石田 謙介 様

「わたしの人間行動に関するマネジメント」
中部本部青年技術士交流委員会 副委員長 中村 将士 様

「マネジメントのあり方について」
四国本部青年技術士交流委員会 副委員長 佐藤 悦史 様

「わたしのバリューマネジメント」
九州本部青年技術士交流委員会 委員 吉原 育弘 様

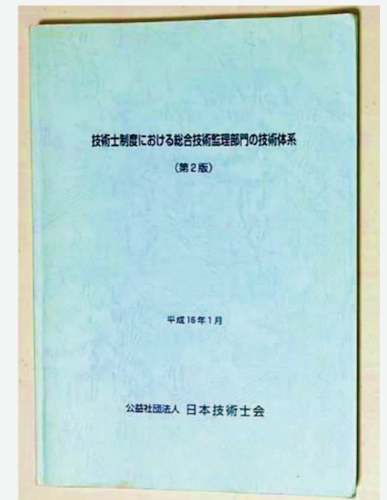
「新ヒヤリハット報告を用いた現場における合理的な安全管理について」
統括本部青年技術士交流委員会 委員長 河野 恭彦 様

どんなイベントだったか

未来社会の技術士のため、今後10年間の理想の技術士像をイメージし、それを実現するのに必要なスキル、学習課題について意見交換し、「総合技術監理 キーワード集」に載せたいキーワードをみつけ出す。

当日のプログラム

1. 進め方の説明
2. 自己紹介・アイスブレイク
3. 10年後の技術士像
4. そのために必要なスキルは？
5. 具体的にはどんなスキルが？（成果物）
6. ふりかえり



青本

【運営上の心配】

第4分科会は「青年」のCATEGORYになっていたが、年配者の申込は制限をしなかった。知らない人同士が集まって、いきなり議論して話がまとまるのだろうか。
→話し合いのルールを必ず見えるところに掲示。

精密より親密に

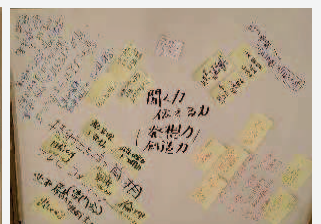
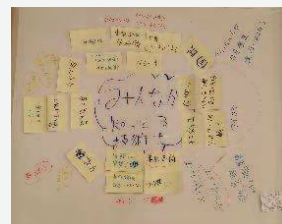
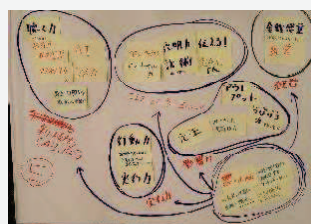
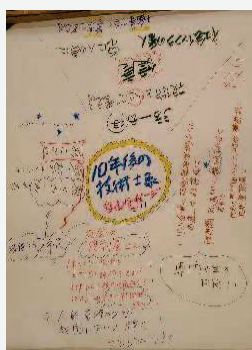
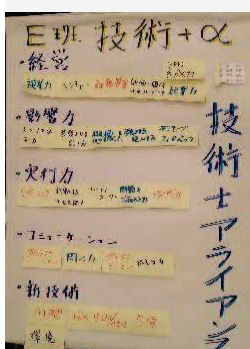
細かなこだわりも大事、でも今日は楽しい場にしましょう

正解より可能性を

違いに過敏にならず、どんどん意見を出しましょう

独壇場よりアライアンスで

一人で話し過ぎず、みんなで意見を出し合いましょう



集まったキーワード

ワイガヤ、エデュターテイメント、MC力、存在力、ブランディング、マネタイズ、チャレンジ精神、グローバル人材、エンターテイメント性、エンターテイメント能力、メタバース、テクニカルアテンドAI、グローバルコミュニケーション、メタエンジニアリング、エンジニアリングダイバーシティインクルージョン、情報発信力、メタバース空間における技術士、先端技術管理、笑いをとる能力、アライアンス、技術士アライアンス、コミュニケーション、企業力、ファシリテーション、AI、困りごと相談室としてのメタバース、引き出す力、質問力、信頼力、プレゼン力、IT力、稼ぐ力、求心力、多様なアイデンティティ、傾聴力AI倫理、AIリテラシー、量子暗号、パスワードレス、生体認証、メタバース、アバタ、M/Mインターフェイス力、スマートカントリー、デジタル推進委員、妄想力、相手の理解力に合わせて話す力、褒める力、タレント力、ステークホルダー・アセスメント、3次元問題解決思考(水平・垂直・奥行の発想で解決)、未来予測管理、技術史の理解、非認知能力、世界史、宗教、3つのマネジメント(アート、クラブト、サイエンス)、医工連携、バーチャル社会、仮想通貨

**情報発信やコミュニケーション、社会科学
的な考察に関するものが多かった。**

近畿 青年技術士懇談会 のご紹介



●詳しい情報や今後の予定→
<http://www.seigikon.jp/>
次回6月23日(金)
19:00~@大阪

注意

近畿では、「近畿青年技術士懇談会」略称「**青技懇**」が
青年層の技術士の活動の本体です。

→次「**青技懇**」の2022年活動を一覧で紹介します。

開催月	開催日	曜日	形式	演題/講師	講師	開催場所	例会			懇親会	備考
							合計	会場	Web		
4月例会	4月23日	土	総会	2022年度総会 (活動報告・幹事交代等を審議。)	-	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	33	8	25	-	定年退任 幹事の記 念講演
			講演	『維持管理?いつも何してるの?』見えない仕事	原口 宣明 技術士 (上下水道)						
			講演	圏芸に学ぶ組織と人材育成	弦牧 篤 技術士 (金属)						
5月例会	5月27日	金	講演	メンタル強化の効果的手法と働き方改革	石塚 典子 氏 臨床心理士・公認心理師・博士(医学)	Webリモート (Zoom)	34	-	34	-	新型コロナ 感染拡大 状況を受け てWeb のみで実施
			講演	技術部門におけるメンタル強化策	前野 聖二 氏 ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ 技術 統括部テクニカル・コーディネーター(元業務 管理部長・人事担当)、技術士(化学)						
6月例会	6月24日	金	講演	東南アジアの水事情	西村 拓朗 技術士 (上下水道)	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	37	18	19	16	
7月例会	7月22日	金	講演	福島第一原子力発電所事故後のウェブサイト「専門家が答える暮らしの放射線Q&A」の活動内容分析と得られた教訓;この経験を未来に伝承するために	河野 恭彦 技術士 (原子力・放射線)	Webリモート (Zoom)	28	-	28	-	講師が遠 隔地在住 のため Web実施
8月例会	-	-	FT	新型コロナウイルス感染拡大状況を受け、受け入れ先から受け入れ不可との連絡があり、中止	-	JR貨物 吹田操車場	-	-	-	-	
9月例会	9月30日	金	講演	製造業におけるサステナビリティ経営の実践について	村澤 佐保里 氏 ISO認証機関 EMS主任審査員、公 害防止管理者 (水質)、環境省登録 環境カウンセラー)	大阪市立総合生涯学習センター 第4研修室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	35	13	22	-	
10月例会	10月21日	金	講演	製造業におけるデータ活用推進	小田垣 拓也 氏 技術士(機械)、QC検定1級	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	36	14	22	14	
11月例会	11月26日	土	WS	体験!プロジェクトマネジメントの世界標準"PMBOK"としての技法	藤本 喜敏 技術士 (機械、総監)、PMP	大阪産業創造館 6階 会議室C (堺筋本町) + Webリモート (Zoom)	21	15	6	13	
12月例会	12月18日	日	講演	アウトソースとのWin-Winについて	狩野 陽 技術士(機械、金属)	大阪市立総合生涯学習センター 第3会議室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	24	10	14	10	
			講演	光アップコンバージョンフィルム開発秘話〜ゼロからのスタート〜	森 岳志 氏 和歌山県						
1月例会	1月27日	日	講演	電気の歴史と明るい未来	鈴木 真吾 技術士 (電気電子)	大阪市立総合生涯学習センター 第4会議室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	22	12	20	10	
2月例会	2月17日	金	講演	製造現場のリスクアセスメントとリスク低減	福井 孝男 技術士 (機械)	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室 (大阪駅前第2ビル5階) + Webリモート (Zoom)	22	10	12	9	
3月例会	3月25日	土	講演	おとなの理科実験教室: ストームグラス〜物質の溶解析出に関する物理化学現象〜	和田 直之 技術士(化学)	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室 (大阪駅前第2ビル5階)	17	17	-	11	Worksho pのため海 上開催の みで実施
			講演	おとなのプログラミング教室: Raspberry PiPicoではじめるプログラミング & 電子工作	中道 大介 技術士(電気電子)						

*リモート開催の場合は懇親会は開催せず、代わりに例会終了後30分程度、「意見交換会(参加者自由参加のフリートーク)」を30分程度実施した。

「令和5年度(2023年度)総会 議案書」より

近畿青年技術士交流委員会 2023年度活の方針

<p>KEEP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か青技懇ではやっていないこと ・他地域本部へのゲスト依頼 	<p>TRY</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山方面でのイベント ・近畿本部 研修委員会とのコラボ
<p>PROBLEM</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の組織運営 ・青年委員メンバーでの話しあい機会 ・パワー不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術士外組織との交流再開 (中小企業診断士や、学生団体) ・組織変革

中国本部活動報告

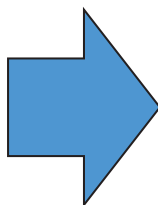
2023年6月17日
中国本部 青年技術士交流委員会
副委員長
双和 祥二（機械部門）



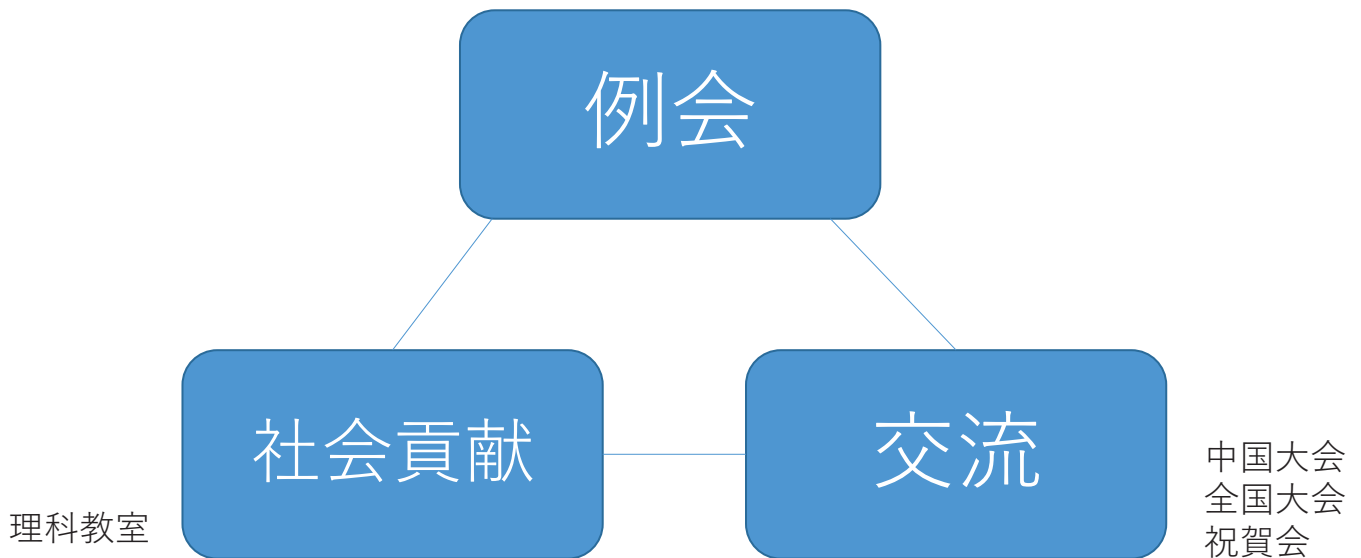
新委員長の双和です よろしくお願ひします！！



9代目 新渕



10代目 双和



20周年イベント準備

朝活、夜活

総監朝活
DX夜活

例会 2022年度

懇親会再開

月	内容
4月	青技交例会の振り返り (第201回例会)
5月	数字で語る廃棄野菜の実態
6月	野球の神のサイコロを実装する
7月	子供向けプレゼン技術
8月	道路事業の三次元設計
9月	中国大会
10月	まちづくりのアイデア発想
11月	呉高专学生研究発表
12月	読書会 (Active Book Dialog)
1月	理屈ではない3Sから始まったDX
2月	多様な視点から技術者スキルを俯瞰する (小ネタ集)
3月	ハッカソンでの経験と技術士資質への展開



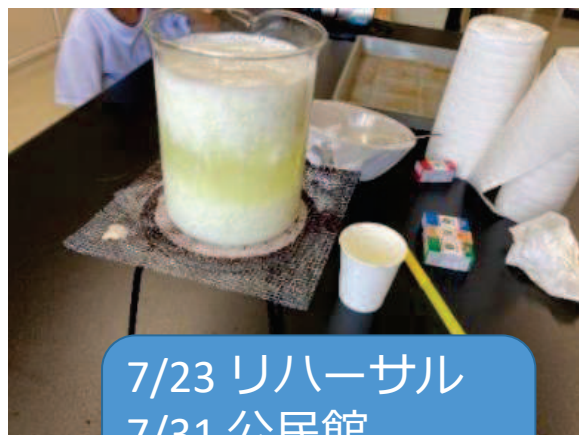
6月例会

外部講師

栄譜情報システム

Webサイト版 栄譜情報システム Web

理科教室2022 プラスチック



牛乳からプラスチック

7/23 リハーサル
7/31 公民館
9/5 特別支援学校

プラスチックのとくちよう (すごいところ)

いくつあるかな

かるい

いろいろなかたちを作れる

サビない・くさらない



つよい

たくさん作れる

やすい



13



やすく、たくさんつくれるけど
プラスチックごみが地球をよごしてる

中国大会2022 in尾道 2022年9月17日



2023年は9月9日に
島根で開催予定

中国本部 青技交は来年20周年を迎えます！！

イベント企画中！

10周年はこんな感じでした。



https://www.ipej-chugoku.jp/seinen/10syunen/10syunen_index.html

各県支部活動報告

【山口県支部】 理科教室 ぽんぽん船を作ろう

令和4年度 山口県支部青年技術士交流委員会活動報告

内容	日程	場所	対象	人数	参加講師
理科教室	8月4日	大内地域交流センター	小学1年生～3年生	15名	技術士 8名
	10月14日	小野小学校	小学4年生	15名	技術士・技術士補 8名



【鳥取県支部】

鳥取大学工学部 技術者倫理講義



・ 2023年6月28日 技術者倫理の授業

- ・ 西尾 尚（アサヒ）：技術士制度および活動
- ・ 福元和孝（株式会社ワーパス）：建設コンサルタントについて
- ・ 伊藤洋介（シンワ技研コンサルタント株式会社）：技術士の業務経験談

【鳥取県支部】

修習等セミナー



・ 2023年4月9日 修習等セミナー

- ①午前の部：10：00～12：30 「技術者としての個別課題の解決手法に関する講演」講師 鳥居直也技術士（建設・応用理学・環境・総合技術監理部門）
- ②午後の部：13：30～15：30 「技術者としての総合的な課題の解決手法に関する講演」講師 鳥居直也技術士（建設・応用理学・環境・総合技術監理部門）

【島根県支部】

島根県技術士会 青年部

学生との交流企画のご紹介

島根大学

課題解決手法を教える講師役

土木のお仕事説明＆相談・質問

松江高専



イベント用に「島根県技術士会ピブス」作成しました
今後いい意味で目立つよう、活用していきます！

なんでも光る

岡山県

- OKAYAMA -



鬼滅の刃風LEDブレード

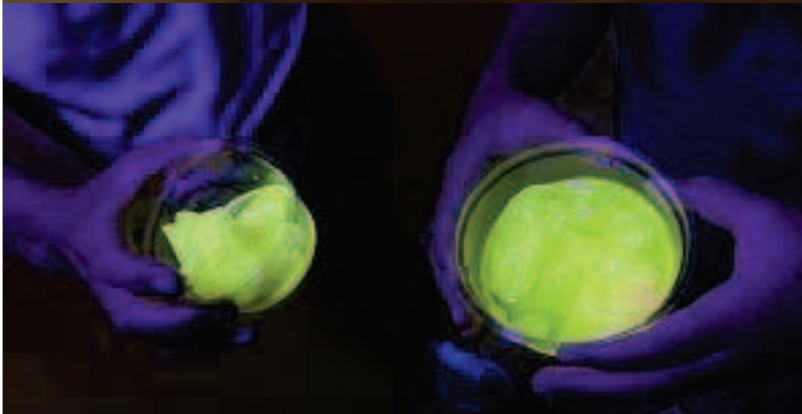


なんでも光る

岡山県

- OKAYAMA -

理科教室のご紹介



光るシャーベット

【令和4年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすこと。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士としての幅広い能力向上
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流
- 【方針3】 地域との交流を通じた社会貢献

【活動方針1：青年技術士としての幅広い能力向上】

- 四国4県の特徴を活かしたセミナー・見学会を開催
- 科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施

1) 高知（2022. 5. 14実施：会場＋オンライン方式）

テーマ：『「働く」について考えよう』

講師：株式会社ケンジン 山中崇之 氏

2) 香川（2023. 1. 28実施：会場＋オンライン方式）

テーマ：『大川村×地域づくり×近現代史』

講師：大川村さくら祭り実行委員会 事務局長 和田将之 氏

3) 徳島（2023. 3. 25実施：会場＋オンライン方式）

テーマ：『データを活用したまちづくり』

講師：徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 渡辺公次郎 氏



【令和4年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

【活動方針2：四国地域の青年技術士相互の交流】

- 四国各県でのイベント開催時には、開催地に限り少人数での集合形式を採用し、対面での交流を再開。
- イベント後の対面での懇親会も少しずつ再開。

【活動方針3：地域との交流を通じた社会貢献】

- かがわけん科学体験フェスティバルが3年ぶりに開催され、内容や技術士ノートを一新して出展。技術士の知名度向上や科学を志す若手育成を実施。
- 令和4年度には、高知県大川村のさくら祭り実行委員会との交流を図り、地域課題に関する相談に乗り、課題解決に向けた活動を開始。

【構成メンバー（2023. 05. 31時点：23名）】

委員長：白鳥実

副委員長：佐藤悦史、中根久幸

委員：池田一郎、池谷聖、伊東輝博、太田昌秀、大西真人、
岡林弘憲、片岡寛志、黒川修吾、谷野宮竜浩、土居範昭、
長田朋大、西沢尚之、西村紘寛、東豊一、松田秀和、
中村希久帆、中山秋人、藤川健太郎

委員補佐：瀬戸丸仁、武市信



対面での懇親会も少しずつ再開



令和4年度のかがわけん科学体験フェスティバルの様子



【令和4年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

①科学体験フェスティバルでの出展

令和2～3年の開催を休止していた『かがわけん科学体験フェスティバル』が3年ぶりに開催された。令和4年の出展に当たっては、四国本部の男女共同参画推進小委員会との合同とし、出展内容をこれまでの「消波ブロックの石膏ミニチュア作成」から「テンセグリティ工作」に変更した。また、我々のブースに参加いただいた方々に配布する技術士ノートのデザインも一新した。当日は、1日で約300人の子供達に会場いただき、その保護者を含む方々に「技術士」を知っていただいた。



テンセグリティの例（右をフェスティバルで作成）



技術士ノート

②高知県大川村との交流

高知県大川村は、四国の水瓶である早明浦ダムの水源地にある村である。ピーク時には約4,000人いたといわれる地域の人口は、鉱山の閉鎖やダム建設により大幅に減少し、現在は約360人になっている。離島を除いて人口が2番目に少ない自治体である。一時は、後継者不足から村議会の存続も危ぶまれたこともある。その村の地域づくりに尽力されている方々と交流し、地域課題を伺うとともに、技術士として課題解決に協力したいと考え、活動を開始している。



大川村での交流の様子



【令和5年度】活動予定

令和5年	4月
	5月
	6月
	7月
	8月
	9月
	10月
	11月
	12月
令和6年	1月
	2月
	3月

※ その他、四国本部の他委員会の活動に協力・参加し、部門や年代を縦断・横断した交流を図る。

7月1日 第34回青年技術士交流会（愛媛県）

9月 第35回青年技術士交流会（高知県大川村）

10月6～7日 第27回西日本技術士研究・業績発表年次大会in高松

11月 第36回青年技術士交流会（徳島県）
かがわけん科学体験フェスティバル

1月 第37回青年技術士交流会（香川県）



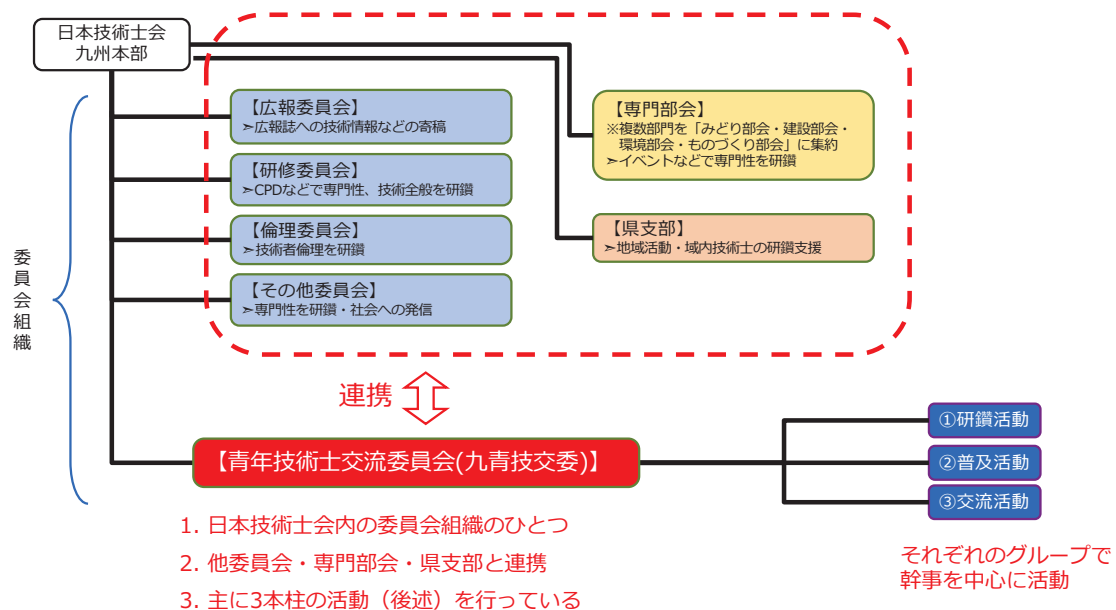


2022年度 拡大委員会 各地域本部交流会
2023年6月17日

2022年度 九州本部活動報告

公益社団法人 日本技術士会 九州本部
青年技術士交流委員会 委員長
技術士(情報工学) 山田 暁通

九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介 九州青年技術士交流委員会とは？



九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

活動の三本柱と体制



- CPD
- 見学会
- 夏休み自由研究教室
- 公開講演会
- 研鑽会 など

①研鑽活動
(渡辺幹事)



研鑽柱

- 技術士制度説明講義
- JABEE認定支援活動
(大学・高専等での講義)
- 技術者サロン
(女性技術者・女子学生懇談会) など

②普及活動
(大森幹事)



普及柱

- 合格祝賀会
- 納涼会
- 忘年会
- ゴルフ大会 など

③交流活動
(大川幹事)



交流柱

九州本部 2022年度活動報告

全イベント



①	合格祝賀CPD・懇親会	2022.04.16
②	ゴルフ大会	2022.06.18
	拡大委員会 への参加	2022.06.25
	全国大会@奈良 への参加	2022.10.28～29
③	大学・高専での技術士制度の説明会	2022.11～2023.01
	先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2022 への参加 (九州本部のブース展示に協力)	2022.11.09～10
④	研鑽会 (ミニ講演会) + 「望年会」	2022.12.17
①'	合格祝賀CPD・懇親会	2023.05.17

前年度の活動報告で記載済みだが、年度の整合性をとるため再掲



本来は2023年度の報告分のような気もしますが、新たにワークショップの導入を試みた話を紹介

※その他：上記開催に向けた運営委員会(隔月)、修習技術者支援活動(メール適宜)
※夏休み子供自由研究教室、テクノツアー等の活動再開が力及ばず……

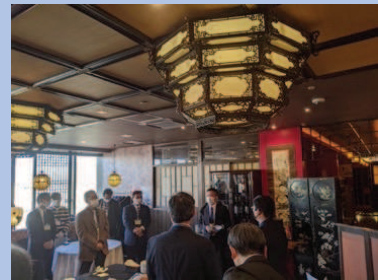
九州本部 2022年度活動報告①

[2022.04.16] 合格祝賀CPD・懇親会(研鑽G/交流G)



再掲

- ・コロナ対策を講じつつ、3年ぶりの懇親会開催
→ リアルの良さを再確認
- ・新規メンバーも獲得



- ・昨年に引き続き、Webの併用
- ・講演
 - 1) 「つながり」を意識すれば世界が変わる
桜島ミュージアム館長 福島大輔 博士
 - 2) 公益社団法人 日本技術士会の活動
日本技術士会九州本部 佐竹芳郎 本部長
 - 3) 成長し続ける技術者を狙って
日本技術士会九州本部 勇 秀忠 氏

九州本部 2023年度活動報告①' [参考]

[2023.05.13] 合格祝賀CPD・懇親会(研鑽G/交流G)



演目

- 1) 福岡市における地下鉄七隈線延伸開業とまちづくりの展望
福岡市交通局建設部 (開業当時) 山本智之 技術士
- 2) 教えて！技術士の先輩「技術士の社会貢献」
【ファシリテーター】九州青年副委員長 永岩 研一
 - ・全国大会(奈良)の経験を参考に、新合格者や様々な部門・世代の参加者全員が取り組む「合格祝賀ワークショップ」を実施
 - ・概ね好意的な評価が得られ、祝賀会での話も盛り上がったよう
 - ・会場で作成された12班の模造紙を公開中 (QRコード)



九州本部 2022年度活動報告②

[2022.06.18] ゴルフ大会(交流G)



青年OB率が若干高めめのゴルフ隊

グリーンで
交流を深める→



ゴルフ柱
大川幹事↓



九州本部 2022年度活動報告③

[2022.11~2023.01] 技術士制度説明会 (普及G)



- ・大学/高専5校にて、技術士制度の説明会 (大分高専、九州産業大学、崇城大学、鹿児島大学、第一工科大学)
- ・COVID-19も落ち着き、対面実施前提に戻った

九州産業大学
情報技術系 情報システムコース
JABEE (日本技術者教育認定機構)
技術者教育プログラムとして認定!

情報システムは、2009年度学制開設と同時にJABEE認定に向けた準備を開始し、教育システムの改善に取り組みできました。

2009年度にJABEE認定審査を受け、その結果「情報システム」が「情報技術系」で認定されました。

認定分野は「情報及び情報関連分野」です。JABEE認定分野は、認定分野に属する各専攻が認定されています。



九州本部 2022年度活動報告④

[2022.12.17] 研鑽会(ミニ講演会) + 望年会(忘年会)



本日の内容

- ドローン関連の動向についての(素人)調査発表
 - 技術よりビジネスな配分で
- キーワード
 - 無人航空機(USV/UAS)
 - FC、ESC
 - 航空法(& 小型無人機等飛行禁止法)
 - 100g
 - 2015年、2020年6月20日
 - レベル4(有人地帯での目視外飛行)



研鑽会：「ドローンビジネスの現状について」
・2022年12月5日の改正航空法施行にあわせて
山田が以前JISTAで発表した内容をアップデート
・既に現場導入済みの建設系技術士から鋭い指摘や
フィードバックが得られるのは青年ならではの

望年会：
・約3年ぶりのリアル会場忘年会
・「リアル会場はサイコー」という意見が多かった

九州本部 2023年度に向けて



大森さん、副委員長に就任



山田委員長



永岩副委員長
(倫理委員長)



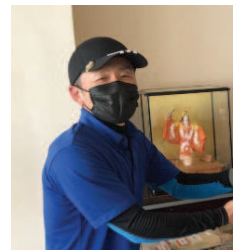
大森副委員長
兼 普及G幹事

普及柱



渡辺 研鑽G幹事

研鑽柱



大川 交流G幹事

ゴルフ柱

九州本部 青年技術士交流委員会の活動紹介

進行中の企画（2023年度）



- **[07/末]新規合格者向けのテクノツアー(佐賀)**
 - 施行現場視察、[さが水ものがたり館](#)視察 など
- **[08/04]夏休み自由研究教室(北九州) ※日付確定**
 - 目的：子供達の科学や技術への興味関心を育てる
 - ゼンリン共催で、[ミュージアム](#)見学や地図作り
- **[未定]技術者サロン九州**
 - 女性技術士による女性技術者・女子学生との懇談会
 - 男女共同参画推進委員会(統括本部)の「技術サロン」にオンラインで参加出来るなか、地域性で差別化を模索

活動年鑑 18
青年技術士支援委員会